

報告書

多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2018

選考会

2018年9月8日（土）

会場 帝京大学 八王子キャンパスソラティオスクエア

本選

2018年12月15日（土）

会場 帝京大学 八王子キャンパスソラティオスクエア

<2018年度 スポンサー企業>

NDK 日本電子工業株式会社

 京西テクノス株式会社

 **東洋システム株式会社**

M&K エム・ケー株式会社

 **ナジック**
株式会社 学生情報センター

 **アトセンス株式会社**

はじめに

多摩地域には持ち前の豊かな自然環境、芸術・文化に加え、多数の高等教育機関、研究開発企業が集積し、ハード・ソフト両面で多様な資源を有しています。しかし、近年では都心回帰の動向もあり、多摩地域全体を見据えた魅力づくりを検討すべき段階にきています。

中心市街地の商店街の衰退、生活圏の広域化、高齢社会の進展—全国各地域が直面している地域の課題が多摩地域においても顕在化してきています。それは、この地域が首都圏の中で“課題最先端地域”であることを意味しています。

「多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション」では、若者の視点や感性を活かした、今ある多摩地域の魅力を発信できる企画や、今までにない多摩地域の新たな価値を創造して、多摩地域が抱える課題を克服することで、未来に活力を与えることができる「実践的」試みや提案を募集してきました。

学生にとっては、フィールドワークを実践し、実学としてまちづくりを考えるとともに、行政や事業者の前で自らの研究成果を広く発表する機会になっています。

住みやすく、活力あふれる多摩の姿を実践的に描いたプランが数々発表されたことに日ごろの学生の活動、指導されている教員の皆様のご活躍の賜物です。このコンペティションを末永く育てていただくと同時に貴重な学生の発表の場になったことを喜ばしく思います。

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩

目次

はじめに.....	2
-----------	---

第1章 実施要領

5

第2章 本選

9

出場団体 / 審査委員.....	10
------------------	----

開会挨拶 / 審査委員長挨拶.....	12
---------------------	----

第3章 本選・プレゼンテーション概要

15

最優秀賞

創価大学 安田ゼミ Team owl 「多摩に住む発達障害者が活き活きと働けるまちづくり」.....	16
--	----

優秀賞

杏林大学 久野ゼミ 多摩 OMOTENASHI 班 「産学連携 YOKOSO NIPPON Project」.....	30
---	----

専修大学 大崎ゼミナール 「永山団地アクティブ大作戦」.....	46
----------------------------------	----

奨励賞

杏林大学 久野ゼミ 八王子 YUKATA 班 「COOL HACHIOJI YUKATA FESTIVAL」.....	60
---	----

中央大学 商学部3年 根本ゼミ 「福祉バスが運ぶ知識と記憶」.....	78
-------------------------------------	----

帝京大学 湯川ゼミナール 子育て班 「みんなでつくろう！子育てタウン」.....	88
--	----

第4章 選考会

97

審査委員 / 出場団体.....	98
------------------	----

まちづくり第1・ものづくり部門 S517教室.....	99
-----------------------------	----

まちづくり第1・ものづくり部門 S518教室.....	109
-----------------------------	-----

まちづくり第2・ものづくり部門 S519教室.....	118
-----------------------------	-----

まちづくり第2・ものづくり部門 S520教室.....	127
-----------------------------	-----

第 1 章

実施要領

多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2018

実施要領

目的

私達が暮らすこの多摩地域は、恵まれた自然に加えて、多くの高等教育機関や研究開発企業が集まり、多摩地域全体を豊かにしています。一方で、近年に見られる都心回帰の影響や商店街の衰退、そして高齢化の加速といった課題が残されています。

今、こうした難題と向き合っていく若者を求めています。学生の視点や感性を活かして、多摩地域の魅力を企画発信し、これまでにない多摩地域の新しい価値を創造して未来に活力を与えることができる「実践的」な企画提案を募集いたします。

学生の皆さんが、まちづくり・ものづくりの手法を学んで成長し、紡ぎだした新しいアイデアで多摩地域全体を「元気」にすること。これが、このコンペディションの最大の狙いです。

本コンペディションでは、課題克服に寄与できることは重要ポイントですが、机上のプランから抜け出してフィールドワークの成果をどのように活かしていくか、「多摩のまちづくり、ものづくり」の新しい挑戦に期待します。

開催日

説明会 2018年 5月19日（土）10：00～12：00

選考会 2018年 9月8日（土）9：00～15：00

本 選 2018年12月15日（土）12：30～18：00

説明会会場 明星大学 日野キャンパス32号館2階206教室（日野市程久保2-1-1）

選考会会場 帝京大学 八王子キャンパスソラティオスクエア 地下2階小ホール
（〒192-0395 東京都八王子市大塚359）

開会式 9：00～9：20 プレゼン 9：30～13：00

審査会 13：30～14：30

本選会場 帝京大学 八王子キャンパスソラティオスクエア 地下2階小ホール

発表 12：30～16：00 審査会 16：05～16：25

エントリーカテゴリー

まちづくり第1部門 スポーツ・観光・文化

まちづくり第2部門 教育・子育て・福祉

ものづくり第1部門 機械・ロボット・ソフト

ものづくり第2部門 農業・建築・景観

発表・審査について

選考会は発表時間10分、本選は15分、それぞれ質疑応答5分、質疑応答10分。学生の提案内容や活動内容を審査し、上位5～6団体が本選へ進む。9月13日（水）までにネットワーク多摩ホームページにて選考会結果発表を行う。

審査の配点（選考会・本選）

- ① オリジナリティ 10点
- ② 現状分析 10点
- ③ 論理的な企画力 10点
- ④ 効果の見通し 10点
- ⑤ プレゼン力 10点

計50点

団体への注意と連絡事項

- ・ 使用データを、8月31日（金）正午までに事務局（office@nw-tama.jp）に提出。
- ・ 本選出場団体には、規定の研究費を授与する。
- ・ 原則、大学担当教員の指導教育の元で活動すること。
- ・ プレゼンで使用するファイルの形式は、Microsoft PowerPoint/(16:9)で使用する。
※会場施設によってファイル形式を（4：3）へ変更する場合があります。
- ・ 発表では事務局が用意するPC（Windows 7）を使用します。
- ・ 期日後や当日のデータの差し替えは、原則不可。
※修正や誤り等については、発表のなかで行うこと。
- ・ 実施報告書作成に伴い、本選出場団体は原稿となる報告書の提出を別途依頼する。
- ・ 報告書の提出期限は平成31年1月11日（金）までとする。（本選出場団体のみ）
- ・ 事務局からの連絡等は団体代表者（学生）のみ行い、代表者を通じて連絡を行う。
- ・ 本選出場団体は、懇親会まで参加とし各審査委員、企業担当者との懇親を図って下さい。
- ・ 最優秀賞の団体は、次年度の開会式に出席しトロフィー返還を行う。
- ・ 発表を通じて事業展開が可能となった団体は、事務局まで報告して下さい。
- ・ 選考会発表時間は（10分）、質疑応答（5分）。本選発表は（15分）、質疑応答（10分）とする。
※タイムオーバーは2点減点。自己紹介等の時間は含まない。

エントリー応募期間

2018年5月21日（月）～2018年7月18日（水）12：00（正午）締め切り

エントリー方法

- ① ホームページからエントリーシートをダウンロード
- ② office@nw-tama.jpへ提出

運営

- 主催 公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
- 協力 関東経済産業局、明星大学、帝京大学八王子キャンパス
- 後援 立川市、八王子市、日野市、小金井市、羽村市、福生市、町田市、多摩市
東京市町村自治調査会、一般社団法人首都圏産業活性化協会

第2章

本選

多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2018

2018年12月15日（土）

会場 帝京大学 八王子キャンパスソラティオスクエア 小ホール

出場団体

杏林大学 久野ゼミ 多摩OMOTENASHI班	八王子市、小金井市、立川市、羽村市、日野市、福生市など
産学連携YOKOSO NIPPON Project 外国人鉄道利用客への対応改善を通じた多摩地域イメージ向上作戦	
杏林大学 久野ゼミ 八王子YUKATA班	八王子市
COOL HACHIOJI YUKATA FESTIVAL 八王子発！産学官連携ゆかた振興プロジェクトの挑戦	
専修大学 大崎ゼミナール	多摩市
永山団地アクティブ大作戦 ～学生の力で多摩に活気を！～	
創価大学 安田ゼミ Team owl	八王子市
多摩に住む発達障害者が生き活きと働けるまちづくり 自覚していない発達障害者が一般雇用で定着できる	
中央大学 商学部3年 根本ゼミ	福生市
福祉バスが運ぶ知識と記憶 ～共働き世帯の負担削減を目指して～	
帝京大学 湯川ゼミナール 子育て班	立川市
みんなでつくろう！子育てタウン 子育て世帯が住みやすいと感じる街づくり	

本選審査委員



田辺 隆一郎氏
八王子商工会議所
会頭



田淵 隆俊氏
東京大学
大学院経済学
研究科 教授



中川 雅之氏
日本大学経済学部
教授



青木 宏氏
経済産業省
関東経済産業局
地域経済部 次長



村山 正道氏
株式会社 立飛
ホールディングス
代表取締役社長



辻 伸敏氏
多摩信用金庫
常勤理事



小林 久恵氏
エム・ケー 株式会社
常務取締役



雨宮 克也氏
三井不動産
株式会社
開発企画部環境
創造グループ長



井上 成氏
三菱地所 株式会社
新事業創造部 兼
街ブランド推進部
担当部長



矢部 俊男氏
森ビル 株式会社
都市開発本部計画
企画部メディア
企画部 部長



木内 基容子氏
八王子市
副市長



細野 助博氏
ネットワーク多摩
専務理事

開会挨拶

ネットワーク多摩 会長
小川 哲生

本日は大変お忙しいなか、お集まりいただき誠にありがとうございます。

第5回目を迎えた当コンペティションに11大学33の団体が出場しました。年々、内容が濃くなり、ここに至るまでには各先生方の激励があり、当コンペティションが開催できた事を感謝申し上げます。

本日は、お忙しいなかお集まりいただいた審査委員の先生方から厳選な審査が行われ、我々もその発表を楽しみにしていますので、よろしくお願いします。

審査委員長挨拶

八王子商工会議所 会頭
田辺 隆一郎氏

今年、最大のエントリー11大学33団体があり、その6団体がこれからの本選です。

学生の皆さんは、思い切って発表をしていただきたいと思います。資料を拝見させていただきますが、それぞれの分野でまちづくり・ものづくりの研究をされたと思います。

多摩地域では、少子高齢化、人口減少、人手不足の大きな問題があります。このコンペティションの発表は多摩地域活性化の非常に参考になります。大変ありがたく感じています。

また、本日の発表で終わるのではなく、実際に活かされて展開されることが素晴らしい事だと思っています。学生の発表は、地域や企業、行政が期待していることだと思っていますので、学生の皆様の発表を大変期待しています。

本選の様子



本選審査委員長挨拶 田辺 隆一郎氏



発表の様子



発表の様子



発表の様子



質問する審査委員



最終審査会の様子



最優秀賞 創価大学 安田ゼミ Team owl



懇親会の様子

第 3 章

本選・プレゼンテーション概要

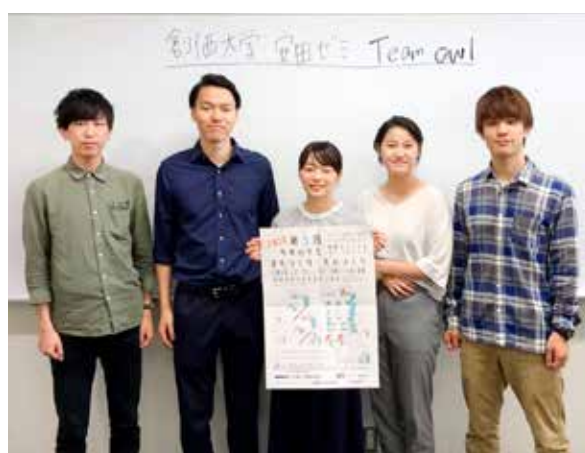
多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2018

創価大学 安田ゼミ Team owl

最優秀賞

多摩に住む発達障害者が活き活きと 働けるまちづくり

自覚していない発達障害者が一般雇用で定着できる



- ◆メンバー 片田明梨、田中駿介、新井修也、出合優果、安井蓮美、松原慧人、小早川桜
- ◆担当教員 安田賢憲

発表概要

発達障害の一つであるADHD（注意欠如・多動性障害）の方が一般雇用でうまく働けていない問題に着目し、彼らが生き活きと働けるまちづくりを目指して活動を開始しました。多摩地域で働いているADHDの方は約3万761人おり、その内、一般雇用で働いている方は74%もいると推定されます。ADHDの障害程度には個人差があり、軽度の場合、就労後まで気付かずに生活し、就労後に様々な業務トラブルを引き起こす場合が少なくありません。そのことが原因でADHD当事者は離職やうつ病などの二次障害に追い込まれる事例は枚挙に暇がありません。どうしたらADHD当事者が生き活きと働けるのか。そのことを探るために、私たちはADHD当事者コミュニティに40回以上訪問し、社会人経験のあるADHD当事者約300人にヒアリング調査を行いました。すると多くの当事者が就労前に自身の特性が職場でどのような問題を引き起こすかを想定できておらず、事前に対策をしていなかったことが判りました。また企業の現状を知るため、多摩地域の企業40社にヒアリング調査を行ったところ「ADHDの特性についてあまり理解していない」との意見が多くありました。これらのことから、ADHD当事者が生き活きと働くためには、第一に、当事者が「自身の得手・不得手によってどのような問題が起こりうるのかを理解し、自身の得手を伸ばし、不得手を補完するための対策を知る」こと、第二に、企業が「ADHDの特性について理解する」ことが重要だと考え、職場を想定した体験型自己分析ゲームイベントを開催しました。

活動の目的

私たちの取り組みの出発点は、チームメンバーの一人の兄弟がADHDの当事者であり、「彼が将来、自分らしく生き活きと働くためにはどうしたらいいのか」といったことを考え始めたことがきっかけでした。彼だけでなく、健常者に比べて離職や二次障害が発症するリスクの高いADHD当事者が自分らしく生きていくことは、多摩地域のまちづくりのビジョンの行動戦略5「障害のある人もない人も共に暮らす地域社会の実現」につながります。私たちは、ADHD当事者の「個性」を発揮することが出来るような、「多様な人が働ける多摩地域の実現」を目的に活動を行ってまいりました。そのために考案したイベントは、ADHD当事者が学生時代に、ADHDの特性に起因する自身の得手・不得手を理解し、対策を知ることで就労後の離職や二次障害発症のリスクを下げ、職場で自身の個性を発揮し生き活きと働けるようになることを目指しています。合わせて、多摩地域の企業に参加してもらい、ADHDの特性についての理解促進を行うことを目指しています。このイベントを通して双方の理解が進み、障害者の地域における生活基盤が整うことで当たり前に働ける社会の実現に貢献したいと考えています。障害に関係なく誰もが仕事を通して社会参加できる「多様な人が働ける多摩地域の実現」に向けて今後も活動していきます。

活動の内容・様子

私たちは「What's your color? ～自分力の発見～」という職場を想定した体験型自己分析ゲームイベントを開催しました。コンテンツは、①事前ナビゲーションシートの作成、②体験型自己分析ゲームの実施、③グループディスカッションでの他己分析、④ADHDの社会人によるトークセッション、⑤事後ナビゲーションシートの作成、⑥多摩地域の企業と当事者との交流、です。このイベントでは職場を想定した体験型ゲームの中で発想力や時間管理能力が試されるなど、ADHDの特性が明らかになる仕掛けが施されています。当事者は自己分析を行うことが出来、企業は当事者の特性を理解することが出来ます。



活動の内容・様子

これまでに9回のイベントを実施し、延べ40人のADHD学生が参加してくれました。イベント後のアンケートでは6割以上が自身の得手・不得手を発見し対策を知ることができたと回答してくださり、「今まで知らなかった強みに気付けるイベントだった！」など、得手・不得手両方の発見に効果があることがわかりました。企業への営業活動においては、20社以上の企業に私たちの活動概要を説明し、情報提供料やイベント参加について確認し続けたところ、株式会社レオパレススマイル様、株式会社キューピーあい様、NTTクラリティ株式会社様の3社の特例子会社が興味を示してくださっており、株式会社レオパレススマイル様とのコラボイベントを2回開催させていただくことができました。

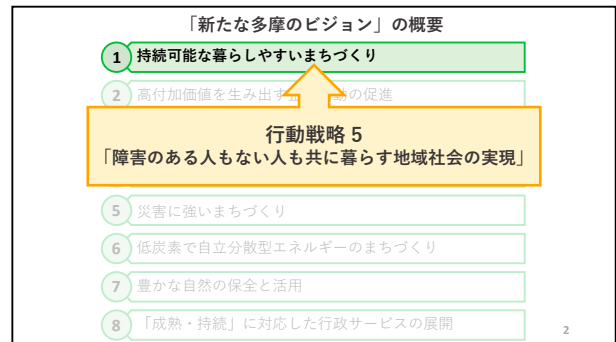


参考文献

- [1] 公共財団法人東京市町村自治調査会「多摩地域データブック」(2017)
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/koyou/doukou/17-2/dl/gaikyou.pdf>)
- [2] 2015年卒マイナビ企業新卒内定状況調査
(http://mcs.mynavi.jp/enq/naitei/data/naitei_2015.pdf)
- [3] 門田行史(国際医療福祉大学病院 小児科 部長 病院教授)「MedicalNote」
(https://medicalnote.jp/diseases/ADHD?utm_campaign=ADHD&utm_medium=ydd&utm_source=yahoo)
- [4] H24.12.5文部科学省初等中等教育局特別支援教育課「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/__icsFiles/afieldfile/2012/12/10/1328729_01.pdf)
- [5] 星野 仁彦(福島学院大学 大学院附属心理臨床相談センター 心療内科医師)「ひきこもりと発達障害」
(<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/hikikomori/handbook/pdf/1-2.pdf#search=%27ひきこもりと発達障害+星野%27>)
- [6] 岡田俊(名古屋大学医学部附属病院 准教授 精神科・親と子どもの心療科医師 医学博士)「ADHDと仕事一向いている仕事、向いていない仕事はある？」
(<https://medicalnote.jp/contents/180112-001-YX>)
- [7] H27.3独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター「発達障害者の職業生活への満足度と職場の実態に関する調査研究」
(<http://www.nivr.jeed.or.jp/download/houkoku/houkoku125.pdf>)
- [8] 発達障害ポータルサイト
(<https://h-navi.jp/>)
- [9] ガクプロ 発達障害のある大学生支援プログラム
(<https://www.kaizen-lab.com/gakupro/univ/>)
- [10] 障害者雇用ドットコム
(<https://syougaisya-koyou.com/mental-disability-timing-measures-929/>)
- [11] 精神医療従事者によるサイコセラピー研究所
(<http://www.allin1.co.jp/service/psychotherapy/hattatu-niji/#i-2>)



1



2



3



4



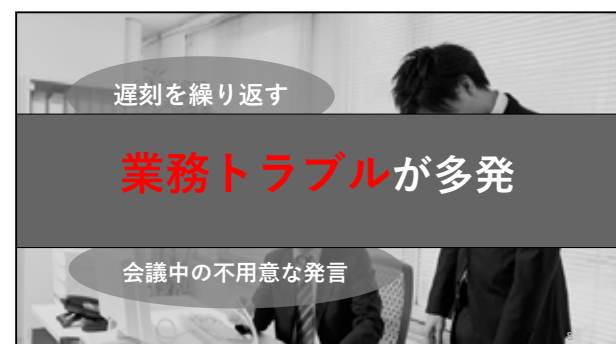
5



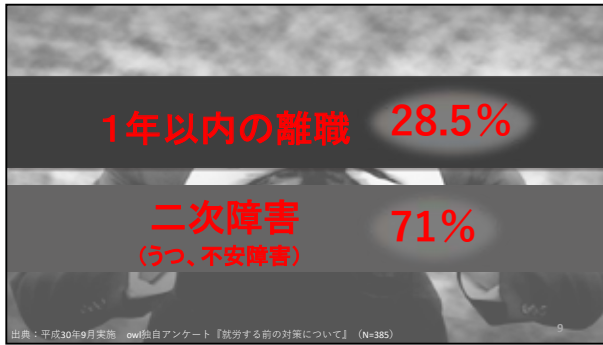
6



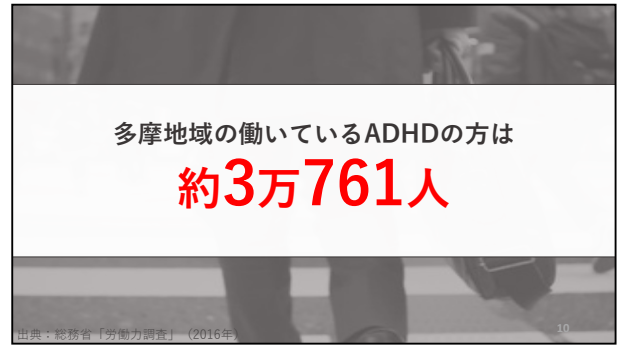
7



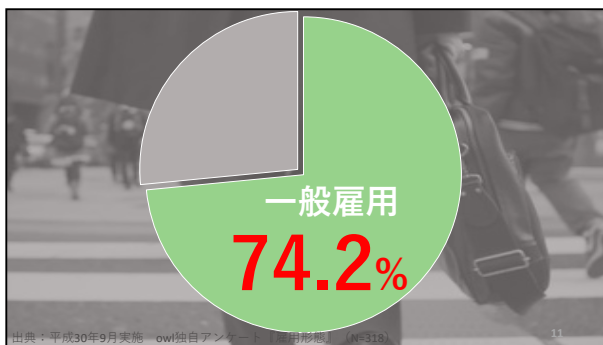
8



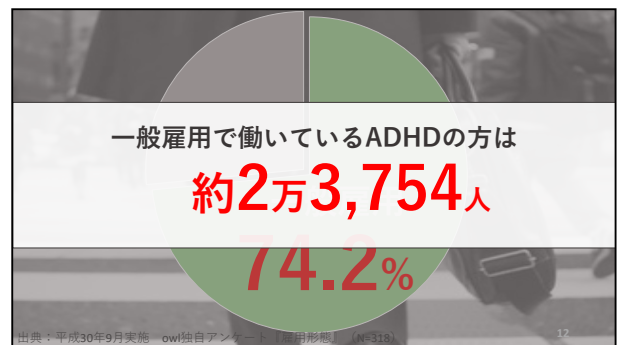
9



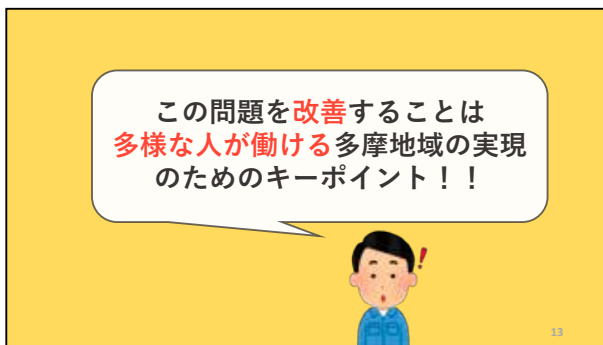
10



11



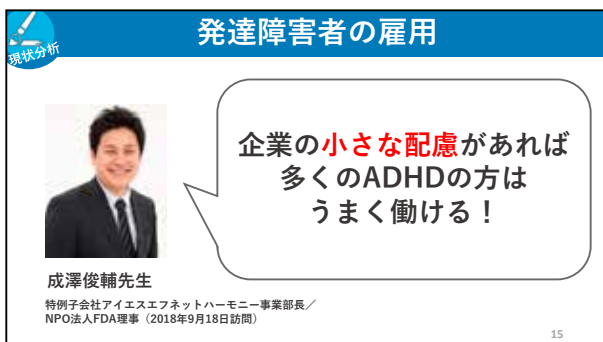
12



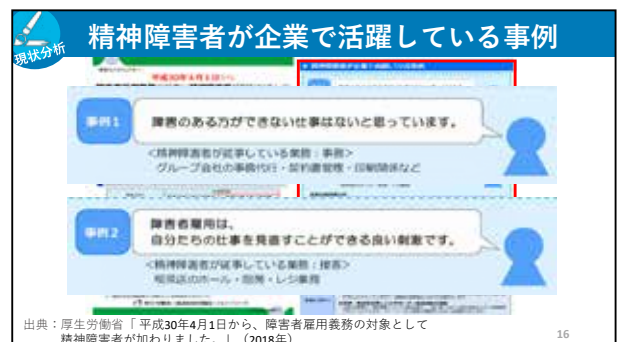
13



14



15



16

現秋分析

アプローチ

企業



当事者



17

17



現状分析

法律改正

発達障害者が
障害者雇用義務の
対象になる

法定雇用率2.2%に
引き上げられる

2.2%
2.2%増
2.2%増

2.2%増
2.2%増
2.2%増

当事者への配慮が必要

身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	障害者雇用義務率
			2.2%増	2.2%増

出典：厚生労働省「平成30年4月1日から、障害者雇用義務の対象として精神障害者が加わりました。」（2018年）

18

18

19

企業

現状分析

そもそも**特性**について
あまり知らない

ADHDに対する
配慮の方法を知らない

自社の**業務内容**が
あていない

当事者の**自己理解**が
ないと配慮できない

20

20

アプローチ

企業



当事者



21

21

40回以上の
当事者会訪問

300人以上の
当事者へのインタビュー

22



特性によって起こる問題を
想定出来ず困った。

**就労前に自身の特性への
対策**ができていない



職場でどう対応していいか
わからなかった。

30代 男性
一般就労ADHD

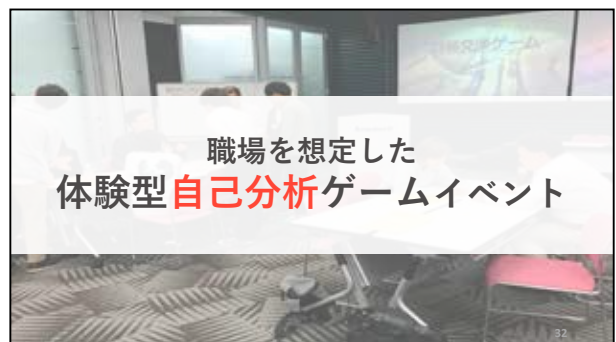
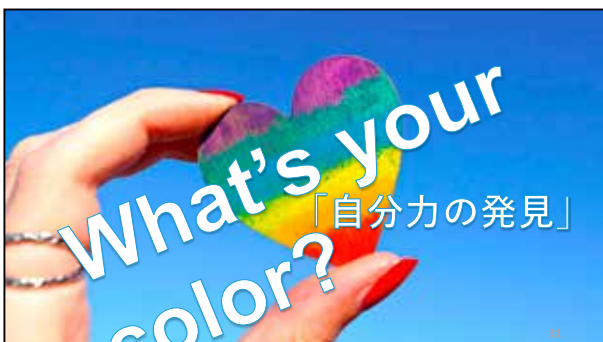
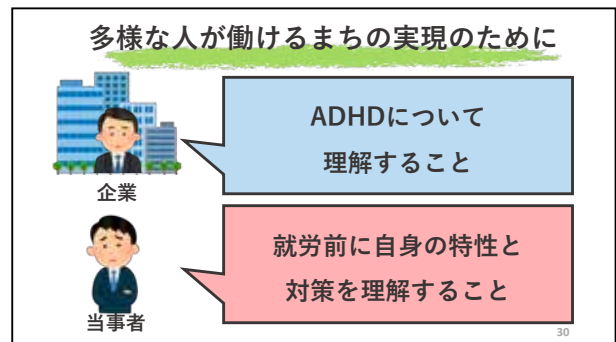
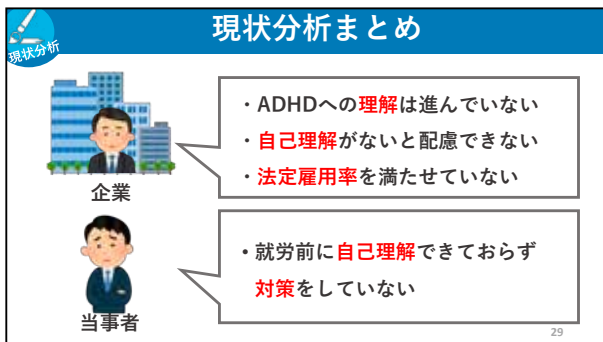
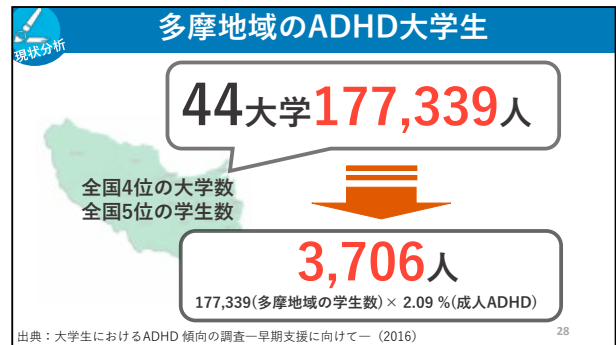
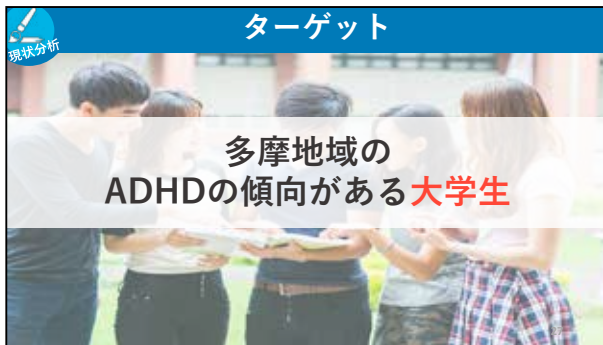
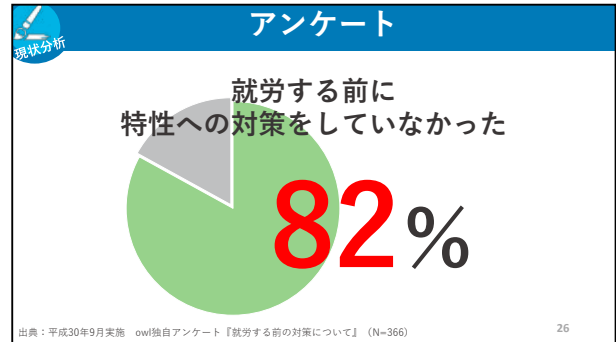
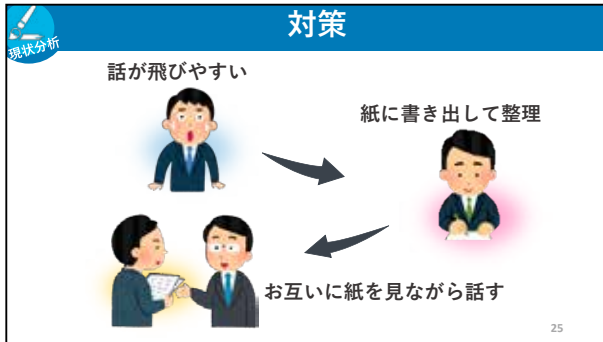
23

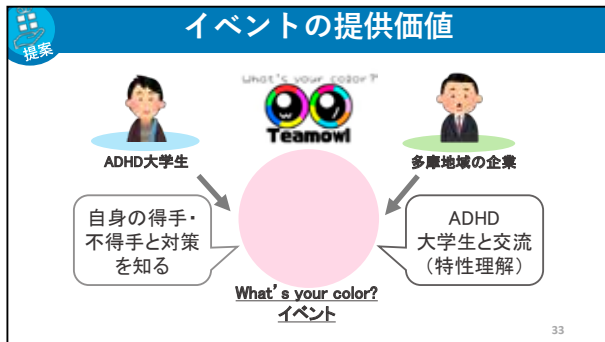


原因
 就労前に対策が
 進まないのは
 自己理解が
 できていないことが
 主な**原因**である

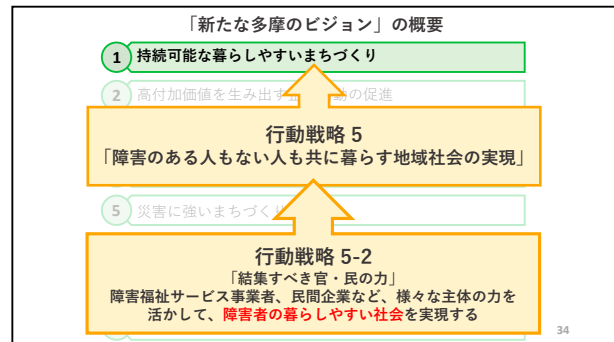
発達障害の就労支援 株式会社「Kaizen」
 代表取締役 鈴木 慶太様
2018年9月4日訪問

24

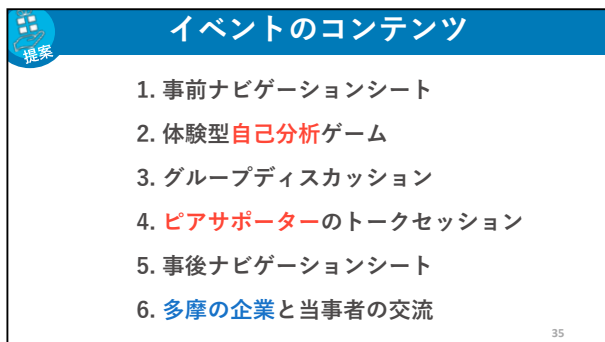




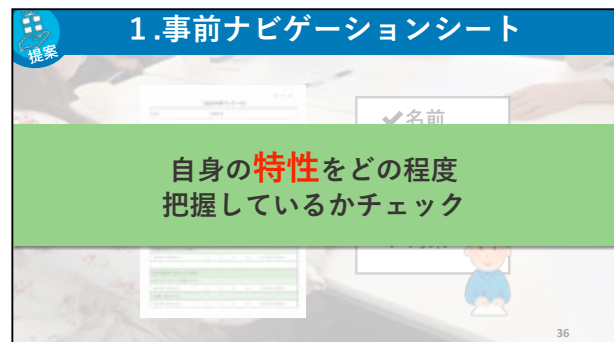
33



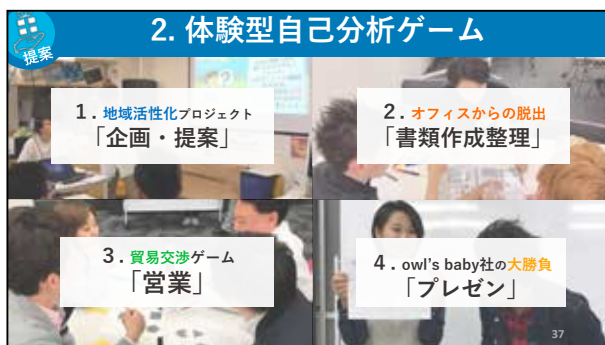
34



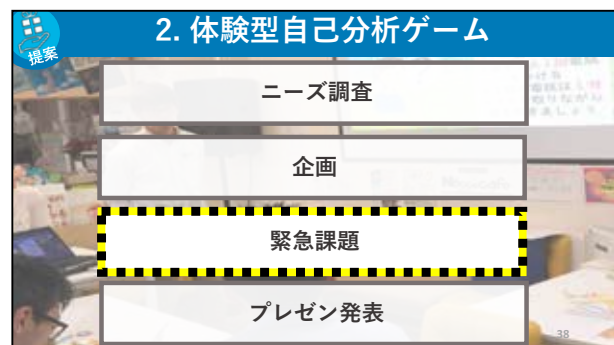
35



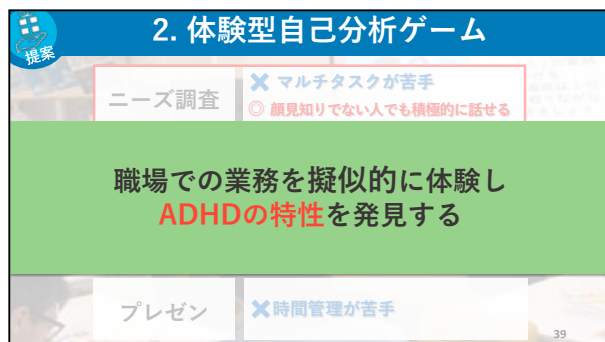
36



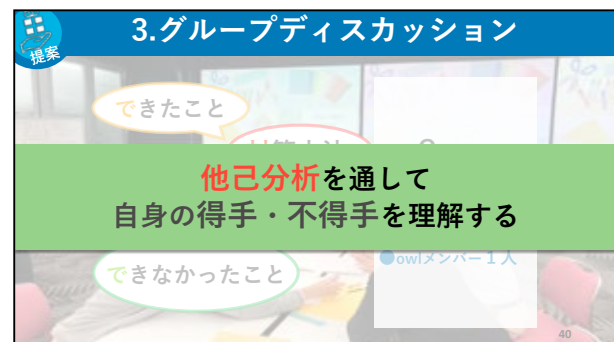
37



38



39



40

4. ピアサポーターのトークセッション

成功体験を聞き
対策と**配慮**の方法を知る

41

5. 事後ナビゲーションシート

自身の特性と対策を**可視化**し
自己理解を深める

42

6. 多摩地域の企業と大学生の交流

質問
「どうして電話対応が苦手なの？」

企業がADHDの**特性**を理解する

「聞きながらメモを取ることが出来ないんです」

43

当事者への効果

就労移行支援所に訪問し
施策の**ブラッシュアップ**

一般社団法人ベガサス
代表理事 木村 志義様

株式会社Kaizen
代表取締役 鈴木 康太郎様

44

競合分析

手軽さ ↑
手間 ↓

日常 ← → 就労

Neococafe, The, SORA, en+courage, katen, LITALICO, 東大病院

45

競合分析

	en+courage	パーソルチャレンジ	Teamowl
就労	△	△	○
手軽さ	○	○	○
ゲーム性	×	×	○

46

当事者への効果

体験で今までと違った
自己分析を行うことによる
効果は見込める。

児玉宣昭 先生
発達障害ピアサポーター専門家
(精神保健福祉士、社会福祉士
介護福祉士)
2018年8月30日訪問

47

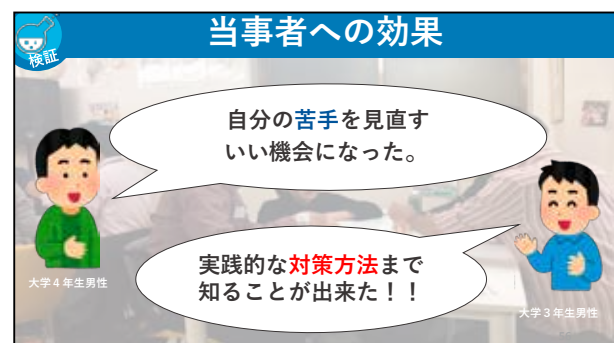
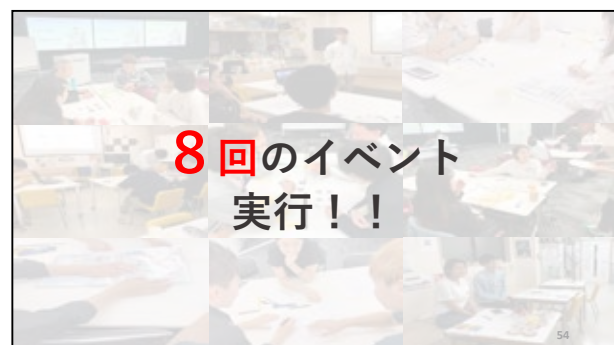
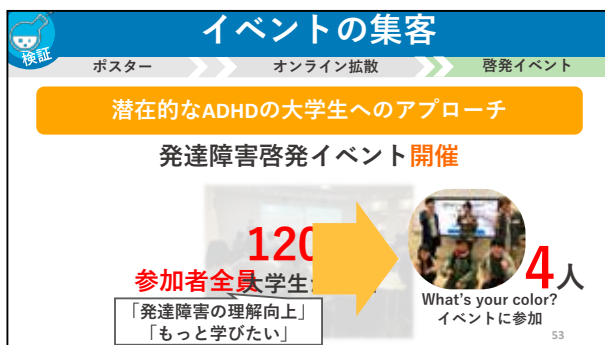
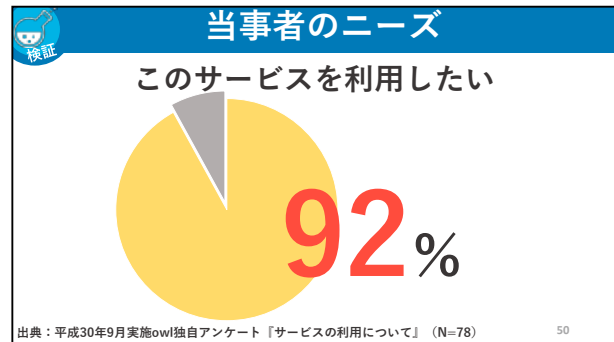
ピアサポーターとの協力

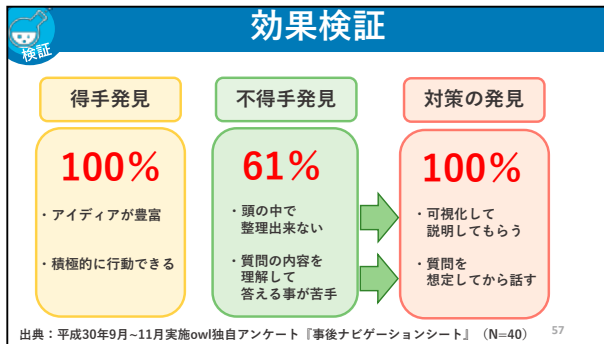
社会経験のあるピアサポーター
10名協力体制！

学生当事者団体 BeU代表
名田憲史様 (現在社会人)

発達障害BAR The BRATs
オーナー光武克様

48

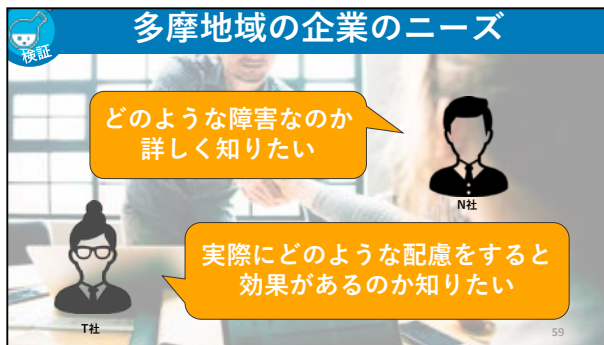




57



58



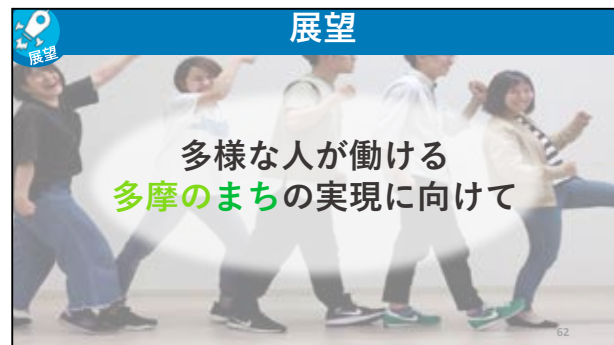
59



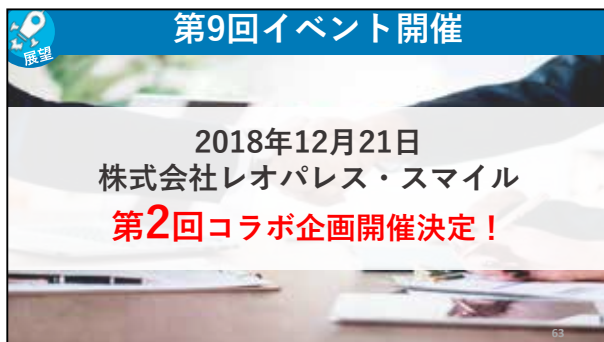
60



61



62



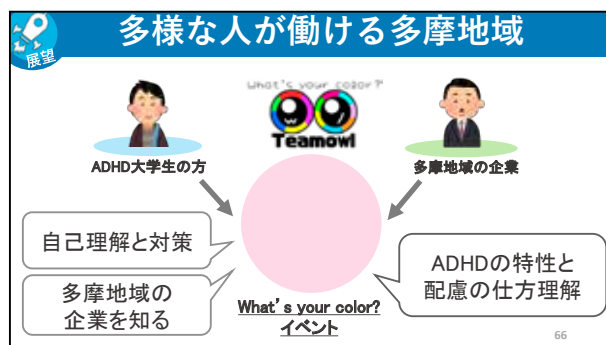
63



64



65



66



67



68



69

[illegible]

70



71



72

担当教員まとめ

当方のゼミでは経営戦略論を学び、その知識を活用して社会問題を解決する提案を考えることを通して学生の「問題発見力」と「問題解決力」を磨くことを目指しています。そのために、例年、「学生にとって身近な社会問題を取り上げ、学生目線で社会性と事業性のある改善提案を創造せよ」とのミッションを課しています。その際、①二次情報だけに頼らず、徹底的に足を使って一次情報を収集すること、②仮説検証を繰り返し行い、論理整合性と実現可能性のある提案を考え抜くこと、③チームの成果に全員が貢献し、チームワークを大切にすること、などを大切にすよう指導しています。Team owlは、発達障害の一つであるADHDの兄弟を持つメンバーがおり、彼女の原体験をきっかけに、ADHD当事者がイキイキと働けるまちの実現に向けて、徹底的に足で情報を稼ぎ、議論を重ね、プランを練り上げていきました。その過程で様々な困難に見舞われていましたが、そのことが結果として彼らのアカデミーリテラシー、就業力はもちろん、人間性を大いに涵養したと感じます。今回、彼らの思いや努力がこのように顕彰していただけたことは担当教員として大変嬉しく思いますが、それ以上に多くの方にご支援を賜ることができたからこそその結果であり、ご厚情を賜った全ての方にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

創価大学 安田ゼミ Team owl ◆担当教員 安田賢憲

杏林大学 久野ゼミ 多摩OMOTENASHI班

優秀賞

産学連携 YOKOSO NIPPON Project

～外国人鉄道利用客への対応改善を通じた多摩地域イメージ向上作戦～



- ◆メンバー 市村優典、長尾真志、長野駿希、高野真衣、范微、大國真紀
- ◆担当教員 久野新

発表概要

2018年の平昌五輪では、外国人観戦客に対する駅職員の不十分な対応が世界的に報道されたが、2020年の東京五輪に向け、都内交通機関職員の外国人対応能力向上も急務となっている。当プロジェクトは、JR東日本八王子支社と杏林大学の学生・留学生との協働事業である。同支社管内駅職員の外国人対応能力向上を目的とし、日本を訪れる外国人と駅職員の双方が直面するコミュニケーション上の課題を解決するためのツール（多言語カードおよび職員向け動画・テキスト教材）を開発した。また、おもてなし改善ツールの作成の過程において、先行事例の問題点を抽出するとともに、JR職員約640人に対するアンケートや留学生へのモニター実地調査を行い、多摩地域の駅で実際に発生しているコミュニケーション上の課題（遅延理由、乗り換え案内、特急券と乗車券の違い、観光名所の案内など）の解決に貢献することができた。また当プロジェクトの取り組みは、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞でも報道され、社会的注目を集めた。

活動の目的

2018年の平昌五輪では、外国人観戦客に対する駅職員の不十分な対応が世界的に報道された。そのため2020年の東京五輪に向けて訪日外国人数が増加傾向にある日本は、おもてなしだけでなくイメージ向上のために、都内交通機関職員の外国人対応能力向上も急務となっている。よって駅職員の外国人対応能力向上ができれば、日本を訪れる外国人の満足度向上や事故、災害時の不安解消につながる。加えて鉄道サービスは公益的性格を帯びており、そのサービスを利用する外国人の満足度が向上すれば、日本全体のイメージ向上や低下防止につながる。こうした取り組みを通じ「公共交通機関の外国人対応力が世界一高い国」という世界における地位確立にもつながると考える。駅職員の外国人対応能力向上のために第一に、JRの鉄道や駅を利用する外国人と駅職員との間にどのようなコミュニケーション上の問題やニーズが存在するかを明らかにすること、第二に、それらの問題を解決するための新しいツールを開発する。

活動の内容・様子

外国人と駅職員との間にどのようなコミュニケーション上の問題が存在するかを明らかにするために、JR 駅職員約640人に対してアンケートを行い、外国人によく聞かれる事柄について駅別に抽出した。また、外国人が駅利用時に感じる疑問や不安を抽出するために、留学生に協力してもらいモニターツアーを実施した。2つの調査より中央線沿線の駅では、「特急券と乗車券の違い」「乗り換え方法」などといった事柄についての疑問を持ちやすくまた、説明が困難であることが明らかとなった。それらの結果から“駅職員と外国人が簡単にコミュニケーションをとれるツール”と“駅職員の英語基礎力を向上させるツール”の2つのツールの作成を行った。



活動の成果

杏林大学とJR東日本八王子支社の協働という意味では、当初の計画どおり2年間の活動を経て本年3月末で一つの区切りを迎えたが、今回開発した「多言語 OMOTENASHI カード」は日本語のわからない外国人にツールの必要性や使い勝手のアンケートを取ったところ8割以上の方から高い評価を得ることができた。さらに八王子支社管内の複数駅におけるテスト試行を経て、現在はその使い勝手等に関する再検証が行なわれている。また駅職員向けの英会話教材（テキスト＋動画）に関しても、来年度以降の導入を目指して各駅での活用方法が検討されている。鉄道を利用する外国人の満足度調査は引き続きゼミ独自でも実施し、結果をJRとも共有したい。



参考文献

- [1] 五輪閉会式後、深夜に観客大混乱「電車は終わりました」.朝日新聞.2018-2-10.朝日新聞デジタル
<https://www.asahi.com/articles/ASL2B1DZ1L29UHBI03Y.html> (参照2018-08-01).
- [2] 多摩観光推進協議会「東京多摩」への外国人客を誘致. ひばりタイムス.2018-04-26
<https://www.skylarktimes.com/?p=14803> (参照2018-08-07)
- [3] “1-1旅行中に困ったこと（全体）”.「訪日外国人旅行者の国内における受入環境整備に関するアンケート」
平成28年度.国土交通省観光庁
http://digjapan.jp/wp-content/uploads/2017/02/komatta_28.png (参照2018-08-07)
- [4] “八王子市訪日外国人旅行者の推移”八王子市における多言語対応の取り組みについて
平成28年度.八王子市 市民活動推進部 多文化共生推進課
<https://www.2020games.metro.tokyo.jp/multilingual/references/pdf/1707forum/a-4.pdf> (参照2018-08-10)
- [5] 訪日外国人誘致へJR東日本八王子支社と協力 東京・多摩地区で.毎日新聞.2016-10-18.デジタル毎日
<https://mainichi.jp/univ/articles/20161018/org/00m/100/018000c> (参照2018-08-10)
- [6] JR東、杏林大と訪日客調査 ニーズ把握へ連携.日本経済新聞.2016-10-14.日経電子版
https://www.nikkei.com/article/DGXLASFB13H8R_T11C16A0L83000/ (参照2018-08-15)
- [7] 東京都産業労働局 東京五輪時の推測訪都外国人数
http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2018/06/06/documents/13_01.pdf
- [8] 東京市町村調査会 訪都外国人推移
<http://www.tama-100.or.jp/cmsfiles/contents/0000000/768/1.pdf>
- [9] Test and Score Data Summary For TOEFL iBT® TESTS (2017)
https://www.ets.org/s/toefl/pdf/94227_unlweb.pdf
- [10] 東急おもてなしボード
<http://digjapan.jp/wp-content/uploads/2016/07/tokyukippu.png>
- [11] Travel vision
<http://www.travelvision.jp/news-jpn/detail.php?id=74646>
- [12] 日刊工業新聞(2018) 大阪北部地震
<https://www.nikkan.co.jp/articles/view/00477839>



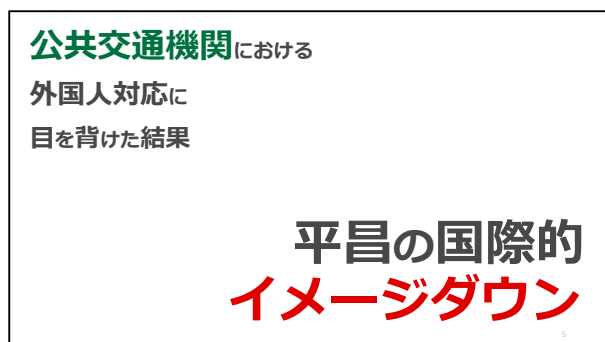
1



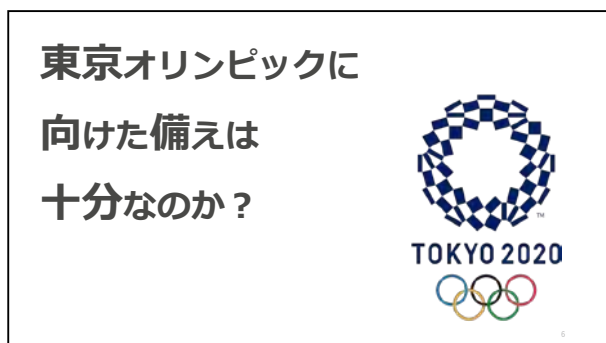
2



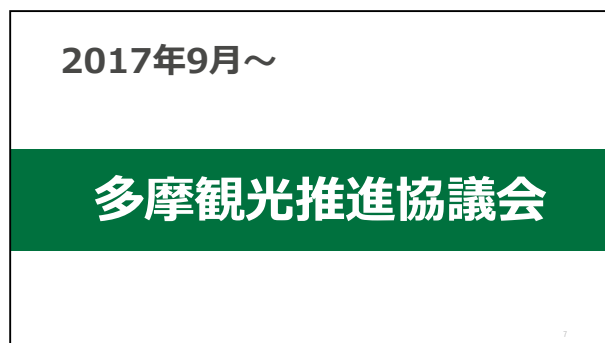
3



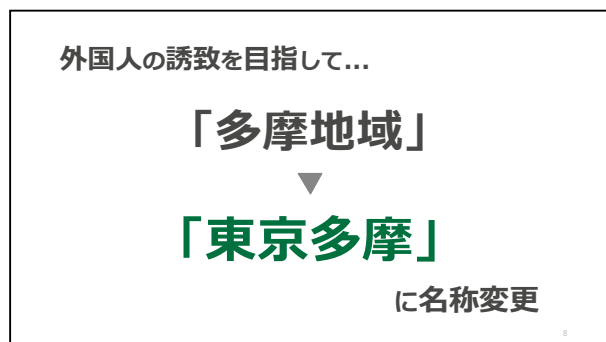
4



5



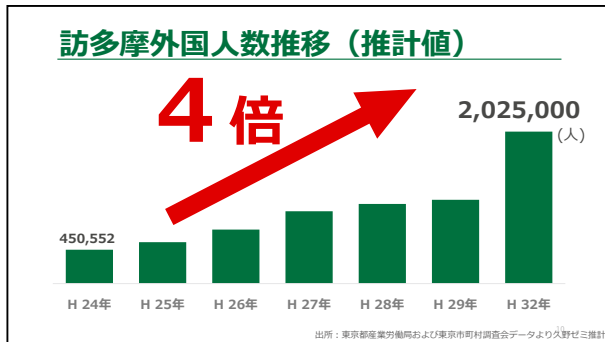
6



7



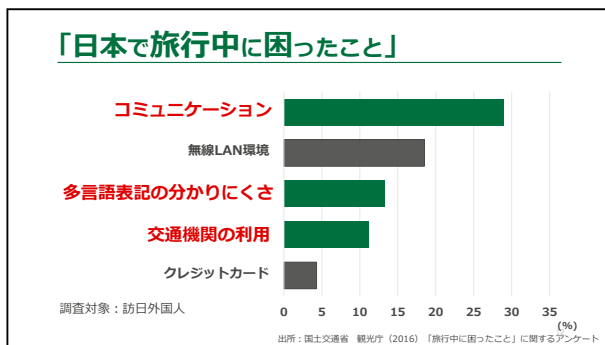
8



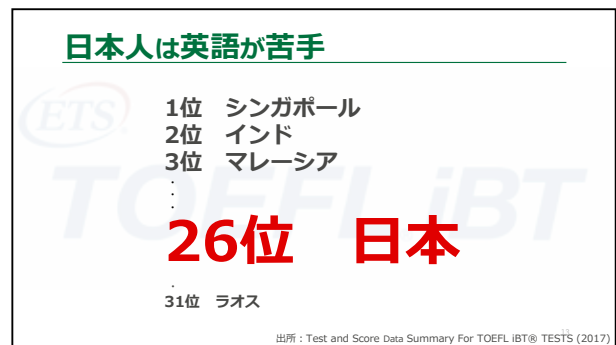
9

訪多摩外国人の
増加が予想されるなか
公共交通機関による**対応**は？

10



11



12

問題まとめ

- ・ 訪多摩外国人の**増加**
- ・ 英語での**対応力不足**が懸念

▼

平昌オリンピックと同様の問題が
多摩でも起こりうる

13

駅職員に注目！

14

外国人鉄道利用客への 対応を改善し

**東京多摩のイメージを
向上させるプロジェクト**

15

産学連携
「YOKOSO NIPPON Project」
外国人鉄道利用客への対応改善を通じた多摩地域イメージ向上作戦

JR 八王子支社 × 杏林大学

杏林大学 久野ゼミナール
市村・大園・高野・長尾・長野・范

16

本日の流れ

1. プロジェクト概要
2. 事前調査
3. 作成した2つのツール
4. 期待される効果
5. 今後の展望

17

1.プロジェクト概要

18



19

駅職員の外国人对応能力の
向上を目的とした
JR × 杏林大学
産学連携プロジェクト

20



21

2.事前調査(現状分析)

22

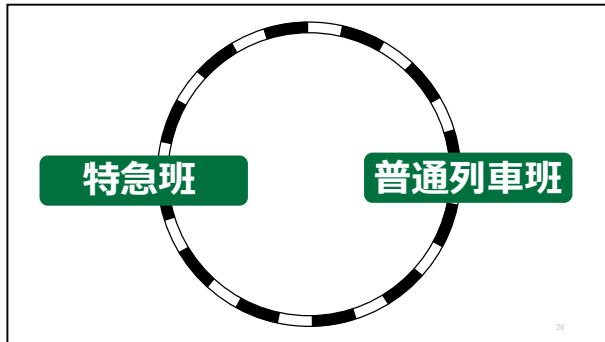
1.外国人目線での課題抽出

実際に駅や鉄道を利用して困ったこと

23



24



特急班の調査結果 (抜粋)

- ・乗車券と特急券の違い

海外では両者の区別がない
自動改札通過時に困難

26

特急班の調査結果 (抜粋)

- ・途中駅での停車時間が短い

駅停車前に英語で
一言アナウンスするべき！

27

普通列車班の調査結果 (抜粋)

- ・頭上の料金表が複雑で見づらい
- ・場所によっては英語の表記がない

28

普通列車班の調査結果 (抜粋)

- ・券売機での切符の買い方が異なる

海外・・行き先を選択（金額は自動的に表示）
日本・・値段を選択（金額は料金表で確認）

29

事前調査 (PLAN) 作成したツール (DO) 期待される効果 (CHECK) 今後の展望 (ACTION)

2. 駅職員目線での課題抽出

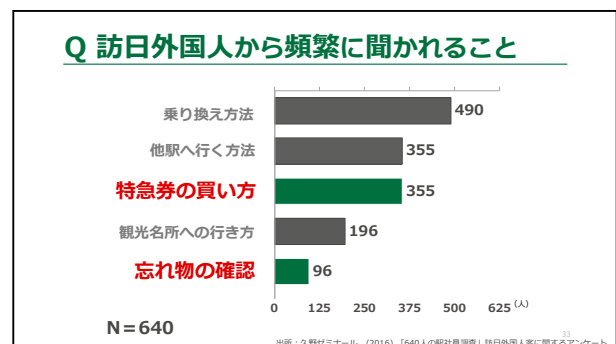
- ・外国人对応に関する駅職員の悩み
- ・駅別傾向の調査

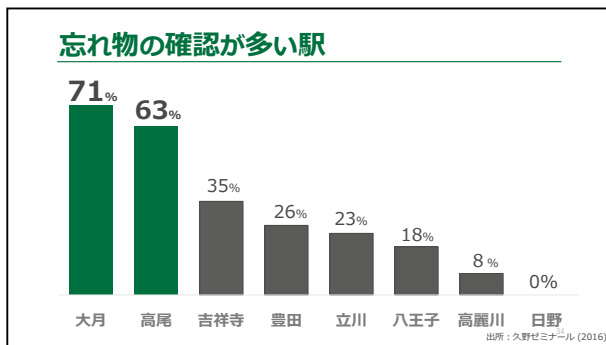
30

640人

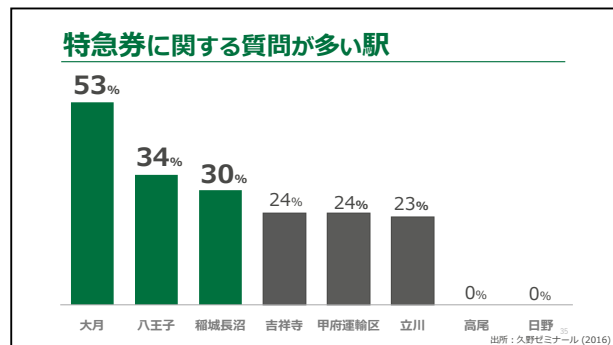
駅職員に対する社内アンケート

31

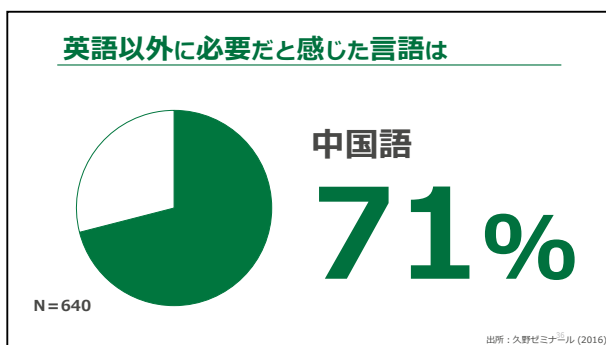




33



34



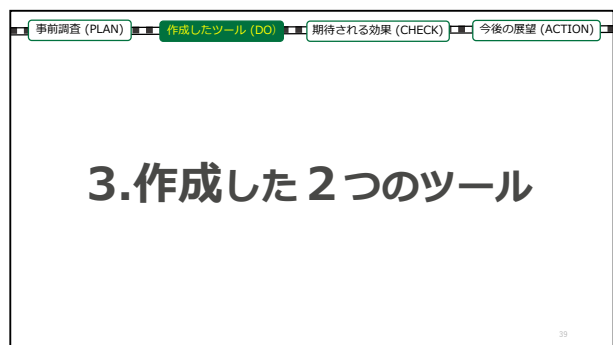
35



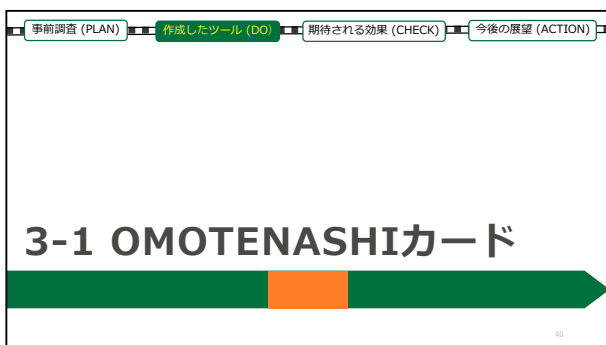
36



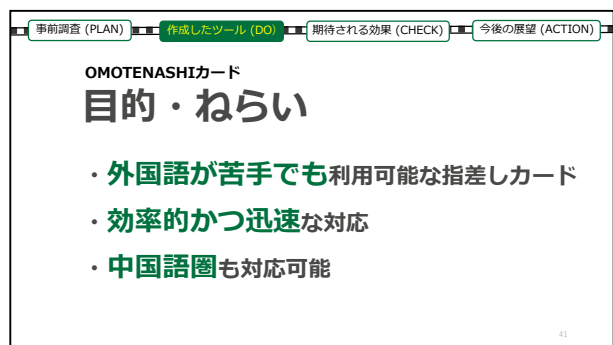
37



38



39



40

事前調査 (PLAN)

作成したツール (DO)

期待される効果 (CHECK)

今後の展望 (ACTION)

OMOTENASHIカード

工夫点

・事前調査で抽出された課題を反映

・他社既存ツールの収集と課題抽出

41

Purchasing a Ticket or IC Card

きっぷ・ICカードの購入

01

02

03

42

WELCOME TO TOKYO!

4. Useful Map

01

02

43

事前調査 (PLAN)

作成したツール (DO)

期待される効果 (CHECK)

今後の展望 (ACTION)

OMOTENASHIカード

工夫点

・事前調査で抽出された課題を反映

・他社既存ツールの収集と課題抽出

・掲載する情報の厳選

・留学生からのフィードバックによる修正

44

OMOTENASHI card

UR

杏林大学

45

お困りですか？：为什么会有困扰？：May I help you ?

乗り換えについて
about transfer
关于乘车换乘方法

特急券について
about limited express tickets
关于特快票电车卡

きっぷについて
about tickets
关于车票

遅延について
about delay
关于电车延迟

その他
others
其他

46

遅延編

日本語

どうして遅延しているのですか？

English

Why is the train delayed?

中文

电车为什么延迟了？

47

遅延編

Accident
(人身事故)
人身事故

Bad weather
(悪天候)
恶劣天气

Signal trouble
(信号トラブル)
信号问题

Person on the track
(線路の立ち入り)
铁轨上有人

Vehicle check
(車両点検)
车辆点検

OMOTENASHIカード 16

48

特急券編


=


Basic fare ticket is a rate for "the distance"
 (乗車券は「距離」に対する料金です。)
 车票是对“距离”的费用。

OMOTENASHIカード 10

49

特急券編


=


The Limited Express ticket is a rate for "the speed"
 (特急券は「スピード」に対する料金です。)
 特快电车票是短时间内快速可到达目的地的车票，
 所以比普通电车票稍贵。

OMOTENASHIカード 11

50

事前調査 (PLAN) 作成したツール (DO) 期待される効果 (CHECK) 今後の展望 (ACTION)

OMOTENASHIカード
アピール・ポイント

- ・フィードバックの反映
- ・駅別オリジナルカードの追加
- ・中国語以外の新たな言語カードの追加

52

51

事前調査 (PLAN) 作成したツール (DO) 期待される効果 (CHECK) 今後の展望 (ACTION)

3-2 動画・テキスト教材

53

52

事前調査 (PLAN) 作成したツール (DO) 期待される効果 (CHECK) 今後の展望 (ACTION)

動画テキスト教材
目的・ねらい

- ・駅職員の英語力向上
- ・英語に対する苦手意識の緩和
- ・英語学習意欲の促進

54

53

事前調査 (PLAN) 作成したツール (DO) 期待される効果 (CHECK) 今後の展望 (ACTION)

動画テキスト教材
工夫点

- ・留学生とJR職員が共演
- ・テキストと動画の連動
- ・杏林大学英语教員監修
- ・撮影、編集は学生とJR職員の協働制作

55

54

事前調査 (PLAN) 作成したツール (DO) 期待される効果 (CHECK) 今後の展望 (ACTION)

動画・テキスト教材
構成シーン

- ・乗り換え案内
- ・道案内
- ・入場券
- ・乗車券の紛失
- ・特急券
- ・Suicaの残高

- ・指定席の乗り遅れ
- ・JAPAN RAIL PASS
- ・手荷物
- ・遅延原因
- ・体調不良
- ・迷子

56

55



I lost my fare ticket.

乗車券を失くしてしまいました

57

56



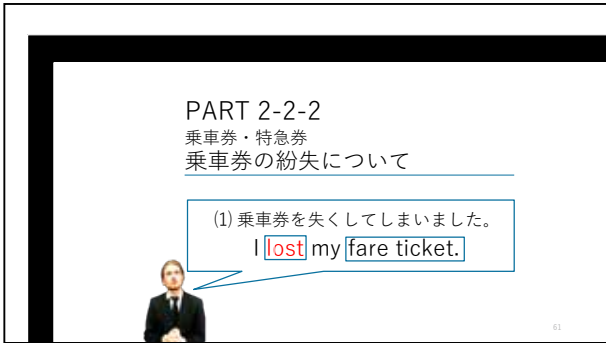
57



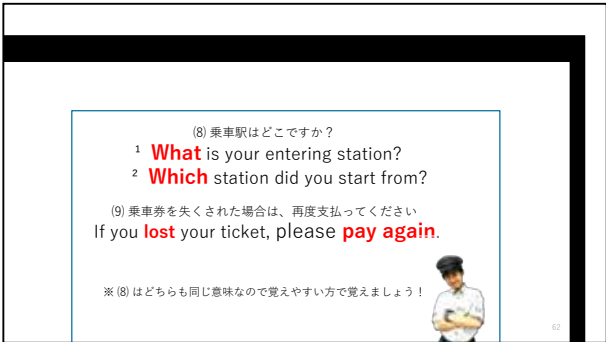
58



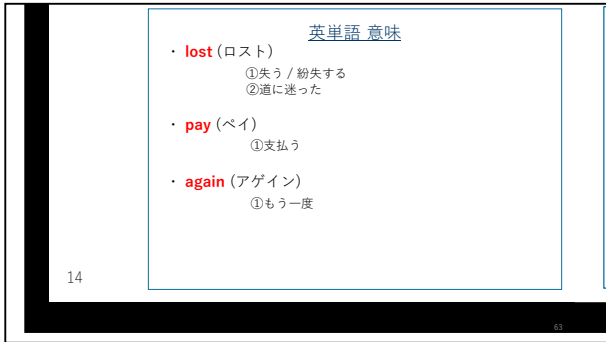
59



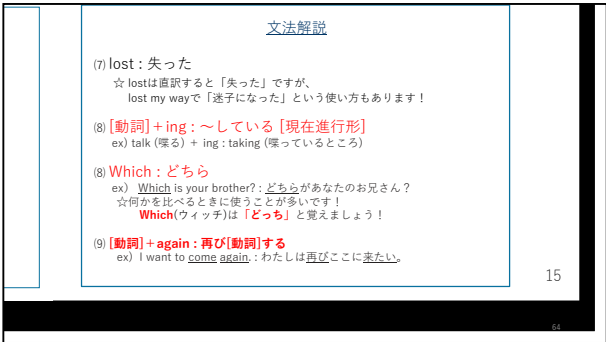
60



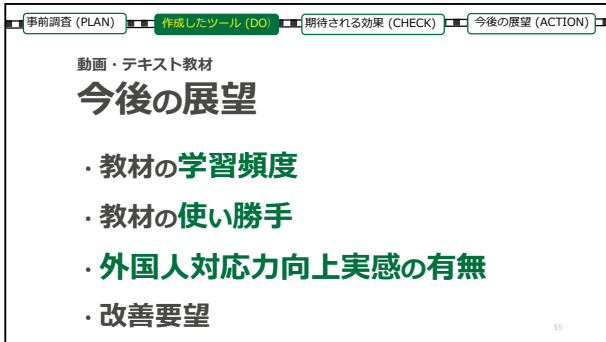
61



62



63



64

事前調査 (PLAN) 作成したツール (DO) 期待される効果 (CHECK) 今後の展望 (ACTION)

4.期待される効果

65

事前調査 (PLAN) 作成したツール (DO) 期待される効果 (CHECK) 今後の展望 (ACTION)

新規性

産学連携による
携帯型多言語カードと
駅職員向け言語教材の
協働開発

67

OMOTENASHIカード役割分担

久野ゼミ

- ・「OMOTENASHIカード」企画の提案
- ・既存案内ツール調査
- ・レイアウト・掲載トピック選定
- ・実証実験後のユーザー・アンケート作成

JR東日本

- ・フィードバック
- ・試験導入
- ・ユーザー・アンケート実施

68

外国人のニーズは存在するのか？

Q 駅職員とのコミュニケーションを円滑にするツールを利用したいですか？

利用したい
84.7%
調査対象：20代外国人
N=59

出所：久野ゼミナール (2018) 外国人留学生に「OMOTENASHIカードの需要」に関するアンケート

68

外国人のニーズは存在するのか？

Q OMOTENASHIカードは使いやすいと思いますか？

使いやすい
84.7%
調査対象：20代外国人
N=59

出所：久野ゼミナール (2018) 外国人留学生に「OMOTENASHIカードの需要」に関するアンケート

69

事前調査 (PLAN) 作成したツール (DO) 期待される効果 (CHECK) 今後の展望 (ACTION)

JR社員からの講評

OMOTENASHIカードについて
「英語が苦手でも外国人への対応が楽になる」

テキスト教材について
「必要不可欠な英文が気軽に勉強出来る」
「動画と連動されたテキスト教材でわかりやすい」

71

OMOTENASHIカードの利用実績

Q OMOTENASHIカードを使用しましたか？

使用した
47%
調査対象：実証実験実施駅に勤務する職員
N=17

出所：久野ゼミナール (2018) 「OMOTENASHIカード」に関するアンケート

71

事前調査 (PLAN) 作成したツール (DO) 期待される効果 (CHECK) 今後の展望 (ACTION)

期待される効果

- ・駅職員の外国人対応能力向上
- ・訪多摩外国人の満足度向上

74



73

事前調査 (PLAN) 作成したツール (DO) 期待される効果 (CHECK) 今後の展望 (ACTION)

期待される効果

- ・ 駅職員の外国人対応能力向上
- ・ 訪多摩外国人の満足度向上

事故や災害時の不安解消

74

事前調査 (PLAN) 作成したツール (DO) 期待される効果 (CHECK) 今後の展望 (ACTION)

期待される効果

東京多摩の
ブランドイメージ
維持・向上

75

外国人でも安全で快適に
公共交通機関を利用できる
ブランドイメージ構築も

まちづくりににおいて
重要な1要素では？

76

事前調査 (PLAN) 作成したツール (DO) 期待される効果 (CHECK) 今後の展望 (ACTION)

5. 今後の展望

77

事前調査 (PLAN) 作成したツール (DO) 期待される効果 (CHECK) 今後の展望 (ACTION)

今後の展望

両ツールとも
来年度以降の導入に向けた
検討を開始

78

事前調査 (PLAN) 作成したツール (DO) 期待される効果 (CHECK) 今後の展望 (ACTION)

今後の展望

引き続き外国人の
満足度調査を続け
結果をJRとも共有したい

杏林大学

79

JR × 杏林大学

平昌の悲劇を未然に回避し
訪多摩外国人に最高のおもてなしを

80



「公共交通機関の外国人対応力が
日本一高い地域」を目指して

83

81

参考文献

朝日新聞 五輪開会式後、深夜に観客大混乱
<https://www.asahi.com/articles/ASL2B1DZ1L29UHB103Y.html>

多摩観光推進協議会
<https://www.skylarktimes.com/?p=14803>

国土交通省 観光庁 (2016) 訪日外国人推移
http://digjapan.jp/wp-content/uploads/2017/02/komatta_28.png

八王子市 市民活動推進部 多文化共生推進課 訪日外国人の八王子市に訪れた人数の推移
<https://www.2020games.metro.tokyo.jp/multilingual/references/pdf/1707forum/a-4.pdf>

毎日新聞 訪日客誘致へ
<https://mainichi.jp/univ/articles/20161018/org/00m/100/018000c>

日本経済新聞 JR東、杏林大と訪日客調査
https://www.nikkei.com/article/DGXLASFB13H8R_T11C16A0L83000/

84

82

参考文献

東京都産業労働局 東京五輪時の推測訪都外国人人数
http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2018/06/06/documents/13_01.pdf

東京市町村調査会 訪都外国人推移
<http://www.tama-100.or.jp/cmsfiles/contents/0000000/768/1.pdf>

Test and Score Data Summary For TOEFL iBT® TESTS (2017)
https://www.ets.org/s/toefl/pdf/94227_unlweb.pdf

東急おもてなしボード
<http://digjapan.jp/wp-content/uploads/2016/07/tokyukippu.png>
Travel vision
<http://www.travelvision.jp/news-jpn/detail.php?id=74646>

日刊工業新聞(2018) 大阪北部地震
<https://www.nikkan.co.jp/articles/view/00477839>

85

83

担当教員まとめ

この度は多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2018の本選に参加させて頂き、また、予選・本選で有意義なコメントを多数頂き、有難うございました。担当教員として、深く御礼申し上げます。本プロジェクトは、八王子中心市街地におけるインバウンド需要開拓に向けた当ゼミの調査や行政との各種取組みにご関心をお持ち頂いたJR東日本八王子支社様よりお声がけ頂いたことで始動いたしました。プロジェクトの目的は、JRの駅や鉄道を利用する外国人と駅職員との間に生じているコミュニケーション上の課題解決に資する、新たなツールを企画・開発すること。学生たちは当初、「学生目線で良いと思える基準」と「社会人が納得・満足する基準」との間に厳然と立ちはだかる巨大な壁の存在に悩む日々の連続でした。しかしながら、JR職員向けアンケート調査、来日直後の留学生グループによる駅利用モニター調査の実施、および他社の既存ツールの問題点の抽出などを重ね、またJRのご関係者の皆様より忍耐強くご指導を頂いた結果、最終的に「OMOTENASHIカード」と「駅職員向け語学研修用の動画・テキスト教材」という、2つの新しいツールを完成させることができました。この場をお借りし、学生たちに貴重な機会をご提供頂いたご関係者の皆様に再度御礼申し上げます。

杏林大学 久野ゼミ 多摩OMOTENASHI班 ◆担当教員 久野新

専修大学 大崎ゼミナール

優秀賞

永山団地アクティブ大作戦

～学生の力で多摩に活気を!～



◆メンバー 大内莉奈、小山大樹、温井結、若林佑実

◆担当教員 大崎恒次

発表概要

多摩市の課題である高齢化・子育て世代の流出の結果、現在そして今後より顕著となる、コミュニティの希薄化を解決する研究です。

コミュニティの希薄化が一番問題となっているのは団地です。団地は全国平均よりも高齢化率が高く、コミュニティの希薄化が進んでおり、防犯性の低下、マンパワーの低下、等の問題が生じています。その結果居住者が減少し、地域から人々が更に少なくなるという負のサイクルに陥っていました。

そこで研究対象の永山団地に学生の居住者を増やし、地域活性の中心として活動できるシステムを作成いたしました。

その際に、既存の地域活性化プロセスモデルを援用し、従来の地域活性化の反省点を埋めた新しい地域活性化プロセスモデルを、提唱しています。提唱した地域活性化プロセスモデルに加え、AIDASモデルを用いた活動内容を組み込んでおり、モデルが進行するにつれ、団地居住者と学生の関係性が深くなります。これらは、コミュニティの希薄化の進行を防ぐだけでなく、情報発信を行っていくことで、団地のイメージ向上につながり、将来的な居住者の確保を見込める研究となっております。

活動の目的

私たちの研究の目的は、『コミュニティの希薄化を阻止すべく、地域活性化プロセスモデルを用いて団地の活性化を目指すこと』です。ここでの活性化の定義は、『地域交流の機会を増やし、居住者同士のコミュニティを強化・増幅させること』としています。

地域活性化やその研究は、和田教授らが提唱している、地域活性化プロセスモデルなど、これまで数多くのものが行われてきましたが、あまり成功していません。私たちは、従来の地域活性化は「興味がない人」への働きかけがなかったことや、やりっぱなしの行政、関心がない市民、行政に頼りっぱなしの民間の三様であること、『にぎわいでお金を作る』ことである地域活性化を『お金でにぎわいを作る』ことだと思っていることを課題として挙げました。

これらを解決し、地域活性化を成功させるために、グループや各団体をまとめるリーダーを作ることや、初期投資を交付金や補助金に頼るのではなく、投資・融資を活用すること、地域活性化に興味のない人へのアプローチを重視することなど、各要因を満たす研究を行います。

活動の内容・様子

永山団地の活性化をするために、UR都市機構の多摩地域を担当している方やネットワーク多摩の方とのミーティングを行いました。多摩地域の団地内における現状や問題点、実際に行ってきた活動や学生にしてほしいことなどのお話を頂き、自分らがこれまで調査してきたことと



照らし合わせ、研究に活用しました。

また、この研究をより良いものにするために、地域住民とふれ合うことも活動を行う上で大切にしてきました。団地内で開催されたイベントに積極的に参加し、さらに永山団地に居住している住民やコミュニティカフェを利用している方に対し、団地に住むうえで思うことや、学生が入居することへの意識などのアンケート調査を行いました。

活動の成果

研究や複数回のフィールドワークを通じて、若者が抱えている団地のイメージと実際の団地の違いや、本来団地のあるべき姿と現状の団地の姿の違いを理解することができました。

リノベーション等できれいに保たれている永山団地に若者が集まらない要因を解決し、学生をターゲットとしたマーケティングを行うことで、団地と学生を中心とした地域活性化を行う意義があるという自信を、今回のまちづくり・ものづくりコンペティションで得ることができました。

また、今回提唱した新しい地域活性化プロセスモデルは団地だけでなく、その他の研究にも応用が利くということが分かりました。今後は、より良い地域活性化の可能性を模索しながら、学生の力で地域に活気を与える研究の実現を目指します。



参考文献

- [1] 『地域活性化のマーケティング』 古川一郎（2011年）有斐閣
- [2] 『地域ブランドマネジメント』 和田充夫・菅野佐織・徳山美津恵・長尾雅信・若林宏保（2009年）有斐閣
- [3] 『地方は活性化するか否か マンガでわかる 地方のこれから』 こばやしたけし（2015年）学研プラス
- [4] A-Port ホームページ <https://a-port.asahi.com/guide/>（2018年11月24日アクセス）
- [5] DMM オンラインサロンホームページ <https://lounge.dmm.com/page/beginner/>（2018年12月7日アクセス）
- [6] JKK 東京 東京都住宅供給公社ホームページ <http://www.to-kousya.or.jp/chintai/service/4-1-5.html>（2018年10月17日アクセス）
- [7] UR 賃貸住宅ホームページ <https://www.ur-net.go.jp/chintai/>（2018年10月31日アクセス）
- [8] 一般社団法人 全国住宅供給公社等連合会 <http://www.zenjyuren.or.jp/chihou.html>（2018年10月5日アクセス）
- [9] 国土交通省 ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>（2018年10月17日アクセス）
- [10] 佐伯悠・宮副謙司(2012年)「地域活性化プロセスモデルに関する考察」 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasmin/2012f/0/2012f_111/_pdf（2018年10月18日アクセス）
- [11] 総務省統計局ホームページ <http://www.stat.go.jp/data/topics/topi901.htm>(2018年10月28日アクセス)

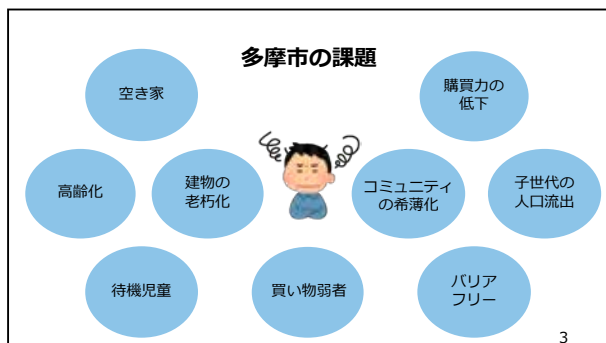
- [12] 独立行政法人 都市再生機構ホームページ
<https://www.ur-net.go.jp/>(2018年11月18日アクセス)
- [13] ネットワーク多摩ホームページ
<https://nw-tama.jp/>(2018年11月17日アクセス)
- [14] 平成25年 日本の地域別将来推計人口
<http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson13/t-page.asp>(2018年11月18日アクセス)
- [15] 平成28年 多摩市ニュータウン再生方針
<http://www.city.tama.lg.jp/cmsfiles/contents/0000003/3185/tamashisaiseihoushin.pdf.pdf>
(2018年11月18日アクセス)
- [16] 平成28年度多摩市地域包括ケアの推進～地域支援機能の強化（永山モデル）
<http://www.city.tama.lg/cmsfiles/contents/0000004/4681/28-1-4.pdf>（2018年11月6日アクセス）



1



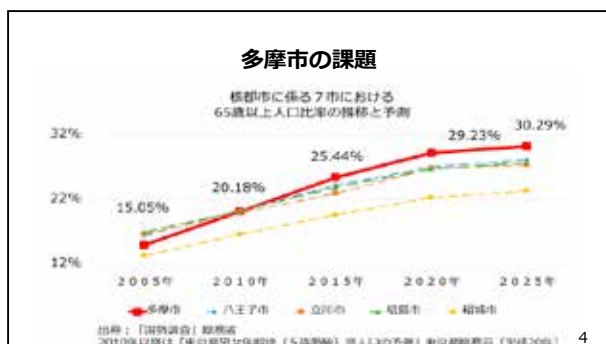
2



3



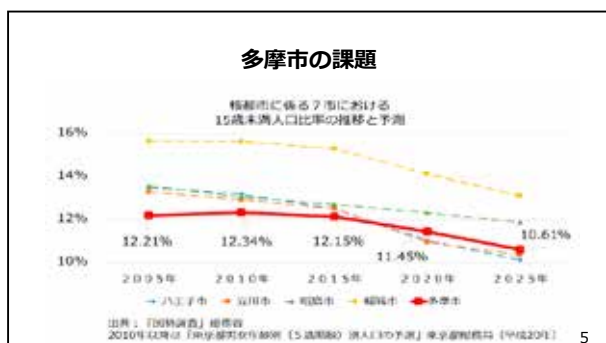
4



5



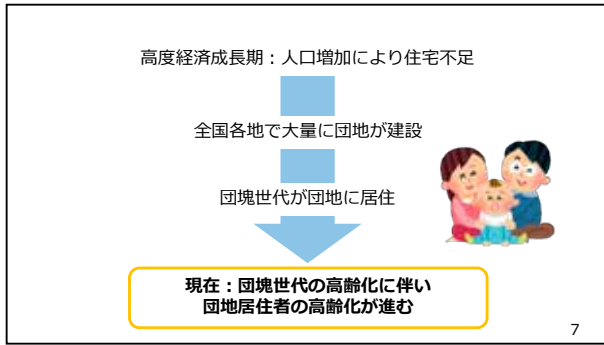
6



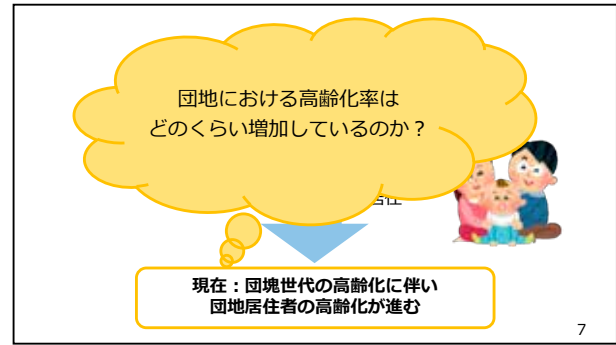
7



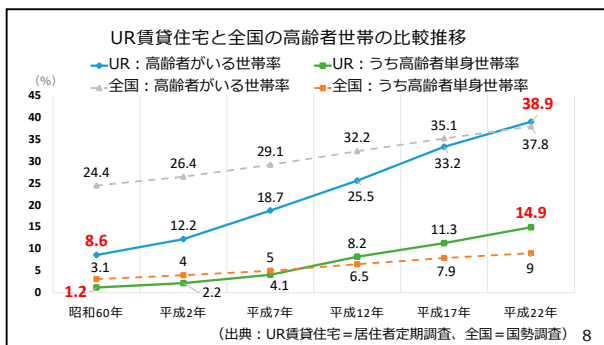
8



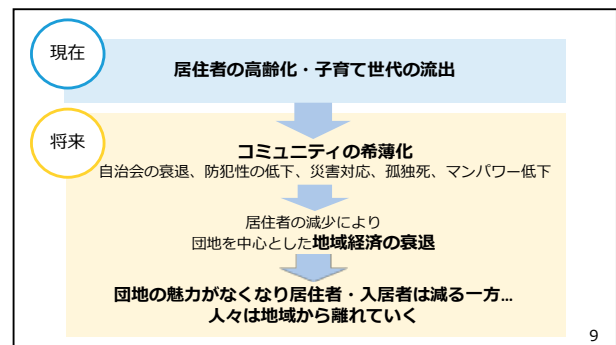
9



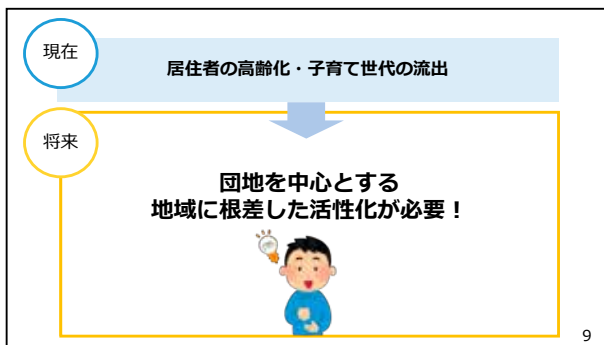
10



11



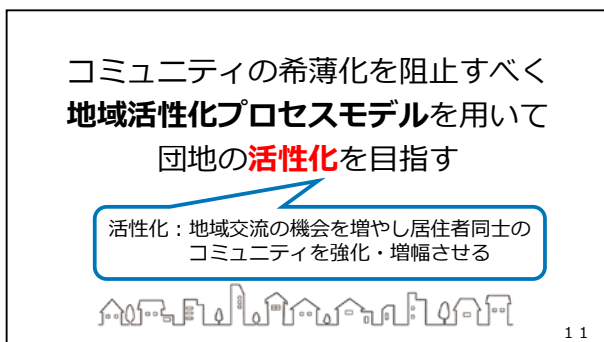
12



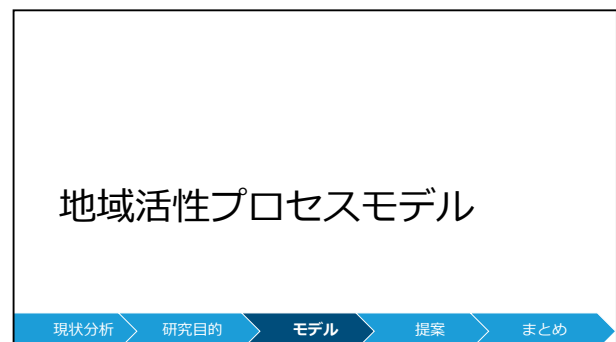
13



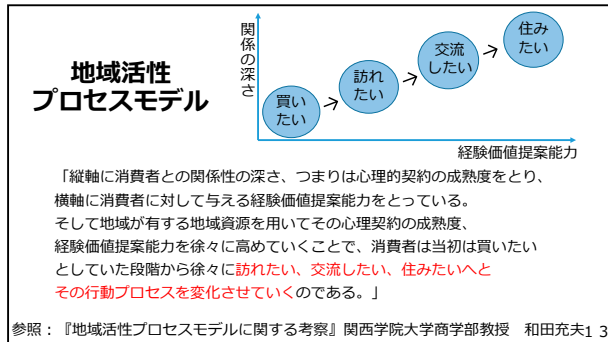
14



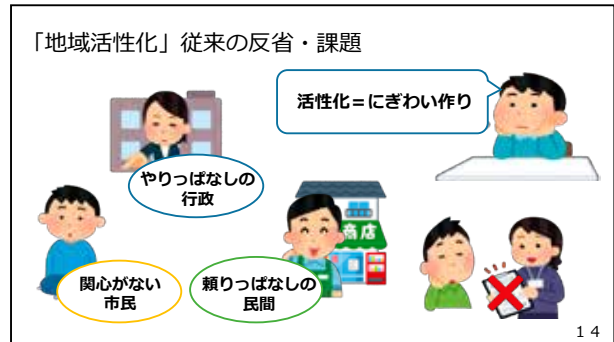
15



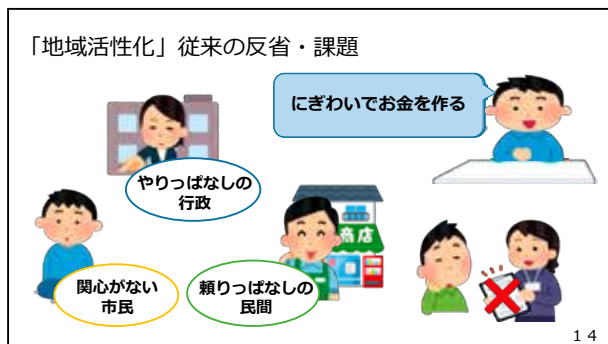
16



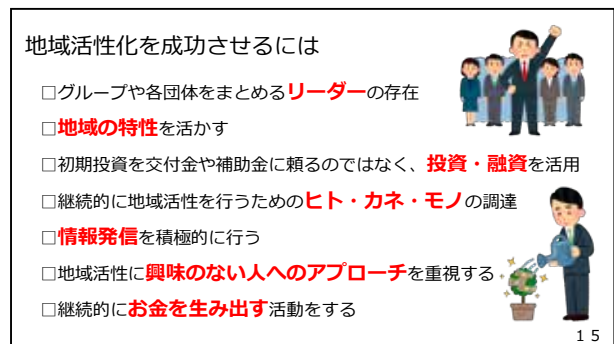
17



18



19



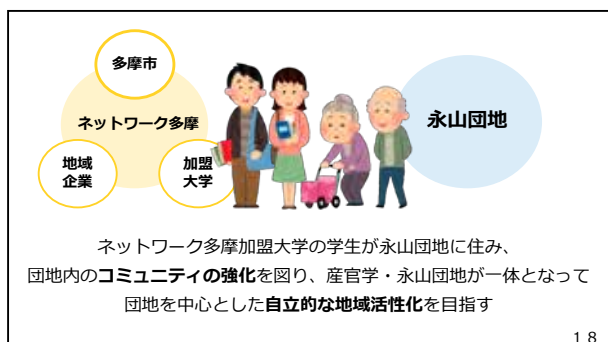
20



21



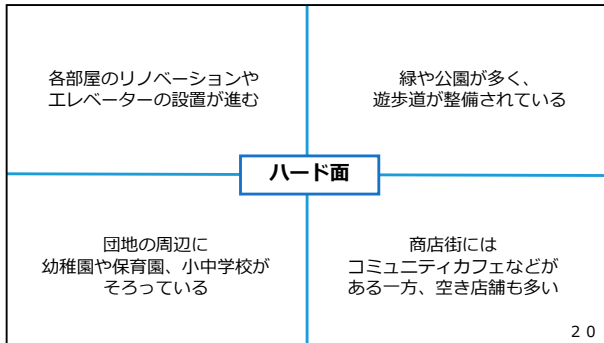
22



23



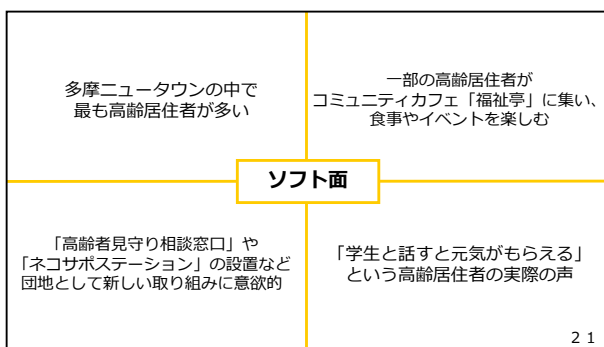
24



25



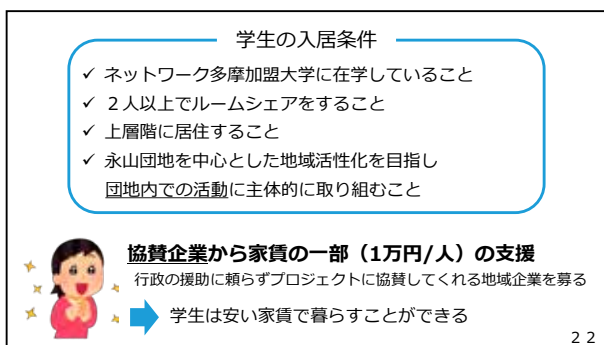
26



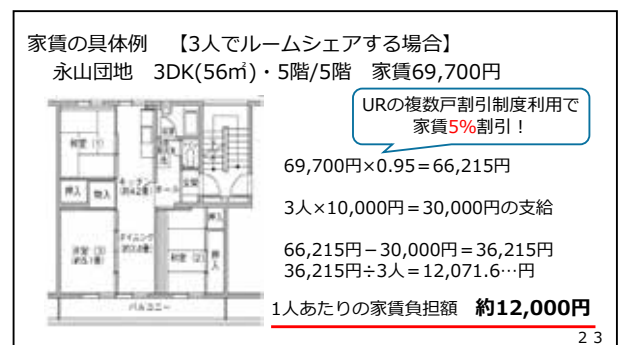
27



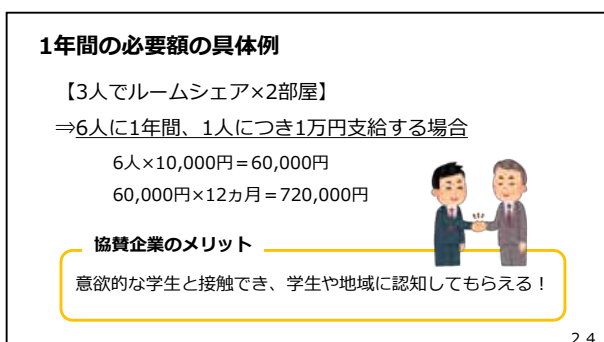
28



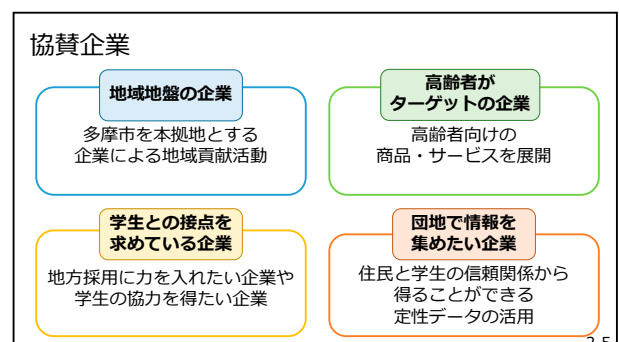
29



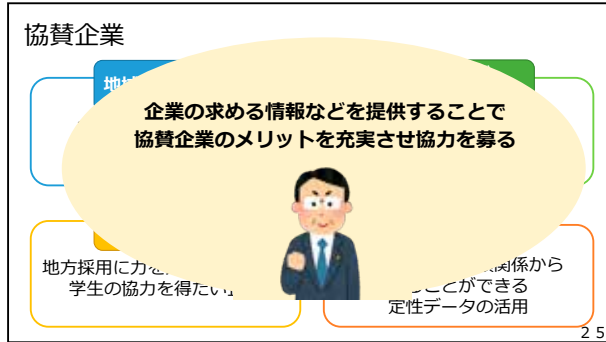
30



31



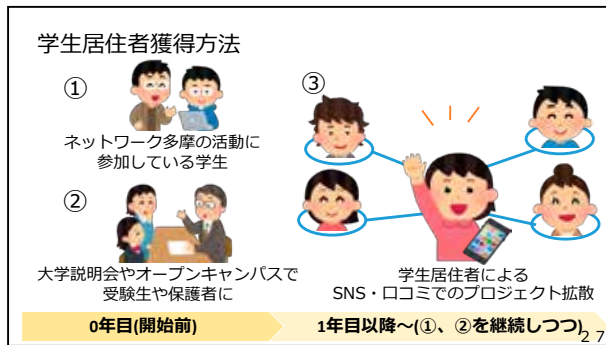
32



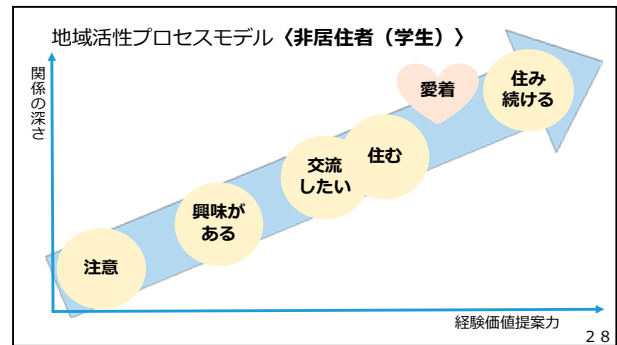
33



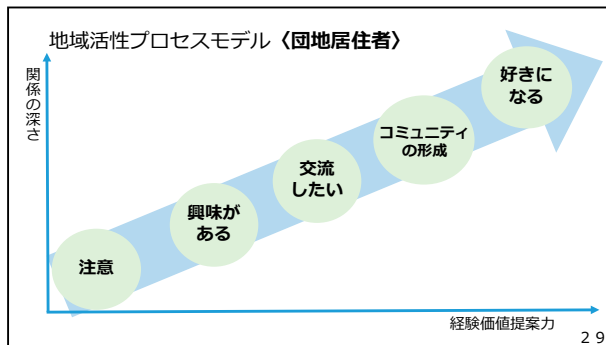
34



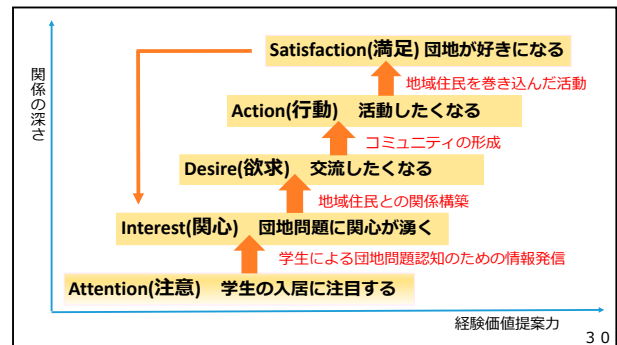
35



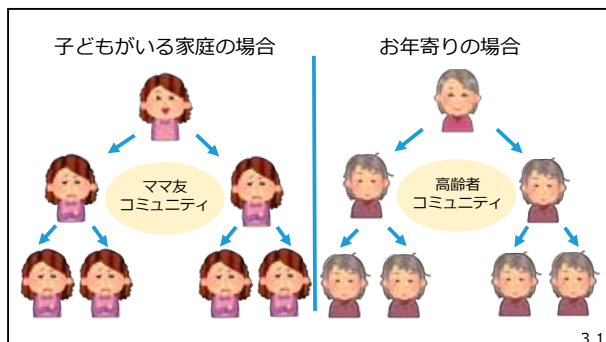
36



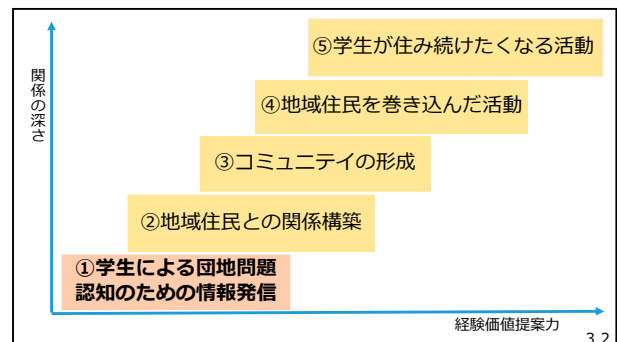
37



38



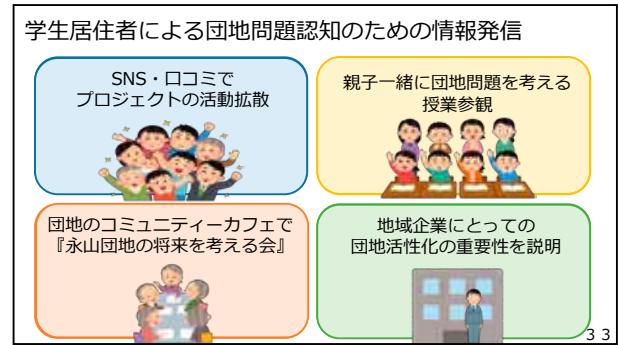
39



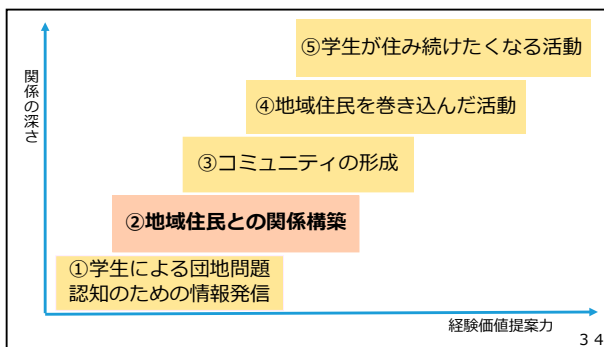
40



41



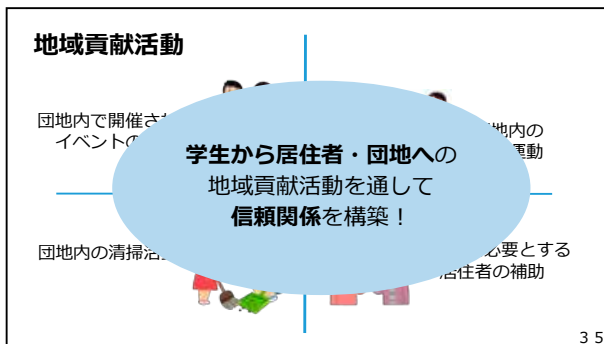
42



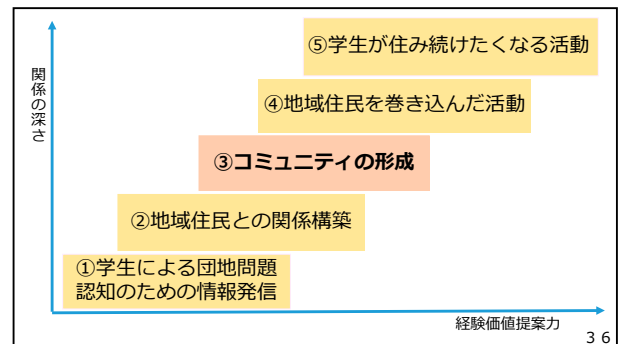
43



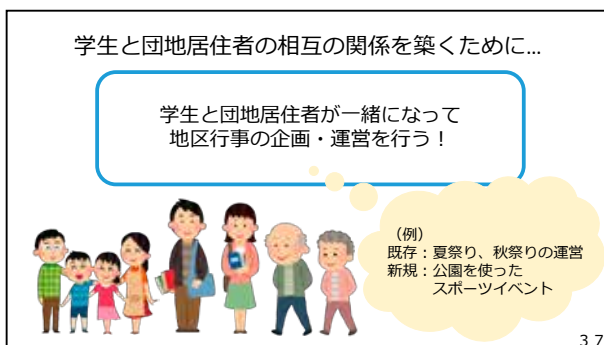
44



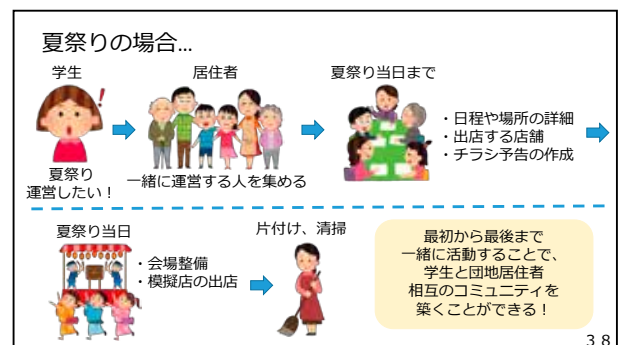
45



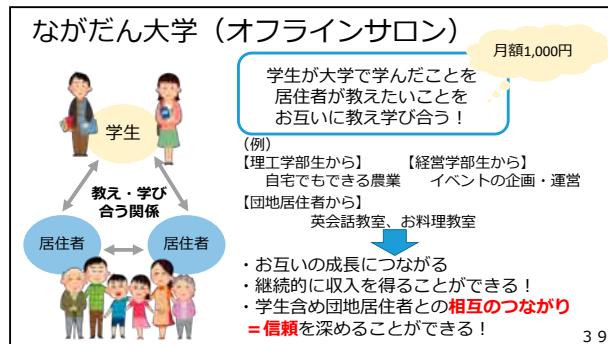
46



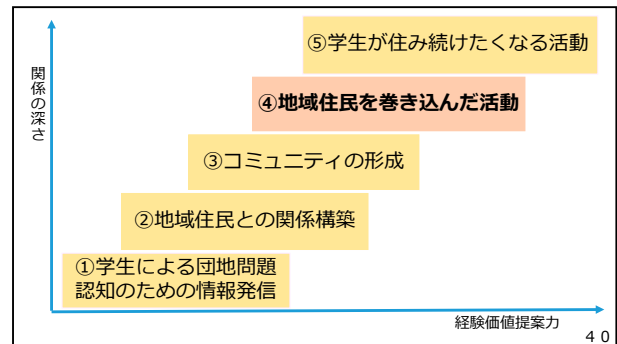
47



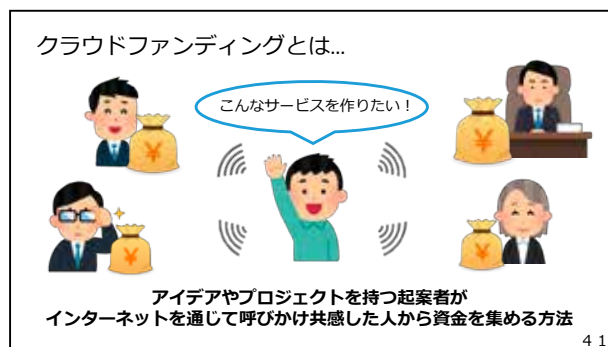
48



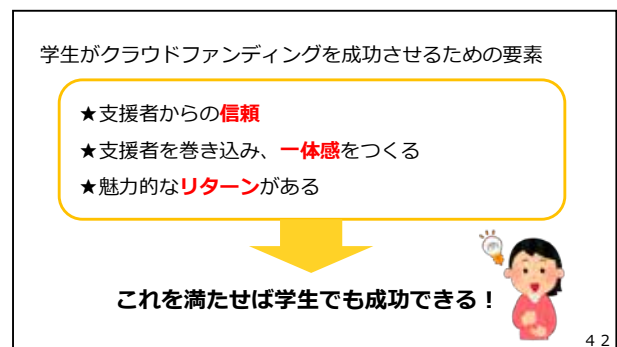
49



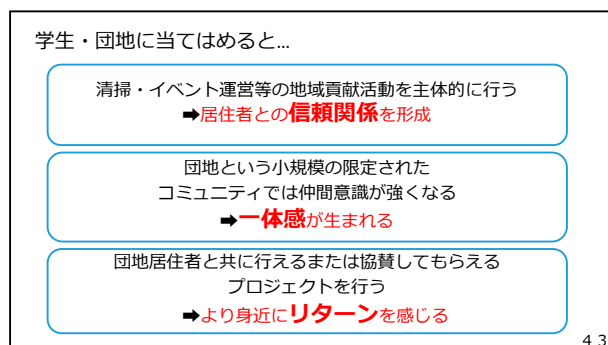
50



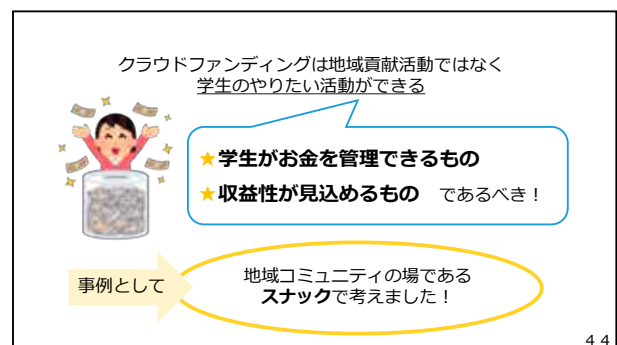
51



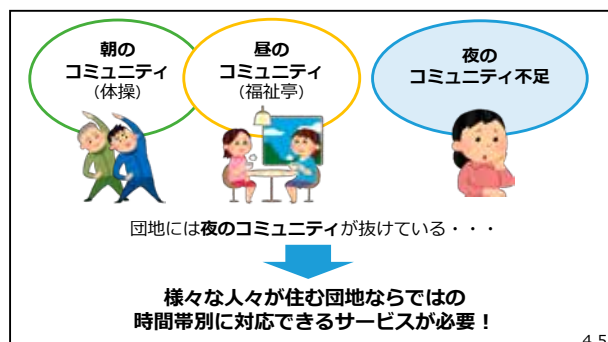
52



53



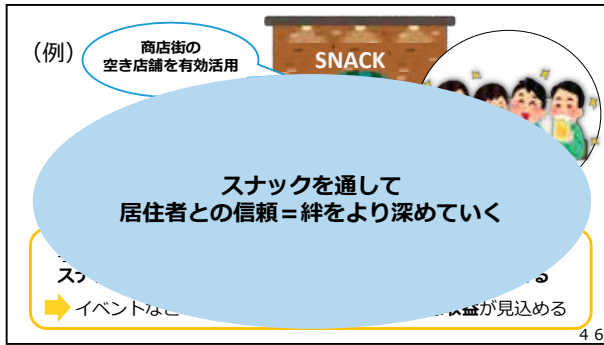
54



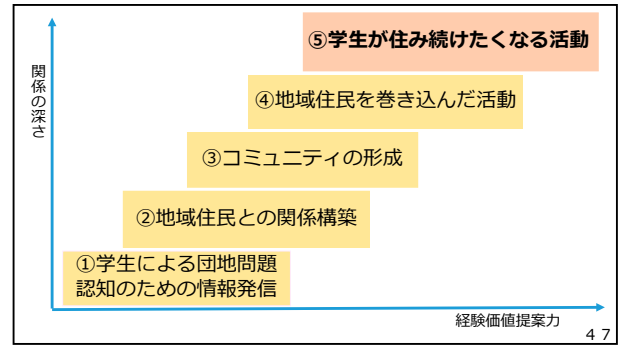
55



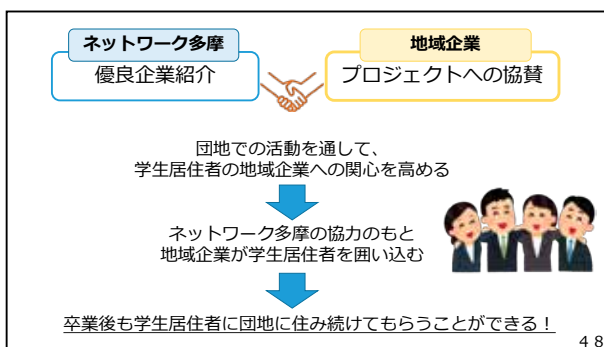
56



57



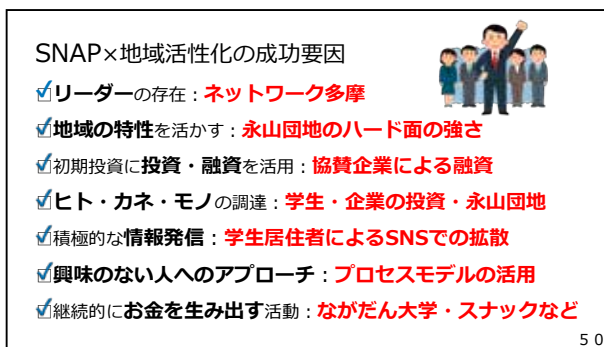
58



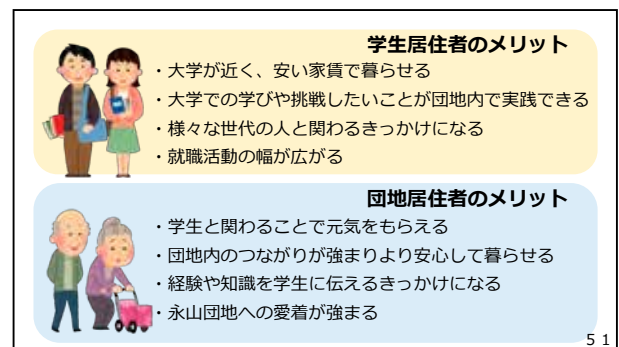
59



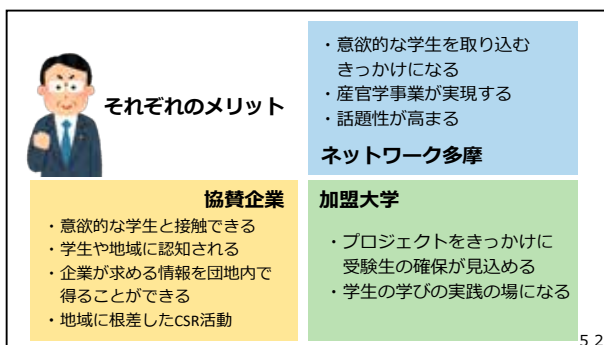
60



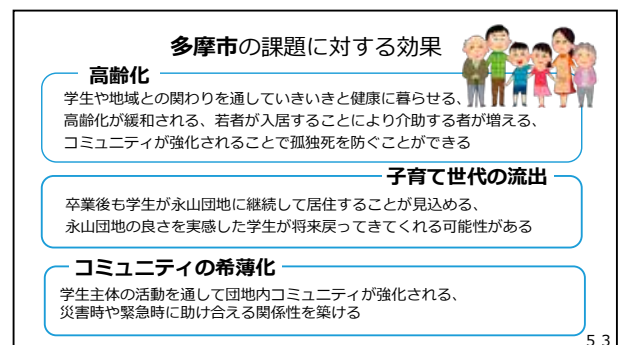
61



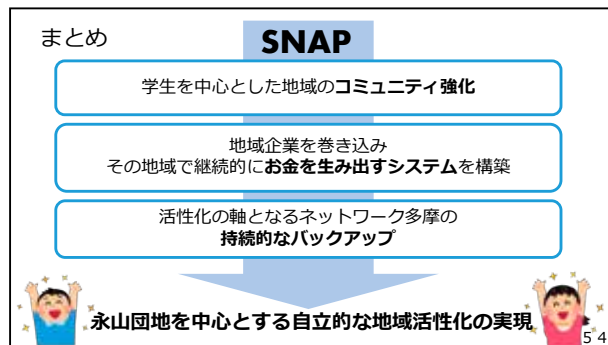
62



63



64



65



66

参考文献・参考URL

- 『地方は活性化するか否か マンガでわかる 地方のこれから』
こばやしたけし（2015年）学研プラス
- 『地域活性化のマーケティング』古川一郎（2011年）有斐閣
- 『地域活性化プロセスモデルに関する考察』関西学院大学商学部教授 和田充夫
- 『地域ブランドマネジメント』
和田充夫・菅野佐織・徳山美津恵・長尾雅信・若林宏保（2009年）有斐閣
- A-Port ホームページ <https://a-port.asahi.com/guide/>（2018年11月24日アクセス）
- DMMオンラインサロン ホームページ <https://lounge.dmm.com/page/beginner/>
（2018年12月7日アクセス）
- JKK東京 東京都住宅供給公社ホームページ
<http://www.to-kousya.or.jp/chintai/service/4-1-5.html>
（2018年10月17日アクセス）
- UR賃貸住宅ホームページ
<https://www.ur-net.go.jp/chintai/>（2018年10月31日アクセス）
- UR賃貸住宅＝居住者定期調査、全国＝国勢調査

67

参考URL

- 一般社団法人 全国住宅供給公社等連合会
<http://www.zenjyuren.or.jp/chihou.html>（2018年10月5日アクセス）
- 国土交通省 ホームページ
http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_hou_se_tk5_000067.html（2018年10月17日アクセス）
- 『国勢調査』総務省
2010年以降は「東京都男女年齢別（5歳階級）別人口の予測」
東京都総務局（平成20年）
- 佐伯悠・宮副謙司（2012年）『地域活性化プロセスモデルに関する考察』
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasmin/2012f/0/2012f_111/_pdf（2018年10月18日アクセス）
- 総務省統計局ホームページ
<http://www.stat.go.jp/data/topics/topi901.htm>
（2018年10月28日アクセス）

68

参考URL

- 独立行政法人 都市再生機構ホームページ
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/gskaigi/kaikaku/wg4/dai2/siryou6.pdf>
（2018年11月18日アクセス）
- ネットワーク多摩ホームページ
<https://nw-tama.jp/>（2018年11月17日アクセス）
- 平成25年 日本の地域別将来推計人口
<http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson13/t-page.asp>
（2018年11月18日アクセス）
- 平成28年 多摩市ニュータウン再生方針
http://www.city.tama.lg.jp/cmsfiles/contents/0000003/3185/tamashi_saiseihoushin.pdf.pdf（2018年11月18日アクセス）
- 平成28年度多摩市地域包括ケアの推進～地域支援機能の強化（永山モデル）
<http://www.city.tama.lg.jp/cmsfiles/contents/0000004/4681/28-1-4.pdf>
（2018年11月6日アクセス）

69



70

担当教員まとめ

高度経済成長時の住宅開発によって建設された団地は、都市でくらす生活の場の象徴だったといえる。しかし、近年においては、建物の老朽化、居住者の高齢化と買い物難民問題、「古い」、「ダサイ」などの理由から団地を敬遠する若者の団地離れなど様々な問題が生じていた。一方こうした問題に対して、団地の良さが再評価され、きれいで、住みやすい団地をリノベーションして提供する動きも活発化していた。

本研究では、こうした団地を取り巻く状況を整理した上で、団地問題解決には団地居住者に団地での生活に自信を持ってもらうことを目的としている。その目標として、コミュニティを円滑にすること、団地に住むことが誇りに思えること、団地に住むことの楽しさを提供できることなどを念頭に置き、「地域活性プロセスモデル」の考え方を援用し、大学生に団地に住んでもらい、団地や地域のイベントに協力したり、場合によっては団地の中にビジネスを生み出すような仕組みを提案している。団地問題の解決はハード面だけでなくソフト面での対応が必要不可欠である。その役割を大学生や産官学の連携の中に見出すことで、かつての団地の活気を取り戻し、団地の新たな魅力の発見が、持続可能な地域の活性には必要と考えられる。

専修大学 大崎ゼミナール ◆担当教員 大崎恒次

杏林大学 久野ゼミ 八王子YUKATA班

奨励賞

COOL HACHIOJI YUKATA FESTIVAL

～八王子発!産学官連携ゆかた振興プロジェクトの挑戦～



- ◆メンバー 大木麻由香、佐藤珠実、長谷川貴一、平井貴大、伊保善喜、高橋凌
- ◆担当教員 久野新

発表概要

当プロジェクトは、外国人から絶大な注目を浴び続けている着物文化の衰退が問題視されている中、かつて桑のまち桑都と呼ばれ繊維産業が発展していた八王子において、外国人と近年「着物離れ」が進む若者をターゲットに浴衣の魅力を伝えることで着物文化の振興を目的とした学生主体の産学官連携プロジェクトであり、本年度で三年目を迎えた。

具体的には、背景として着物市場規模がここ十年間で約半分に、それに伴い全国の呉服店数も最盛期の三分の一にまで減少、世代別着物保有数が若い人ほど特に低くその多くの理由が「着付けが出来ないから」「そもそも生活の中で着る機会がないから」という複数の課題があり、これらを解決するため横浜国立大学大矢教授の「着物文化への関心を高めるために、浴衣の着用が有効である」という研究結果のもとで八王子の市役所、商工会議所、織物工業組合、老舗和服卸売商社、市内複数の大学・専門学校の学生等と連携し、「COOL HACHIOJI YUKATA FESTIVAL」を開催し、外国人や若者に対して浴衣の魅力を伝えるための各種取組み（着付け指導、浴衣着用でのダンス、合唱、マジック、きこなしコンテスト等）を行った。

活動の目的

当プロジェクトの目的は、多摩地域における着物文化振興である。そのためにも、既存の研究結果から判明していることである「着物文化への関心を高める浴衣の着用」から、若者を対象に浴衣の魅力を発信するための新たな企画を立案、実践することを目指した。具体的には、「COOL HACHIOJI YUKATA FESTIVAL」を開催することで、市内の複数の団体と連携することに成功。また、当日は観客600人以上を呼びこむことができ、魅力が伝わったかどうかのアンケート調査では9割以上の方から前向きな回答をいただくことができた。このことから、我々の目的である「浴衣の魅力を伝える」ことは成功したと言える。この成果を足がかりとして、次年度からは着物文化振興のために、ゆかたの即売会や、ゆかたの新たなデザインを大学生から募りコンテストを開催、着用方法を発信するコンテストの実施を行い、私たちの目的である着物への展開を予定しています。

活動の内容・様子

若者に着物文化を発信するために、親しみがある浴衣を利用し、新たな魅力を発信するためにイベント当日はいくつかの取り組みを行った。具体的には、市内大学によるゆかたを着たアカペラ披露（首都大学）、浴衣を着たロボットダンス（帝京大学）。また、市内アポロ美容理容専門学校による浴衣に似合う無料ヘアアレンジの提供。さらに、ゆかたを着た市内児童合唱団による夏歌メドレーを披露。外国人へのおもてなしメニューは、着付け体験+たたみ方講習会、浴衣に似合う和風のヘアアレンジ体験、着付け体験の感想を語ってもらうコーナーの設置、夏の日本の食文化を楽しんでもらうため、かき氷の無償提供、試着したゆかたや帯をプレゼントを実施。



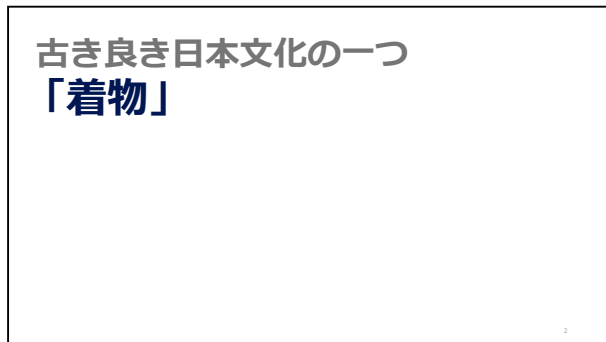
活動の成果

以下4点が期待される。第一に、本取組みを通じ、若者が日本の伝統文化である浴衣の魅力を再認識したという効果。第二に、外国人向けに浴衣文化（着付け体験、畳み方講習会）の場を提供することで、浴衣の魅力が国際的に広まったという効果。第三に、市内複数の大学と専門学校の学生が連携して地域課題に取り組む機会が創出されたという効果。第四に、当イベントを継続的に行なうことで「織物のまち八王子」としてのブランドイメージが再生するという効果。

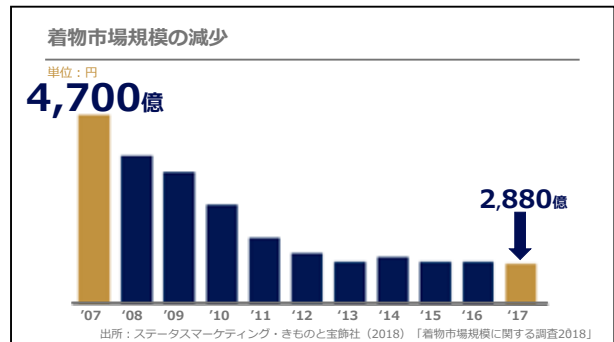


参考文献

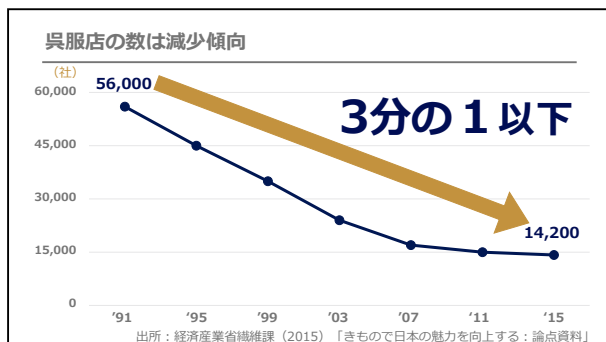
- [1] ステータスマーケティング・きものと宝飾社 (2018)「着物市場規模に関する調査2018」
<http://status-marketing.com/20180130-2686.html>
- [2] 経済産業省繊維課 (2015)「きもので日本の魅力を向上する：論点資料」
http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seizou/wasou_shinkou/pdf/001_03_00.pdf
- [3] インターワイヤード株式会社 (2006)「きものに関するアンケート」
<http://www.dims.ne.jp/timelyresearch/2006/060302/index.html>
- [4] 京都市産業環境局商工部伝統産業課 (2011)「着物関連市場における新たなセグメントとその犠牲の分析」
<http://www.consortium.or.jp/wp-content/uploads/seisaku/5137/2013kimono.pdf>
- [5] 経済産業省 (2017)「和装の持続的発展のための商慣行のあり方について」
http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seizou/wasou_shinkou/pdf/005_s02_00.pdf
- [6] 経済産業省繊維課 (2018)「繊維産業の課題と経済産業省の取り組み」
http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/fiber/pdf/180620seni_kadai_torikumi_r.pdf
- [7] 八王子市 (2013)「魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち」八王子を目指して」
http://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/001/001/005/007/p006477_d/fil/sangyosinkoumasterplan2.pdf
- [8] 繊維産業 (2017)「繊維産業の動向」
- [9] <http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/bunseki/pdf/h17/h4a0603j2.pdf>
- [10] 大矢 幸江 1、薩本 弥生 2 (2017)「ゆかた着がききもの文化への関心に及ぼす効果」東京学芸大 1、横浜国立大 2
- [11] https://www.jstage.jst.go.jp/article/kasei/69/0/69_29/_pdf/-char/ja
- [12] 藤澤 桃美「きものという日本文化」高崎経済大学
- [13] <http://www1.tcue.ac.jp/home1/takamatsu/107387/sotsuron.pdf>
- [14] 清水 裕子、佐々木 和也、張永春 「着物と浴衣の着装実態と今後の発展 ― 中国の民族服と比較して ―」宇都宮大学
- [15] <https://uuair.lib.utsunomiya-u.ac.jp/dspace/bitstream/10241/6986/1/59-1-009.pdf>
- [16] 澤村 英子 1 工藤 芳彰 2 坪郷 英彦 3 「八王子旧市街上地区の祭礼にみる服飾デザイン」
- [17] 山野美容芸術短期大学 1 拓殖大学 2 山口大学 3
- [18] https://www.jstage.jst.go.jp/article/jssd/56/0/56_0_E08/_pdf/-char/ja
- [19] 豊田幸子、山本寿子「和服着装に関する研究 (第1報) 浴衣と帯の利用について」名古屋女子大学
- [20] <https://ci.nii.ac.jp/els/contents110000470847.pdf?id=ART0000852817>
- [21] 矢澤 利枝香「和装産業における浴衣市場の実態」共立女子大学
- [22] https://kyoritsu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=3181&item_no=1&page_id=28&block_id=27
- [23] _id=3181&item_no=1&page_id=28&block_id=27
- [24] 井野 真友美「きもの文化の海外発信をめざした浴衣の着装を含む授業実践とその効果の解析」
- [25] http://ynu-satsumoto-labo.ynu.ac.jp/data/member/023_ino/ino_soturon.pdf



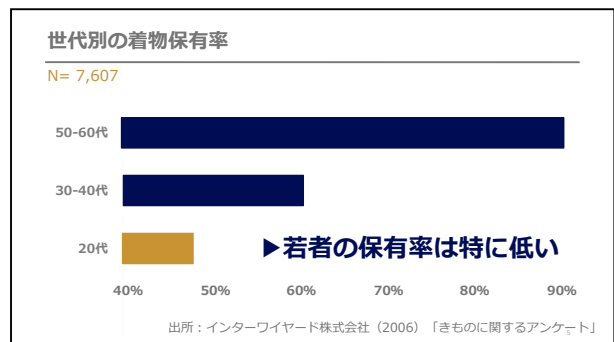
1



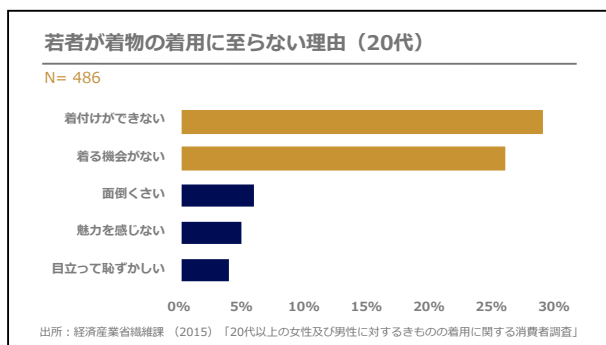
2



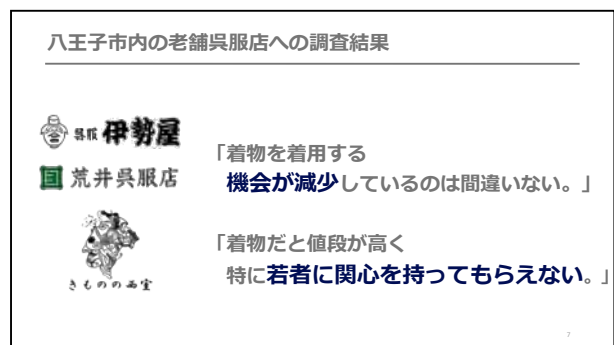
3



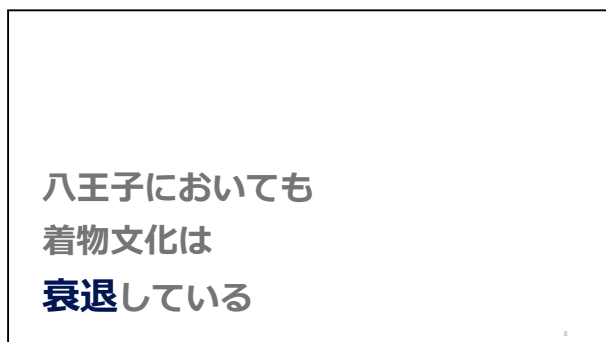
4



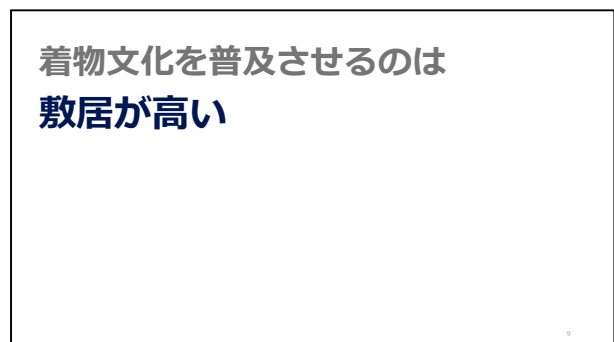
5



6



7



8



9

着物とゆかたの比較		
	着物	ゆかた
装具の数が少ない	×	○
一人で着付ができる	△	○
値段が安い	×	◎
カジュアルに着用できる	×	◎

10

先行研究においても。。。。

“ 着物文化への
関心を高めるために
ゆかたの着装が有効である ”

出所：大矢・藤本（2017）「ゆかた着装が着物文化への関心に及ぼす効果」

11

若者にゆかたの魅力を
発信するための取り組み



企画できないか？

12

COOL HACHIOJI YUKATA FESTIVAL ～八王子発！産学官連携ゆかた振興プロジェクトの挑戦～

杏林大学久野ゼミナール
八王子YUKATA班
伊保 大木 佐藤 高橋 長谷川 平井

13

アウトライン

- 1 … プロジェクトの概要
- 2 … プロジェクトの成果
- 3 … 新規性
- 4 … 今後の展望

14

「我々が学ぶ八王子」において
外国人と若者をターゲットに
ゆかたの魅力を発信することを目指す
産学官連携プロジェクト



15

1. 取り組みの概要

ゆかた文化の新たな魅力発信に向けて

16



17

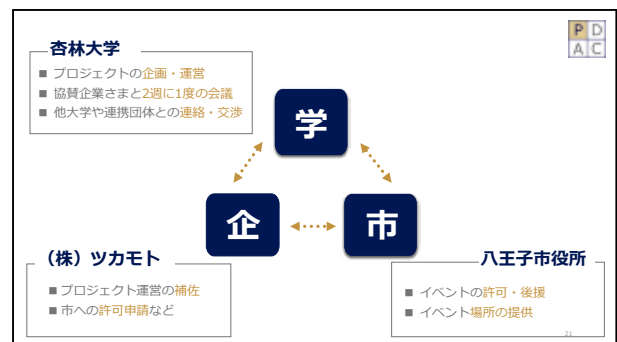


18

プロジェクトの概要

主体：市内大学生
対象：多摩地域の学生・留学生＋八王子市民
目的：ゆかたの新たな魅力発信
日程：7月第1週週末開催（夏の風物市）
場所：八王子駅前（西放射線ユーロード）
開始：三年連続実施中

19



20

協賛
 NPO法人心創り・智慧創り研究所
 ツカモトコーポレーション、西武信用金庫

後援
 八王子市、八王子商工会議所
 八王子織物工業組合、東京織物卸商業組合
 公益社団法人八王子観光コンベンション協会

協力
 荒井呉服店、呉服伊勢屋、坂本呉服店、きものの西室

21



22



23



24



25



26



27



28

- ・他大学との連携開始 (首都大、明星大)
- ・外国人向けイベント開始
- ・大幅な観客増加 (約150→300人)
- ・Cool Japanマークの取得

P
D
A
C

Good

30

29



30

Bad

- ・連携した大学が限定的
- ・外国人へのおもてなし不十分
- ・途中で席を離れる観客多数

P
D
A
C

32

31

2016

2017

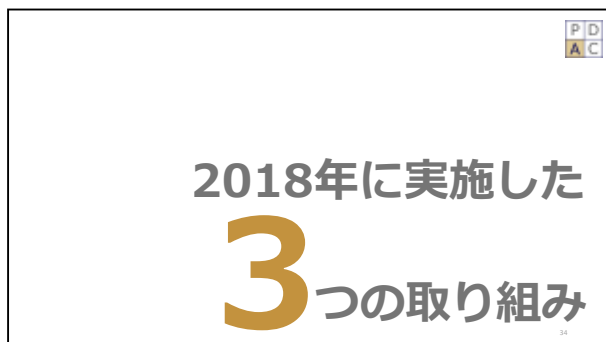
2018

P
D
A
C

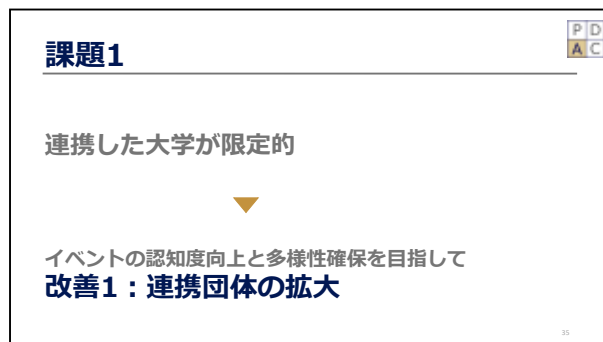
第1回 着こなしコンテスト ゆかた × ダンス	第2回 着こなしコンテスト ゆかた × ダンス ゆかた × マジック ゆかた × アカベラ 外国人ゆかた体験	第3回 着こなしコンテスト ゆかた × ダンス ゆかた × ちびっこ合唱 外国人へアレンジ 外国人ゆかた体験 一般投票 かき氷出店
--	---	--

33

32



33



34



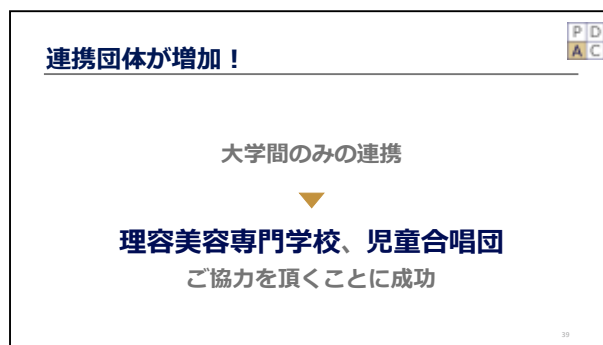
35



36



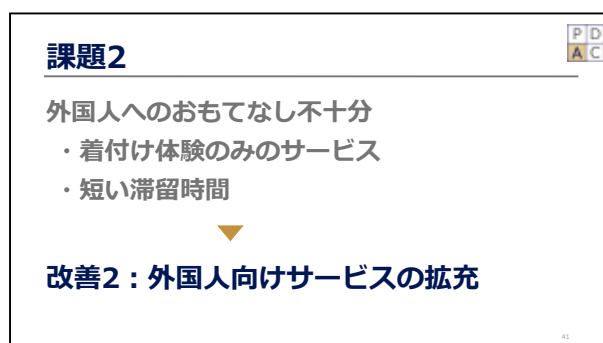
37



38



39



40



着付け体験 + 畳み方練習会

41



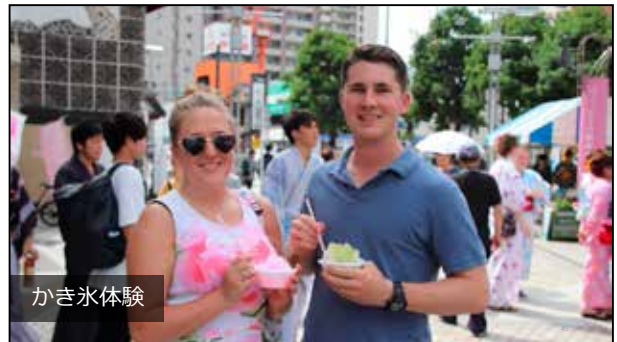
ヘアアレンジ体験

42



ゆかたスピーチ

43



かき氷体験

44



ゆかたプレゼント

45

P
D
A
C

課題3

途中で席を離れる観客多数
観客との一体感が無い

▼

観客も楽しめる体験型のイベントを目指して

改善3：一般投票制度を用いた集客
イベント会場の拡大
広報活動の強化

47

46



一般投票制度

47

P
D
A
C

2016：八王子駅南口とちの木デッキ

人通りが少ない

2017：八王子西放射線ユーロード三崎町公園

会場が狭い

2018：八王子西放射線ユーロード横山町公園

人通りが多く、会場も広い

48

48

イベント・ポスター掲示協力大学

■ 共立女子大学	■ 中央大学
■ 杏林大学	■ 帝京大学
■ 工学院大学	■ 東京工科大学
■ 首都大学東京	■ 東京純心大学
■ 創価大学	■ 東京薬科大学
■ 法政大学	■ トヨタ自動車大学校
■ 創価女子短期大学	■ アジア・アフリカ語学学院

49

イベント・ポスター掲示協力大学

■ 共立女子大学 ■ 中央大学

14大学

■ 法政大学 ■ トヨタ自動車大学校
■ 創価女子短期大学 ■ アジア・アフリカ語学学院

50

イベント・ポスター掲示協力企業（ユーロード周辺）

■ ビスコpanda喫茶	■ ぶんびん亭	■ 小田原屋
■ 油そば	■ サンクス	■ ファイテン
■ うさぎや靴屋	■ 茶房田園	■ ソエダシューズ
■ はきものふくしま	■ 八王子美顔教室	■ メガネの梅谷
■ Family mart	■ セブンイレブン	■ パリスミキ
■ ブラザセントラル	■ ファミリーマート	■ 金中商店
■ EAETH	■ 布屋パン	■ キクマツヤ
■ 大橋屋	■ 喜多方ラーメン	■ 竹の屋
■ PAO	■ くまざわ書店	■ 横溝商店
■ 学園都市センター	■ 小原式生け花教室	■ Over
		■ フルーツアンドワインつねかわ

51

イベント・ポスター掲示協力企業（ユーロード周辺）

■ ビスコpanda喫茶	■ ぶんびん亭	■ 小田原屋
■ 油そば	■ サンクス	■ ファイテン

32店舗

■ PAO ■ くまざわ書店 ■ 横溝商店
■ 学園都市センター ■ 小原式生け花教室 ■ Over
■ フルーツアンドワインつねかわ

52

COOL HACHIOJI YUKATA FESTIVAL

八王子 × 浴衣

8月17日(土) 15:00~18:00

会場：八王子市立中央公民館 大会場

入場料：無料

お問い合わせ：0426-22-1111

53

ゆかた着こなしコンテスト応募学生総数

青山学院大学	創価大学	東京薬科大学
アジア・アフリカ語学院	創価女子短期大学	東京スイーツ&カフェ専門学校
桜美林大学	玉川大学	東洋大学
共立女子大学	中央大学	トヨタ東京自動車大学校
杏林大学	津田塾大学	日本大学
工学院大学	帝京大学	日本女子大学
駒澤大学	東京医科大学	フェリス学院大学
埼玉医科大学	東京家政学院大学	法政大学
実践女子大学	東京学芸大学	明治学院大学
首都大学東京	東京工学院専門学校	明治大学
女子美術大学	東京純心大学	明星大学
		早稲田大学

54

ゆかた着こなしコンテスト応募学生総数

3年間の総応募者数

295名

青山学院大学 創価大学 東京薬科大学
アジア・アフリカ語学院 創価女子短期大学 東京スイーツ&カフェ専門学校
桜美林大学 玉川大学 東洋大学
共立女子大学 中央大学 トヨタ東京自動車大学校
杏林大学 津田塾大学 日本大学
工学院大学 帝京大学 日本女子大学
駒澤大学 東京医科大学 フェリス学院大学
埼玉医科大学 東京家政学院大学 法政大学
実践女子大学 東京学芸大学 明治学院大学
首都大学東京 東京工学院専門学校 明治大学
女子美術大学 東京純心大学 明星大学
早稲田大学

55

2.プロジェクトの成果

本イベントにおける
3つの成果

56

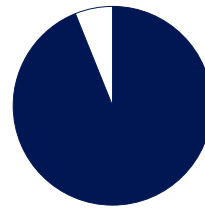
若者が日本の
伝統文化である
ゆかたの魅力を再認識した

1

57

若者アンケート結果：
ゆかたに魅力を感じた若者（出場者）の割合

N=33



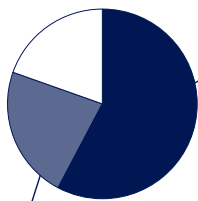
魅力を感じた！
93.9%

出所：久野ゼミアンケート調査（2018年イベント当日実施）

58

満足度調査：
ゆかたに魅力を感じた観客の割合

N=122



非常に伝わった（56%）

78%

出所：久野ゼミアンケート調査（2018年イベント当日実施）

伝わった（22%）

59



60



61

外国人にゆかた文化を
体験してもらうことで
ゆかたの魅力が国際的に広まった

2

62

母国の友人にゆかた文化を勧めたい！
おもてなしを大変実感しました！



63

多摩地域の複数
大学・専門学校の学生が
連携し課題に取り組む
機会が創出された

3

64

P D
A C

若者や外国人へ
ゆかたの「**新たな魅力**」を
発信することに成功！

65

65

P D
A C

プロジェクトに集まった協賛金

3年間合計で

759万円

66

66

P D
A C

ゆかたの若者・外国人への浸透

提供枚数

292枚

67

67

景品・賞金
設営費
広告費

68

68

P D
A C

3.新規性

本プロジェクトの付加価値

69

69

P D
A C

先行事例：自治体

岩手県 盛岡市役所
市内商業の活性化を目指し
市内各地でゆかたイベントの開催

宮崎県 えびの市役所
浴衣を着て京町温泉郷の飲食店を利用し
連携店舗が割引になるキャンペーン

70

70

P D
A C

先行事例：産業界

楽天株式会社
社員同士のつながりや理解を深めるため
ゆかたを着て出勤、社内パーティー

(株) ストライプインターナショナル
和装という日本カルチャーを世界へ発信
ナイトパーティーでゆかたレンタル

71

71

P D
A C

先行事例：大学

「浴衣DAY」 共立女子大学
和装業界の振興を目指し
産学連携による和装文化の伝承

「上智浴衣デー」 上智大学
大学の活性化を目指し
留学生へ日本の伝統文化体験を提供

72

72

新規性 1

産学官が連携し
学生が主体となって
企画・運営し
複数年継続中

COOL
HACHIOJI
YUKATA
FESTIVAL

73



74

2016 2017 2018

第1回
着こなしコンテスト
ゆかた × ダンス

第2回
着こなしコンテスト
ゆかた × ダンス
ゆかた × マジック
ゆかた × アカベラ
外国人ゆかた体験

第3回
着こなしコンテスト
ゆかた × ダンス
ゆかた × ちびっこ合唱
外国人へアアアレンジ
外国人ゆかた体験
一般投票
かき氷出店

COOL
HACHIOJI
YUKATA
FESTIVAL

75

新規性 2

大学の垣根を超え
市内複数の大学や
専門学校と連携した
ゆかた振興プロジェクト

COOL
HACHIOJI
YUKATA
FESTIVAL

76

多くの大学のご協力を経て

アポロ美容理容専門学校 児童会合唱 こんぺいとうの空

杏林大学 帝京大学

明星大学 首都大学東京

77

多くの大学のご協力を経て

大学横断的に

明星大学 首都大学東京

78

4.今後の展望

来年度以降に向けて

79

来年度に向けて

① 取り組み内容の工夫

② 資金調達面の工夫

80

1
イベント内
浴衣即売

2
ゆかたデザイン
コンテスト

3
YUKATA DAY
in TAKAO

着物への展開

81

取り組みの工夫

是非、我々と
コラボレーションしませんか？

(株) 共立トラスト
代表取締役 小原 社長

**2019年度
連携に向けて協議開始！**

81

花魁ゆかた & 忍者体験

82

資金調達面の工夫

83

資金調達面の工夫

クラウドファンディングを活用

84

継続性

85

イベント補助（二年生）

先輩の補佐

イベント運営（三年生）

主体的にイベントを企画・運営
(部門別リーダー、外部団体との調整役)

社会人から学生へ、先輩から後輩へ

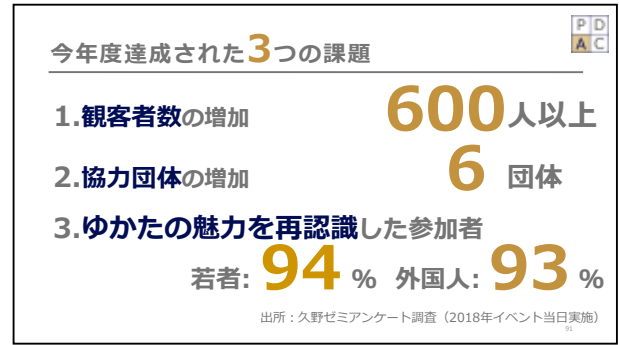
**企画・運営ノウハウの継承
前年度課題の引継ぎと解決（PDCA）**

86

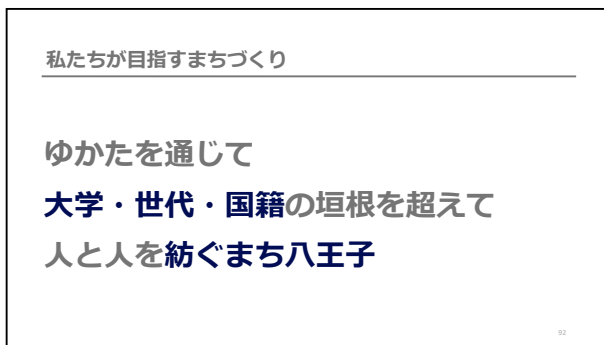
87



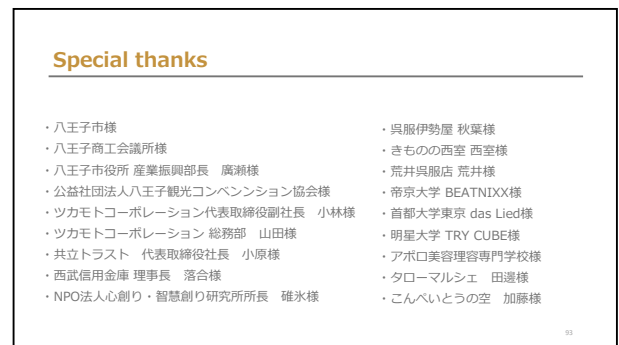
89



90



91



92



93



94



95

教員まとめ

この度は多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2018の本選に参加させて頂き、また、予選・本選で有意義なコメントを多数頂き、有難うございました。本プロジェクトは、200年以上の歴史を持つ総合繊維商社であり、近年は若者に対する和装文化の普及活動にも取り組まれている株式会社ツカモトコーポレーション様よりお声がけ頂いたことで、始動しました。プロジェクトの目標は、若者や外国人等に対して浴衣の「新たな魅力」を発信するための催物を企画し、実施し、定着させること。プロジェクトを通じて、学生たちは、「実現可能性」と「意外性」の両面を睨みながら、何百というアイディアの卵から最適なもの見つけて孵化させ、行動可能な計画に落とし込み、実行することの難しさと楽しさを実感したと思います。同時に、プロジェクトに投入可能な時間、予算、マンパワーには限りがある、という当たり前のことも随所で痛感したようです。お陰様で、本プロジェクトは今年度で3年目を迎え、今では多摩地域の複数の大学の団体が関与し、600名以上の観客を動員する催しにまで発展いたしました。これもひとえに、ツカモトコーポレーション様を始め、ご支援・ご協力頂いた皆様方のお力添えがあったからこそです。この場をお借りし、ご関係者の皆様に再度御礼申し上げます。

杏林大学 久野ゼミ 八王子YUKATA班 ◆担当教員 久野新

奨励賞 杏林大学 久野ゼミ 八王子YUKATA班 「COOL HACHIOJI YUKATA FESTIVAL」

中央大学 商学部3年 根本ゼミ
奨励賞

福祉バスが運ぶ知識と記憶

～共働き世帯の負担削減を目指して～



- ◆メンバー 月村佑平、西澤和哉、向井さき、三村佳凜、渡知佳、紀藤春佳
- ◆担当教員 根本忠宣

発表概要

1990年代の後半辺りから、夫婦の共働きが片働きを逆転するようになり、子供が保育園に通ったり自宅で留守番する機会が増えました。その結果、学びの機会は増えているにもかかわらず実際に子供達が様々な経験をする機会はむしろ減っています。そこで根本ゼミでは、共働き世帯の負担軽減、そして子供達が様々な事を体験できる事を目的としたワークショップを提案しました。

私達は福生市で行われた将来の福生市について話し合う「Fussa world cafe」で、多くの参加者から指摘された「コミュニティバスの創設」と「安心安全で住みやすい街づくり」という課題に注目しました。現状において福生市にはコミュニティバスはなく、民間のバスが市内を運行しています。そこで、前述した課題解決を目的として、福生市の有効資源である「福祉バス」を用いた子供達への学びの場の提供について検討しました。これによって土日に子供達を預かることで共働き夫婦の負担を減らし、過ごしやすい環境を提供します。具体的には、子供達の習い事を斡旋する「ぶれプレ」、多摩地域の様々なスポットを訪れて地域の由来などを学ぶ「たまする」、大学生が子供達に勉強などの指導を行う「ゆに育」の三本構成で実行します。将来的には福生市内のイベントとうまく結びつけることで市内の定住促進が見込めます。

活動の目的

近年、子供達が実体験できる機会は限られています。子供達の「なぜ、なに？」という疑問はインターネットで解決するのが今の主流です。

私達は子供達本人の目・耳・心で感じて疑問を解決するという機会を作り、新たな知識を育成する、心理的に多摩地域への愛着を持ってもらい、記憶に残すという事を目的にしています。そして、子供同士、子供達と大学生や高齢者などが関わる事で新たなコミュニティの創設にも繋がります。また、福生市の「福祉バス」は他の多摩地域にはない有効資源であると考え、「コミュニティバスの創設」の代替として十分に効果を発揮し、課題解決に繋がると考えました。

「共働きが子育てしやすい街」という強みを持つ福生市で実現例を出す事で、私達の活動をモデルケースとし、今後は他大学と他市などでも実現可能になるのではないかと考えています。

活動の内容・様子

活動は放課後や休日を利用しました。ゼミの授業内で他のゼミのメンバーや教授からフィードバックを受け、発表の修正・向上に努めました。福生市の将来について語り合う「Fussa world café」での聞き取り調査を行い、現状分析に生かしました。また、多摩動物公園で0歳から10歳の子を持つ父母にアンケートを行い、イベント企画のアイデアを参考にさせてもらい、今回の提案に繋がりました。



活動の成果

この活動を通して、私達自身が多摩地域の魅力を再発見することができたと思います。また、多くの方からお話を聞く機会を頂き、私達の活動に対してアドバイスを頂きました。来年度以降も頂いたアドバイスを元に、さらにこの活動を発展させていけるよう引き続き検討していくつもりです。

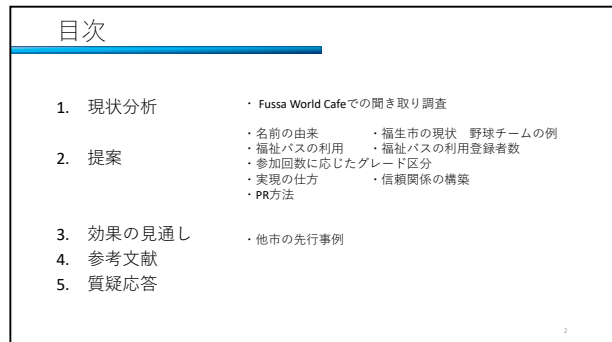


参考文献

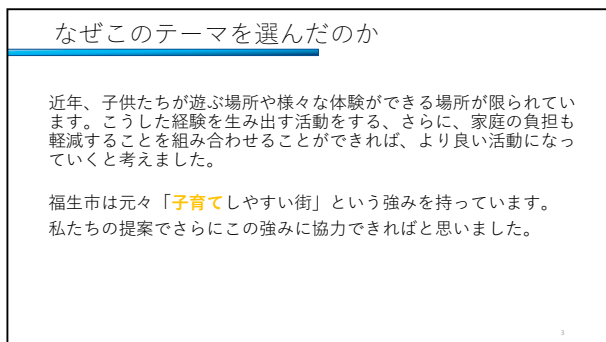
- [1] 総務省「平成27年度国勢調査」
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200521&tstat=000001080615&cycle=0&tclass1=000001104835&tclass2=000001105415&tclass3=000001105428&second2=1>
- [2] 福生市 公式ホームページ
www.city.fussa.tokyo.jp/
- [3] 福生市 「平成27年度事業報告」
<http://www.city.fussa.tokyo.jp/municipal/aboutfussa/data/jimu/1005680.html>
- [4] 福生市 「平成30年度人口統計」
<http://www.city.fussa.tokyo.jp/municipal/aboutfussa/profile/1003155.html>
- [5] 福生市 「人口統計過去のデータ」
<http://www.city.fussa.tokyo.jp/municipal/aboutfussa/profile/1003156.html>
- [6] 福生市 「福祉バスについて」
<http://www.city.fussa.tokyo.jp/life/health/welfare/1002361.html>
- [7] 立川バス
<http://www.tachikawabus.co.jp/>
- [8] 熊本県合志市 「公共交通ガイドマップ」
https://www.city.koshi.lg.jp/one_html3/pub/default.aspx?c_id=314
- [9] 千葉県印西市 「コミュニティバスふれあいバス」
<http://www.city.inzai.lg.jp/0000000795.html>
- [10] 東京都稲城市 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」
https://www.city.inagi.tokyo.jp/shisei/keikaku_hokoku/gyousei/matihitosigotosousei/index.html



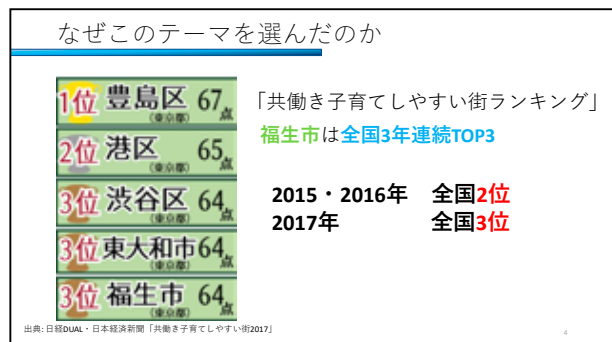
1



2



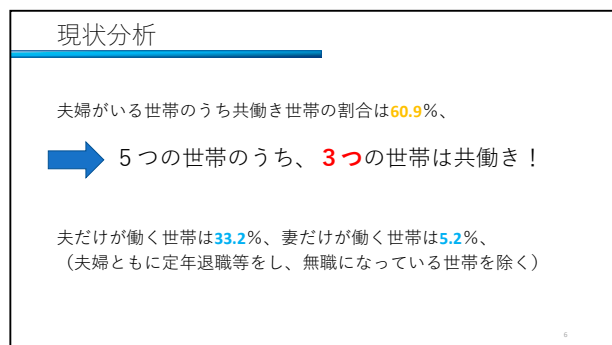
3



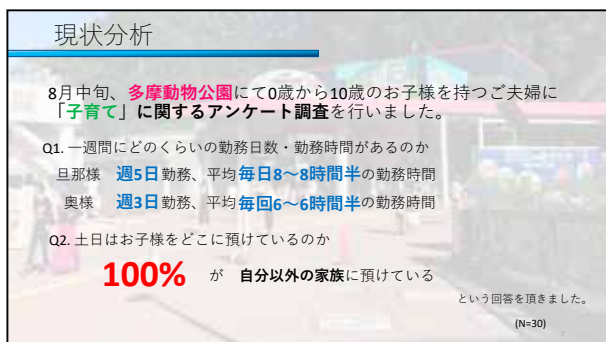
4



5



6



7



8

ターゲット

共働き世帯の子供(年中～小学校3年生を想定)

1人で留守番させるには不安な子供たちを土日を中心に預かる。
家事・育児の負担を軽減しつつ、両親がいないと
日頃経験しにくい活動に参加できる仕組みを作る。

9

Fussa World Cafe での聞き取り調査

5月18日、参加者は全部で40名程度で市内在住の18歳以上、老若男女が
4～6人のいくつかのグループに分かれて「未来の福生市」について話
し合いました。

出た意見の中で私たちが注目したものとしては

- ・ **コミュニティバス**の創設
- ・ **安全安心**で住みやすいまち

といったものがありました。

10

提案

ぶれブレ

習い事



たまする

アクティビティ



ゆに育

勉強



11

名前の由来

“前”を表す「ぶれ」と「PLAY」を合わせて習い事
を「事前に体験」してみるということを表して

コンセプト
「魅力発見！実感する多摩」

ゆに育
Universityの「ゆに」と学力を「育てる・育む」を
合わせました。

12

「ぶれブレ」で発生するWin-Winの関係

野球やって
みたいな...



→

選手増やし
たいな...



13

福生市の現状 野球チームの例

元々**8チーム**



2チームが消滅し
6チームに

14

福生市の現状 野球チームの例



青梅市

瑞穂町

あきる野市

5チームが他市から参加
して市内の大会を運営

15

「ぶれブレ」の実現例

2018 12月

子供達は
週ごとで比較！

16

福祉バスの利用

福生市福祉バス

もくせい号

つつじ号



市内を回り、家の前まで送迎することが可能なので安心

(※橋田基地による補助金を活用)

17

多摩地域のコミュニティバス

例: 立川バス(民間企業)のコミュニティバス

くるりんバス(立川市)

昭島Aバス(昭島市)



※その他国立市・武蔵村山市・国分寺市でもそれぞれ運行

18

福祉バスの利用登録者数

高齢者の福祉バス登録状況

対象者
18,314人

未就学児の福祉バス登録状況

対象者
2,454人

登録者
1,957人
(68%)

未就学児の登録率は
高齢者と比べて
かなり高い!

出典: 福生市 平成28年度事業報告

19

「たまする」の実現例

観光に行くだけでなく、様々な
アクティビティを行えるスポットを訪れる

モリバータ アウトドア
ビレッジ(昭島市)

昭和記念公園

多摩六都科学館



※バス利用に伴う費用がかかるため、1回1000円の徴収を行う。

20

「たまする」の実現例

行き先で体を動かす

地域の高齢者と昔遊び



新たなつながりを生み出す!

21

「たまする」の実現例

多摩地域に関するクイズを
クリアすると「たまはかせ」
解きながら先へ進む として認定証をプレゼント



画像: 東京ミステリーサーカス「MYSTERY MAIL BOX」

22

「たまする」の実現例

- Q1. サンリオピューロランドがあるのは ① 市
- Q2. 日野自動車がつくるのは ②
- Q3. 福生市の市の鳥は ③
- Q4. 立川市にある国営公園は ④ 記念公園
- ① ② ③ ④ → 多摩川

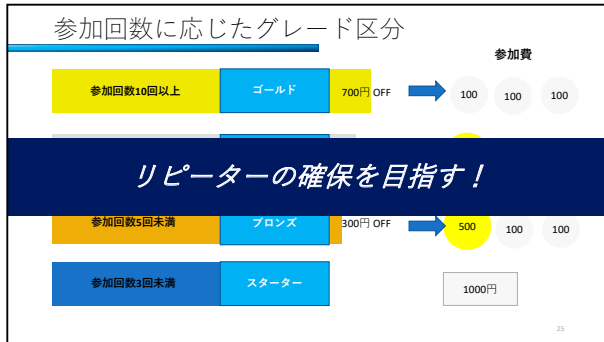
23

「たまする」の実現例

団体なら1日300円であらゆるケガに対応



24



25

「ゆに育」の実現例

中央大学と連携し、大学生が小学生の勉強を教えるサービス




26

「ゆに育」の実現例

未就学児には**ゲーム** **小学生**には宿題等の指導を行う




※指導する学生もゲーム担当と勉強担当に役割分担し、学生運営の負担軽減と子どもたちと密接に関われるような仕組みにする。

27

「ゆに育」の実現例

ネットワーク多摩の単位互換活動に**中央大学**も参加し、大学生の参加者確保を促す。

また、**単位互換**にすることで他大学からも参加できるようにする。



28

「ゆに育」の実現例

将来的には**中央大学**を拠点とし、半年に一回程度、周辺大学の参加者と集まる日を設定する。




29

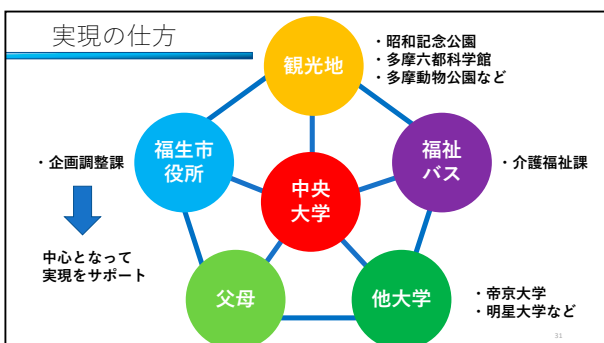
「ゆに育」の実現例

明星大学 教育学部 教育学科 特別支援教員コース → **福生市の特別支援学級の生徒を対象にしたツアー**

帝京大学 初等教育学科 こども教育コース → **未就学児に限定したツアー**




30



31

信頼関係の構築

ふっさっ子の広場

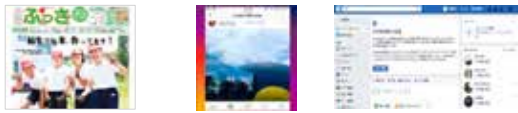
2007年(平成19年)に開始された、放課後に学校で行っている預かりサービスのこと。指導員やシルバー人材センターの方、さらには登録したサポーターたち4人が常駐し、子どもたちに勉強・遊びを通して指導を行っている。

現在高校生・大学生を含むサポーターは550人以上在籍し、様々な活動に携わっている。

32

PR方法

広報ふっさ Instagram facebook



#ふれブレ#たまする#ゆに育をつけて
それぞれ投稿!

33

効果の見通し

子供たちと
学生・高齢者が関わる

↓

新たなつながりや
コミュニティの形成



34

効果の見通し

市をあげた
イベントの開催

↓

定住促進効果の発生



35

他市の先行事例

千葉県 印西市 ふれあいバス

熊本県 合志市 レターバス

東京都 稲城市 i(アイ)バス



36

他市の先行事例

東京都 稲城市 i(アイ)バス

「稲城市まち・ひと・しごと創生 総合戦略」4つの柱のうちの1つの政策

公共交通の利用促進

子育て

雇用創出

観光推進

37

効果の見通し

この経験を通じて

①子供達の知識と記憶を育成

②両親の負担を軽減すること

を目的とする



38

参考文献

総務省平成27年度国勢調査 <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&tokei=00200521&start=000001104835&class2=000001105415&class3=000001105428&second=1>

稲城市 公式ホームページ <http://www.city.fussa.tokyo.jp/>

稲城市 平成27年度事業報告 <http://www.city.fussa.tokyo.jp/municipal/aboutfussa/data/jmu/1005680.html>

稲城市 平成30年度人口統計 <http://www.city.fussa.tokyo.jp/municipal/aboutfussa/profile/1003155.html>

稲城市 人口統計過去のデータ <http://www.city.fussa.tokyo.jp/municipal/aboutfussa/profile/1003156.html>

稲城市 福祉バスについて <http://www.city.fussa.tokyo.jp/life/health/welfare/1002361.html>

立川バス <http://www.tachikawabus.co.jp/>

合志市公共交通ガイドマップ https://www.city.koshi.lg.jp/one_html3/pub/default.aspx?c_id=314

印西市コミュニティバス「ふれあいバス」 <http://www.city.inai.lg.jp/0000000795.html>

i(アイ)路線図・時刻表 https://www.city.inagi.tokyo.jp/kurashi/bus/ai_bus/ibus_rosenzu_zikokuhyou.html

稲城市まち・ひと・しごと創生総合戦略 https://www.city.inagi.tokyo.jp/shisei/keikaku_hokoku/gyousei/mat/htstosigotosousei/index.html

三井住友海上 1day保険 <https://www.ms-ins.com/personal/car/oneday/>

稲城市少年軟式野球連盟 <http://www.t-net.ne.jp/~phenix/page012.html>

東京ミステリーサーカス <https://mysterycircus.jp/events/304>

ネットワーク多摩 単位互換 <https://nw-tama.jp/activities/credits/>

39

質疑応答

今回ご協力頂いた各所

多摩動物公園

稲城市役所

ご清聴ありがとうございました。



40

担当教員まとめ

非常に興味深い提案がなされたので、引き続き実現に向けた課題の抽出を行ってもらいたい。とりわけ、3つの提案がより魅力的となるような詳細な内容の検討が求められる。親が預けたいと思い、子供が繰り返し参加したいと思うような内容をどう提案できるかがこのプロジェクトの成功の鍵を握っている。また、責任主体を明確にし、収支相償が維持できるようなコスト管理が不可欠であろう。そのためには、例えば、企画段階から親や子供にも参加してもらうことで主体的な意識づけを促すような仕掛けを用意しておかなければならないであろう。

中央大学 商学部3年 根本ゼミ ◆担当教員 根本忠宣

帝京大学 湯川ゼミナール 子育て班

奨励賞

みんなでつくろう!子育てタウン

～子育て世帯が住みやすいと感じる街づくり～



- ◆メンバー 大塚直美、古谷愛、森将龍、川端拓未、嶋口琢磨、曾我英司、羽鳥暁、藤田亮、松田祐
- ◆担当教員 湯川志保

発表概要

子育てしていない人の子育てについての意識を変えるために「子育てお手伝いサイクル」の提案を行った。日頃街中を出歩いている際に、子ども連れへ迷惑そうな態度をとっている人がいることや、ベビーカーを押して歩いていると苦言を言われるとケースがいくつかあることから、子育てしている人としていない人の相互理解に未だ足りていない点がいくつかあると感じたからである。実際に子育てをしている人に直接アンケート調査を行ったことで、具体的なデータで双方の子育てに対する考えを知ることができた。

活動の目的

私たちは、子育て支援を通じたまちの活性化を行いたいと考えている。その中で、外出した際に困ったこととして、「周囲の子連れに対して迷惑そうな態度」や「困っている時に手を貸してくれる人がいない」といった声を上げている子育て世帯が一定数いる点に注目し、子育てをしていない人からの理解や手助けを促す企画を考えた。具体的には、子育て世帯を応援している飲食店等で割引が受けられるお手伝い感謝クーポンを子育て世帯に配布し、手助けをしてくれた人に渡してもらい、そのクーポンを対象店舗で利用してもらうという企画である。

活動の内容・様子

活動は授業の合間を縫って行った。行った主な内容としては、対象者へのアンケート調査や市役所への聞き取り調査、商店街への交渉、イベントでの周知活動、広報用のHP、チラシ、対象店舗MAPの作成などである。



活動の成果

成果としては現代の子育ての現状と、それに対しての人々の意識を自分達の足で聞き、見て、行い発見できたことである。当日のイベントでは100人以上の方に来ていただき、実際に掲示したチラシに足を止めてくれた方や、学生ともお話をすることができ、企画を知っていただくことができた。その結果、試験運営期間1ヵ月間でのHPの総閲覧数は410件、HPに事前登録をしてくださったのは25件だった。アンケート調査では、企画の目的や内容を簡潔かつ図を用いて工夫して作成したところ、本HPを見て利用しやすいと思いますか?の問いに対して約半数以上の回答者から利用しやすい!との回答をいただいた一方で、クーポンについては、改善すべき点が多く発見できた。

参考文献

- [1] 立川市役所
<https://www.city.tachikawa.lg.jp/>
- [2] 立川子育て支援団体ワッカチッタ
<https://waccacitta.com/>
- [3] CsTACHIKAWA（シーズ立川）
<https://csplace.com/>
- [4] 錦商店街振興組合
<http://www.annex-achikawa.com/nishiki/>
- [5] 子ども未来センター
<https://t-mirai.com/>
- [6] 沖縄そば食堂 海辺のそば屋
- [7] 本格手作り中華まん 金包堂
- [8] ごじんか
- [9] 中国料理 五十番
- [10] もつやき処 アラマサ



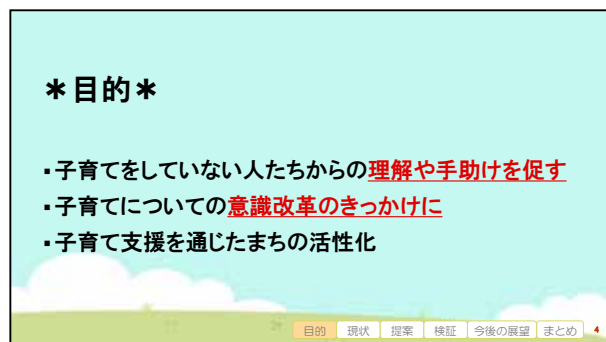
1



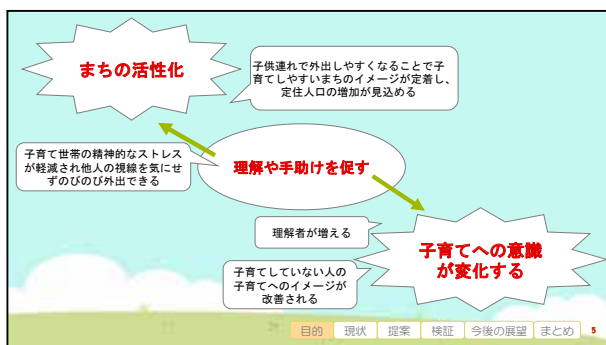
2



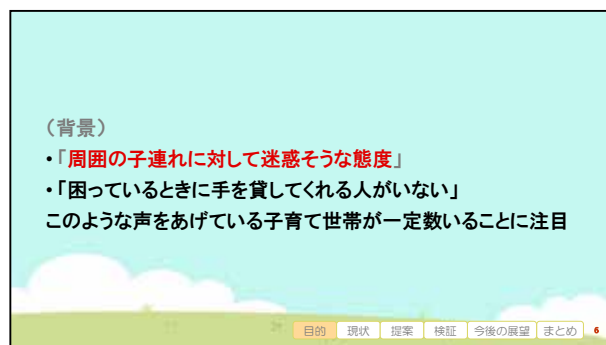
3



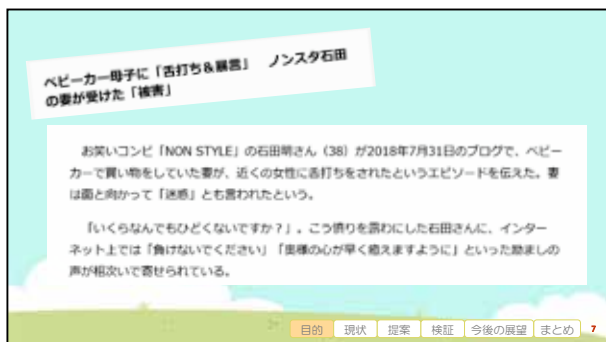
4



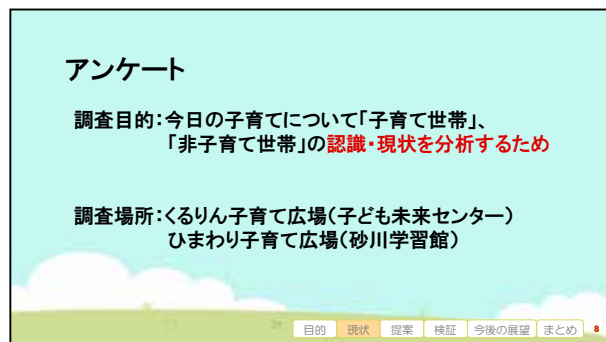
5



6



7



8

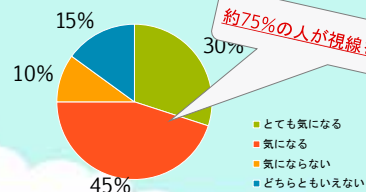
* 調査した現状 *

1. 子どもを連れて外出するのはとても大変で困っている、または手伝いを求めている人が多数いる
2. 公共交通機関を乗る際など周りの視線が気になる
3. ベビーカーで外出時に苦言を言われ、出歩きにくい
4. 非子育て世帯は助けたいと考えている人が一定数いる

目的 現状 提案 検証 今後の展望 まとめ 9

9

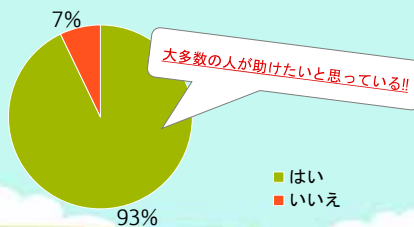
Q.外出しているときにお子様が出来てしまったら周りの人たちの視線は気になりますか？



目的 現状 提案 検証 今後の展望 まとめ 10

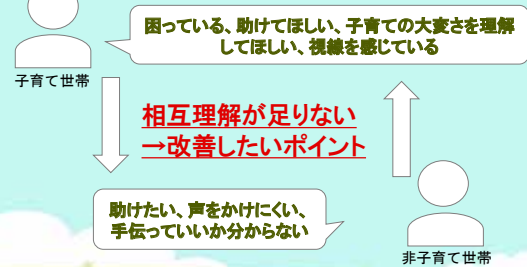
10

Q. 小さな子ども連れで困っている人を見かけた時、助けたいと思いますか？



目的 現状 提案 検証 今後の展望 まとめ 11

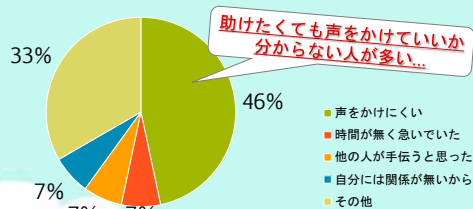
11



目的 現状 提案 検証 今後の展望 まとめ 12

12

Q. なぜ、手伝いにくいのですか？



目的 現状 提案 検証 今後の展望 まとめ 13

13

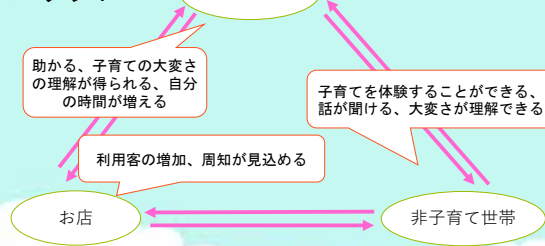
* 提案 *

子育て世帯と非子育て世帯に向けた
子育てお手伝いサイクル
相互理解を深めよう

目的 現状 提案 検証 今後の展望 まとめ 14

14

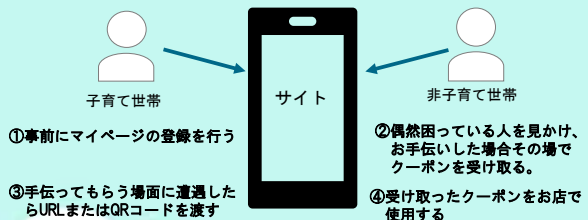
メリット



目的 現状 提案 検証 今後の展望 まとめ 15

15

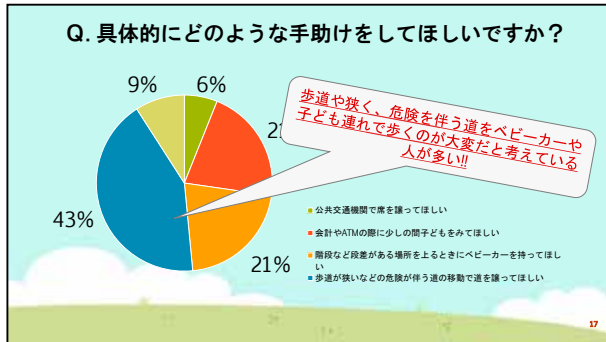
* 日常、出歩いている際に偶然、手伝ってもらった場面に遭遇した場合



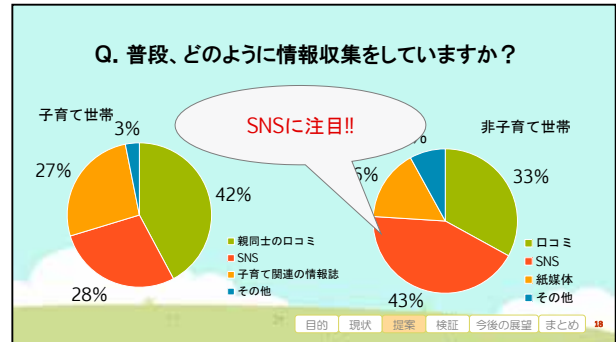
※この場合を限定し試験運営を実施※

目的 現状 提案 検証 今後の展望 まとめ 16

16



17



18

(内容)

実施期間:11月1日～11月30日

店舗:立川市錦商店街の対象6店舗で試験運営
～鬼うまフェス Hall ween!に出店したお店～

対象店舗
沖崎そば屋 海辺のそば屋
本格手作り中華まん 金色堂
ごじんか
CsTACHIKAWA (シーズ立川)
中国料理 五十番
もつやき処 アラマサ

19

検証

「立川子育てタウン」HPの作成

～掲載内容～
・企画目的
・企画内容
・手作りMAPを使ったクーポン対象店舗の紹介

20

「クーポン表示専用」HPの作成

～掲載内容～
・使用可能なクーポン対象店舗の紹介
・クーポン内容

21

「チラシ&SNS」の作成

～チラシ設置場所～
・市内図書館
・周辺の子育て広場など

・公式LINE & Twitter開設

22

立川市錦商店街の手作りMAP作成

23

鬼うまフェス(10月21日)での周知活動

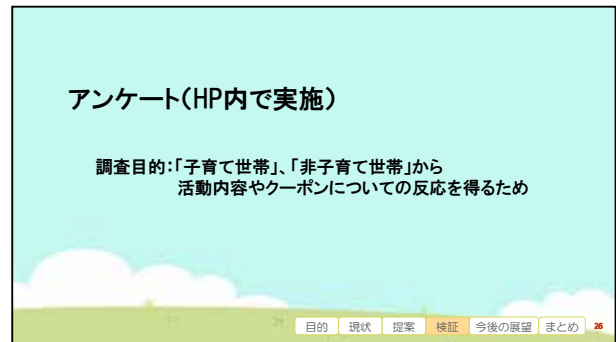
ボディペインティングコーナー、輪投げコーナーでボランティア活動を行いながら
子育て世帯、非子育て世帯の方たちへの周知活動

子ども連れの方や学生さん達に知っていただくことができました!

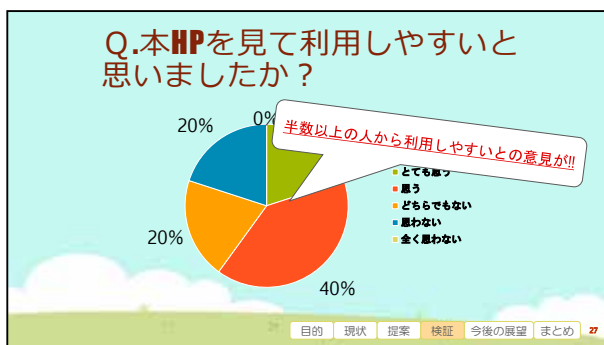
24



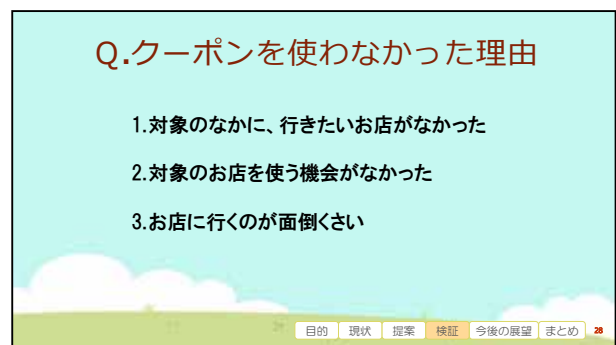
25



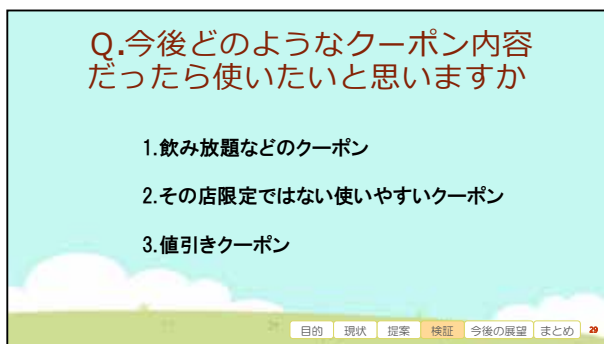
26



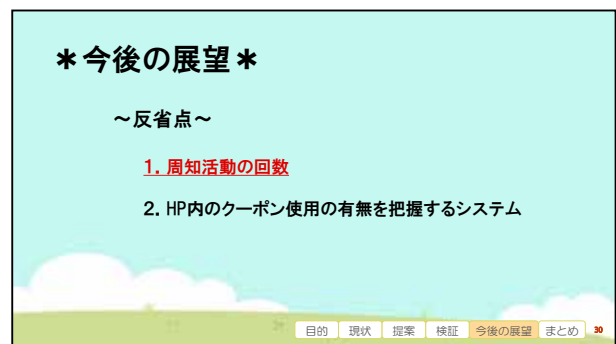
27



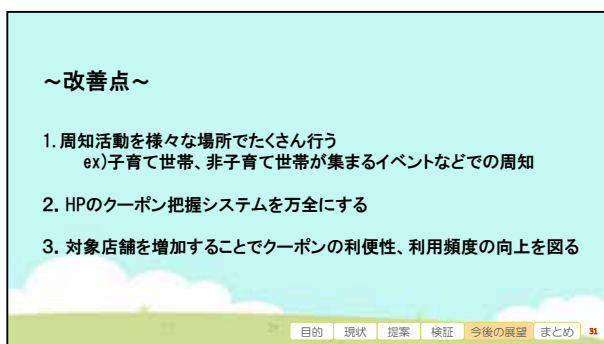
28



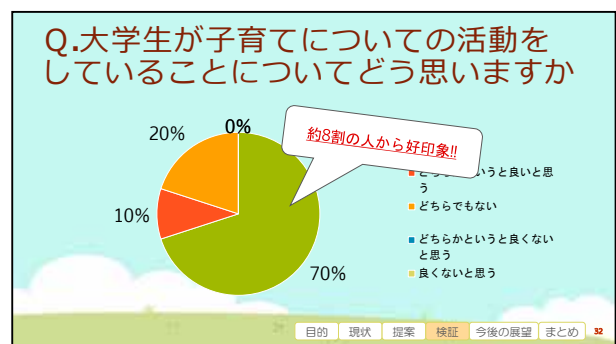
29



30



31



32

～今後の展開～

1. 学生主体のイベントを開催し、クーポン対象店舗も招くことで活動内容とお店について知ってもらう機会とする
2. クーポン使用者を把握するためのシステムを万全にしたHPIにする
3. 対象店舗を増加させるために駅の近辺のお店に交渉を検討する

目的 現状 提案 検証 今後の展望 まとめ 33

33

まとめ

```

graph TD
    A[子育てについての意識改革] --> B[子育てお手伝いサイクル  
&  
周知活動]
    B --> C[反省&改善  
今後の展望]
    
```

目的 現状 提案 検証 今後の展望 まとめ 34

34

参考・ご協力

- ・立川市役所 <https://www.city.tachikawa.lg.jp/>
- ・立川子育て支援団体ワッカチッタ <https://waccacitta.com/>
- ・CsTACHIKAWA（シーズ立川） <https://csplace.com/>
- ・錦商店街振興組合 <http://www.annex-achikawa.com/nishiki/>
- ・子ども未来センター <https://t-mirai.com/>
- ・沖縄そば食堂 海辺のそば屋
- ・本格手作り中華まん 金包堂
- ・中国料理 五十番
- ・ごじんか
- ・もつやき処 アラマサ

35

35

ご清聴ありがとうございました

36

36

担当教員まとめ

本ゼミでは、学生が興味関心のあるテーマについて、フィールドワーク等を実施し研究を行っています。今回、子育て班のメンバーは、「子育てしやすいまち」をテーマに研究を行いました。具体的には、「子育てしやすいまち」を実現するためには、子育てをしている人としていない人との相互理解が重要であると考え、子育てクーポンを媒介とした両者の相互理解を促す企画を考えました。企画を実施するために、メンバーは、限られた時間の中で、アンケート調査やヒアリングを実施するとともに、関連する団体の方に協力をお願いする等、意欲的に活動を行っていました。このような経験を通じて、論理的に考える力や、臨機応変に対応する力、行動力を身に付けることができたのではないかと感じています。ご協力頂いた、立川市役所の職員の方や、関連する団体の方、地域の方にこの場をおかりして感謝申し上げます。また、このような報告の機会を提供して頂いたネットワーク多摩の方にも感謝申し上げます。

帝京大学 湯川ゼミナール 子育て班 ◆担当教員 湯川志保

閉会挨拶

ネットワーク多摩 専務理事
細野 助博

本日は発表の学生の皆さんお疲れ様でした。ここまで指導されました教員の先生方には心から敬意を表したいと思います。

最優秀賞の創価大学の学生の発表を聞いていると、自分自身がADHDではないかということもあり、大変素晴らしい発表でありました。企業のトップの方、大学の先生方、行政のトップの方々から多様な判断の中から選びました。

今回33団体がエントリーを行い、6団体には最優秀賞、優秀賞、奨励賞となりましたが、この6団体に残った事に、これからも誇りに思っ

て欲しいと思います。
多摩地域は、日本の問題を抱えるフロンティアだと思います。東京都と地方、23区と多摩地域で様々な問題がこれから出てきますが、学生の感性とアイデアでこれからも多摩地域活性化の為に活動をお願いしたいと思います。

また、素晴らしい施設をご提供いただきました帝京大学関係者の皆様、年末でお忙しい所お集まりいただきました審査委員の皆様には心からお礼申し上げます。

ありがとうございました。

第4章

選考会

多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2018

2018年9月8日（土）

会場 帝京大学 八王子キャンパスソラティオスクエア

審査委員

	機関	氏名	部署・役職	担当会場
1	大学	細野 助博	中央大学 総合政策学部 教授 ネットワーク多摩専務理事	専務理事
2	大学	西浦 定継	明星大学 理工学部総合理工学科 教授 ネットワーク多摩常務理事	審査委員長
3	企業	笠原 克巳	日本電気株式会社 西東京支社 支社長	S517教室
4	企業	小原 康緒	株式会社共立メンテナンス 執行役員	S517教室
5	企業	田中 健一	安藤物産株式会社 総務部 部長	S517教室
6	企業	澤 昌秀	京王電鉄株式会社 沿線価値創造部 企画担当課長	S517教室
7	行政	山野井 寛之	八王子市 学園都市文化 課長	S517教室
8	行政	田島 元	多摩市 企画政策部 企画課 課長	S517教室
9	企業	小澤 修	武陽ガス株式会社 総務部 部長	S518教室
10	企業	高崎 一樹	日本電子工業株式会社 部長	S518教室
11	企業	美藤 文秀	公東日本旅客鉄道株式会社 八王子支社総務部企画室 企画部長	S518教室
12	企業	廣瀬 健太	一般財団法人公園財団 昭和管理センター 企画マネジャー	S518教室
13	行政	田中 善夫	町田市 政策経営部企画政策課 次長兼課長	S518教室
14	行政	大塚 正也	立川市 総合政策部企画政策課 課長	S518教室
15	企業	高木 純夫	公益財団法人日本漢字能力検定協会 執行役員 BJT 普及部長	S519教室
16	企業	小野 祐輝	株式会社ベネッセコーポレーション 総務部企画課 課長	S519教室
17	企業	高瀬谷 尚也	清水建設株式会社 西東京営業所 副所長	S519教室
18	企業	大津 和幸	株式会社りそな銀行 立川支店 マネージャー	S519教室
19	行政	仁賀田 宏	日野市 企画部 企画経営課 課長	S519教室
20	行政	石川 健三	福生市 企画財政部 企画調整課 課長	S519教室
21	企業	川口 幸子	多摩信用金庫 地域連携支援 部長	S520教室
22	企業	市川 嘉一	一般社団法人 立飛総合研究所	S520教室
23	企業	高橋 章浩	京西テクノス株式会社 管理部人材開発グループ グループ長	S520教室
24	企業	伯耆 大介	独立行政法人都市再生機構 東日本賃貸住宅本部 多摩エリア経営部 ストック活用計画課 課長	S520教室
25	行政	梅原 啓太郎	小金井市 企画政策課長	S520教室
26	行政	宮田 満裕	羽村市 産業復興課長	S520教室

審査会場 出場団体

まちづくり第1・ものづくり部門 S517教室（ソラティオスクエア5階）

◆キーワード 高尾山 外国人 観光客

◆対象地域 八王子市

No.1	帝京大学 石川ゼミ・チーム TAKAO
	Welcome to Mt. Takao

◆キーワード MICE・観光・地域活性化

◆対象地域 八王子市

No.2	創価大学 中山賢司ゼミ 地域振興班
	グローバル八王子花街プロジェクト

◆キーワード 地域活性

◆対象地域 多摩市

No.3	帝京大学 小西ゼミ 人口減少班
	多摩市の人口減少について

◆キーワード 浴衣 COOL JAPAN 外国人

◆対象地域 八王子市

No.4	杏林大学 久野ゼミ 八王子YUKATA班
	COOL HACHIOJI YUKATA FESTIVAL

◆キーワード 人口減少・ネット環境

◆対象地域 奥多摩町

No.5	帝京大学 小西ゼミ 光班
	ネット環境が田舎を変える！

◆キーワード 観光

◆対象地域 西多摩郡

No.6	亜細亜大学 西原ゼミ チーム 1
	OKUTAMAサイクリングロード

◆キーワード 広域連携、イベント、地産地消、食育

◆対象地域 国分寺市

No.7	東京経済大学 山本聡ゼミナール、食育班
	TAMATEHACO 多摩×手×箱

◆キーワード 農業・フルーツ・食べ物

◆対象地域 八王子市

No.8	帝京大学 筒井ゼミ チーム ぱっしょんず
	パッションフルーツを活用した学生主体の情熱まちおこしプロジェクト

◆キーワード 医療

◆対象地域 八王子市

No.9	創価大学 安田ゼミ チーム CUE
	あなたは大切な人を守れますか

Welcome to Mt. Takao

高尾山外国人観光客のお手伝い

高尾山 外国人 観光客

◆メンバー 澤島悠利亜 田中統麻 松浦出海 松隈悠希 ◆担当教員 石川正史

まちづくりの目的・概要

登山客数世界一を誇る高尾山は、日本人のみならず外国人の観光客にも人気が高いが、外国人観光客に向けた設備には課題が多い。日本語以外の言語による看板や案内板などが少なく、飲食店でのメニューも日本語表記に限定され、国際化に対応しきれていない。これら問題の解決策として、①英語版案内パンフレット作成（京王線新宿駅と高尾山口駅での配布を想定）、②現地案内板、飲食店のメニュー等の多言語化、③外国語でのツアーガイド（週末限定）、④新宿駅発高尾山口駅行の特別列車（週末限定のノンストップ）の運行、を提案する。これらの施策により外国人観光客支援体制を強化し、高尾山の認知度の更なる向上と、親しみやすい観光地へのステップアップに繋がっていききたい。

効果の見通し

外国人観光客が安心して登山できる体制を整えることが外国人観光客数の底上げにつながり、彼等の高尾山の魅力への理解を深めることで、リピーター増加への架け橋としたい。東京オリンピックが2020年に開催されることもあり、国際化に対応して様々な外国人観光客のための受け入れ環境を整えることで、大きな経済効果も期待できる。外国人観光客が増えれば、平日の訪問者数増加に繋がり、週日と週末の訪問客数の平準化の一助となつて、観光地経営の効率化も期待出来る。

継続性を見通し

帝京大学は毎年多くの留学生を受け入れており、海外での実務経験のある教職員も多くいる。そのような留学生と教職員が協力することで今後の継続的な活動に繋げることが可能になる。また、この研究を来年度以降のゼミ生に引き継ぎ、中長期的な研究テーマとすることで活動継続のコアとし、同時に持続的な改善を追求するエンジンと位置付ける。

先行研究・連携団体

先行研究：特になし八王子市役所：外国人観光客に関する情報収集と、その支援活動についての意見交換及び活動許可の取得京王電鉄：高尾山観光客輸送の現状に関する情報収集と、新企画の提案及び意見交換帝京大学：教職員と留学生の協力を得て、プロジェクト支援体制の構築

まちづくりのアピールポイント

グローバル化が進む中で外国人観光客に対する関心が非常に高まっている状況下、国際性豊かな帝京大学の教職員と留学生が一体となつて、高尾山の更なる発展に貢献したい。外国人観光客の支援を通して、高尾山の観光地としての更なるブランド力向上とともに、多摩の学生として多摩のグローバル化推進の一翼を担う。

創価大学 中山賢司ゼミ 地域振興班

対象地域：八王子市

グローバル八王子花街プロジェクト

～八王子の「和」を楽しむ～

MICE・観光・地域活性化

◆メンバー 吉川賢二、上江洲舞、佐藤里穂、佐藤瑞妃、雲林尚子 ◆担当教員 中山賢司

まちづくりの目的・概要

八王子には多くの伝統や歴史があるが、それらの魅力はあまり認知されていない。他方で、商業施設が多く立ち並ぶ立川駅が近くにあることで、人がそこに流れてしまう傾向がある。そこで本調査では、八王子に残る伝統である「花街」を活用し、他の多摩地域にない「和」の雰囲気をも国籍・多世代に体験し、足を運んでもらう「グローバル八王子・花街プロジェクト」を構想してみたい。八王子にしかない「和」の魅力を知ってもらうことで、MICE開催者・参加者を受け入れ、経済効果を向上させることを目的とする。

効果の見通し

「和」をテーマにした八王子の良さを知ってもらい、幅広い年齢層にリピーターになってもらう。八王子市の姉妹都市事業などとも連携しつつ、持続的可能な事業にもつなげていく。また、八王子の伝統や歴史を知ってもらうことで伝統文化の継承に繋げ、長期的に継続可能なMICE事業として確立させる。さらには、外国人や日本の観光客だけでなく、八王子市民にも八王子の魅力を理解してもらい、誰かに語りたくなるような口コミ力を強化する。

継続性を見通し

第一に、多摩地域企業ないしはNPOとの連携を図り、「花街プロジェクト」への協賛していただく。第二に、協賛企業の方とともに、パイロット実施を行い、プランの見直し・改善を図る。第三に、チラシ等を作り、プロモーション活動を行う。ホテル、和食レストラン、バス、八王子駅、高尾山口でチラシ作成・配布するとともに、インターネットでの広報活動を行う。そして第五に、各種団体にご協力をいただきながら、本格実施へと結び付ける。

先行研究・連携団体

公益社団法人八王子観光コンベンション協会 置屋ゆき乃恵八王子青色申告会 花街商店会

まちづくりのアピールポイント

MICE開催者・参加者を夜の食事として「花街」を利用してもらうためのプラン作りと、高尾山での観光から八王子駅に戻って来た人を対象に「花街」の利用を促すためのプラン作りを行っていく。観光やMICEで利用される高尾山は八王子市内の観光資源とのリンケージが弱く、駅前を素通りしてしまう「中心市街地パッシング現象」が生じている。そこで、「和」をテーマにした八王子全体の回遊性向上のための施策を構想してみたい。また「花街」の資源を活用し、実際に「花街」で食事等をするのではない層をターゲットに、観光客やMICE開催者・参加者、さらに学生を含めた「和」のまちづくりを構想してみたい。

多摩市の人口減少について

人口減少対策 in the 多摩

地域活性

◆メンバー 加藤誠也、山本丈太郎、松坂弦樹、鹿野巧海 ◆担当教員 小西杏奈

まちづくりの目的・概要

多摩地域は、自然が豊かでありながら、東京都心への交通アクセスが良く、就労・子育て世代にとって住みやすい地域となっている。これは、大正中期から昭和初期にかけて鉄道の整備が進み、住宅地の整備が行われた事が要因となっている。しかし近年、多摩地域は住みやすい環境にあるにもかかわらず、特に就労人口が減少している。こうした事情を鑑み、これからの社会を支える若者に多摩の良さを知ってもらうため、若者が主体となって作り上げるイベントを企画・開催する。

効果の見通し

「駅からなるべく近いところに住みたい」、「車は持ちたくない」、「都心から離れたい」という思考を持つ若者が増えてきているため、多摩地域のベッドタウンとしての良さを強くアピールできる。そうすることで、イベントを通じて多摩地域の魅力を見出した若者世代の人たちが、多摩地域を定住地として考えるようになることを期待できる。

継続性の見通し

自発的に行動でき多摩への帰属意識をもつ大学生がいれば継続は可能であると考えた。また今回のイベントにより、地域の問題に対する意識を学生一人一人にうえつけることにより、自発的な活動を促し、今後も行っていると考えた。

先行研究・連携団体

多摩市役所 多摩大学

まちづくりのアピールポイント

我々がもっとも強調したいポイントは「再注目」である。一時的な人口爆発が起こった1955年（昭和30）から1975年（昭和50）と人口減少傾向にある現在を比較し、どのようなアピールをすれば多摩地域のベッドタウンとしての良さに再注目してもらえるかを考えた結果、我々の考案したイベントの企画、仕組みにたどりついた。「再注目」を意識したイベント企画内容に注目してほしい。

杏林大学 久野ゼミ 八王子YUKATA班

対象地域：八王子市

COOL HACHIOJI YUKATA FESTIVAL

八王子発!産学官連携ゆかた振興プロジェクトの挑戦

浴衣 COOL JAPAN 外国人

◆メンバー 総合政策学科 大木麻由香、佐藤珠実、長谷川貴一、平井貴大、企業経営学科 伊保善喜、高橋凌 ◆担当教員 久野新

まちづくりの目的・概要

当プロジェクトは、織物のまち八王子において、外国人と近年「浴衣離れ」が進む若者をターゲットに浴衣の魅力を伝えることを目的とした学生主体の産学官連携プロジェクトであり、本年度で三年目を迎えた。具体的には、八王子の市役所、商工会議所、織物工業組合、老舗和服卸売商社、市内複数の大学・専門学校の学生等とも連携し、外国人や若者に対して浴衣の魅力を伝えるための各種取組み（着付け指導、浴衣着用でのダンス、合唱、マジック、きこなしコンテスト等）を行った。

効果の見通し

以下4点が期待される。第一に、本取組みを通じ、若者が日本の伝統文化である浴衣の魅力を再認識するという効果。第二に、当イベントを継続的に行うことで「織物のまち八王子」としてのブランドイメージが再生するという効果。第三に、外国人向けに浴衣の着付け体験の場を提供することで、八王子の思い出と知名度が国際的に広まる効果。第四に、市内複数の大学と専門学校の学生が連携して地域課題に取り組む機会が創出された効果である。

継続性を見通し

本プロジェクトは2015年の開始当初より杏林大学の学生が運営事務局を務めるかたちで3年目を迎え、来年度以降も継続予定である。回を重ねるたびに運営上の反省点を先輩が抽出、それを後輩が次年度に活かすかたちで改善や新たな挑戦を重ね、イベント参加者や連携・協力団体の数も毎年着実に増えてきている。最終的には八王子市を代表するイベントにまで成長させることを目指している。

先行研究・連携団体

我々が調査した限り、学生主体による「産学官連携浴衣振興プロジェクト」の先行事例は見つからなかった。本プロジェクトの連携団体としては、老舗和服卸売商社の株式会社ツカモトコーポレーション、西武信用金庫、NPO法人心創り・智慧創り研究所、八王子市役所、八王子商工会議所、八王子市織物工業組合、首都大学東京、明星大学、帝京大学、アポロ美容理容専門学校、荒井呉服店、およびその他多摩地域在住・在籍の学生・留学生・小学生が挙げられる。

まちづくりのアピールポイント

四点ある。第一に、当プロジェクトの企画・運営は学生主体で行われ、三年間、PDCAに基づき継続的に改善・規模拡大している点。第二に、海外での実地調査の結果をもとに、外国人が浴衣に対して抱く取っ付きにくさを払拭するための着付け講習会を実施した点。第三に、浴衣文化を外国人に対して発信する当取組みに対し、日本政府からもCOOL JAPANマーク利用の承認を頂いた点。第四に、大学の垣根を越え、市内複数の大学や専門学校と連携している点である。

ネット環境が田舎を変える!

～差し込む一筋の“光”～

人口減少・ネット環境

◆メンバー 遠近太雅、千葉行人、橋本洋伸、塩原高汰 ◆担当教員 小西杏奈

まちづくりの目的・概要

現在の日本では、東京23区を始めとする都市部への人口密集に伴う、山間部・田園・地方で所謂田舎での人口流出が問題になっている。その原因は様々であるが、最大のものが「若者の就業機会の不足」であると考えられている。若者の間でも地方でののんびりと仕事がしたいという需要はあるものの、それに対するインターネット環境の整備が追いついていないため、企業を呼び込むことが難しい。本プロジェクトでは、人口減少・過疎地域における人口流出を食い止めるために、インターネット環境における重要性を広めたい。

効果の見通し

上記で述べたインターネット環境の整備とは、光ファイバー網をその地域全体に張りめぐらせることを意味する。これによって、地域内に企業のサテライトオフィスを誘致することを通じて、域内の雇用の機会を増加させる。それにより、若者の雇用機会も増え、固定資産税や住民税などの税収も増え、住民が減ることはなく、地域が発展していくと考えている。実際に徳島県の神山町ではインターネット環境を整備してサテライトオフィスを誘致することに成功した。これにより、社会動態人口がプラスに転じた一方で、自然動態人口は減少した。結果、町人口は前年比115人減の6350人となり過去最少を更新した。

継続性の見通し

初期投資として、光ファイバーを張り巡らす際に何百億というお金が必要になるものの、国や都道府県から財政的な援助を受けることができれば、後は、若干の維持費のみで、継続が可能となる。その後、整備されたインターネット環境を強みにIT企業などのサテライトオフィスを誘致する。サテライトオフィスの誘致に成功すれば地方での雇用機会が増加しその土地に住む人も増える。こうすることにより、人口流出も防げて地方の雇用機会の増加に繋がり過疎化問題を解決できる。

先行研究・連携団体

・神山町役場 ・徳島県 ・week神山 ・TOKUSIMA WORKING STYLES ・ビジネスプレート ・プロバイダー比較、光ファイバーメリット ・インターネット比較の達人 ・奥多摩町の年齢人口の推移 ・総務省 ・国立社会保障、人口問題研究所

まちづくりのアピールポイント

私たちが今回のプレゼンで一番伝えたいことは、インターネット環境の重要性です。現在の日本では、東京など人や企業が集まる場所では比較的インターネット環境が整備されています。しかし、人や企業が集まらない地方ではインターネット環境があまり整備されておらず企業が仕事をできないので地方に企業が集まらないと考えています。ですが、地方のインターネット環境を整備することにより企業がサテライトオフィスなどを設置して地方に雇用が生まれ人口減少が防げるのではないかと考えます。

亜細亜大学 西原ゼミ チーム1

対象地域：西多摩郡

OKUTAMA サイクリングロード

東京最後の秘境でサイクリングを堪能してもらおう

観光

◆メンバー 跡部りこ、渡口愛佳、鈴木あかり、鹿居次郎、福士佳奈、猪谷美瑛 ◆担当教員 西原彰宏

まちづくりの目的・概要

東京都の観光客数は約5億1430万人、外国人観光客数は約1310万人訪れている。このことから東京都は日本で人気の観光地であることがわかる。しかし、東京都内の場所別の観光客数ランキングでは西多摩郡はトップ10に入っていないもっと観光客数を上げる伸びしろがあるとわかる。西多摩郡には自然を感じられるサイクリングロードがあるがあまり知られていない、そのため奥多摩の自然を体感できるサイクリングを通して観光客の増加を目指す。

効果の見通し

西多摩郡の観光客数の増加は経済に潤いをあたえ、地域活性化につながる。またサイクリングをすることで自然環境を改めて考えなおすきっかけにもなると考えられる。

継続性の見通し

サイクリング人口は近年健康志向の人が増えたことにより、上がっている。そのためこのようなイベントはサイクリングが好きな人や健康を意識した人にリピートして参加してもらえる可能性が高いため継続してまちづくり事業が行えると考えられる。また、西多摩郡の観光客はリピート客が多いそのため何か新しいことをしたいと考えた時にこのサイクリングロードを体験してもらい改めて西多摩郡の良さを知ってもらえるきっかけになると考えた。これらの人が増えることにより、西多摩郡が注目されるようになり、新規の観光客も増えると見込んでいる。

先行研究・連携団体

つつつ温泉、多摩市役所道路交通課、TREKKING

まちづくりのアピールポイント

サイクリングをすることによって自然を体全体で感じてもらうことにより、認知度の低かった東京最後の秘境を知ってもらい西多摩郡に知名度をあげることが可能になる。みんなが知らない東京に行くことで多摩地域の活性化を図ることができると考えている。

TAMATEHACO 多摩×手×箱

～多摩の手作りを運ぼう!～

広域連携、イベント、地産地消、食育

◆メンバー 乙村すみれ（東京経済大学経営学部流通マーケティング学科3年）、久下智士（東京経済大学経営学部経営学科3年）、林史佳（東京経済大学経営学部流通マーケティング学科3年）、廣瀬正太（東京経済大学経営学部経営学科2年）、西川幸宏（東京経済大学経済学部2年）、吉岡久織（東京経済大学経営学部経営学科2年） ◆担当教員 山本聡

まちづくりの目的・概要

昨年度までは東村山市、東大和市の地域資源を生かして交流人口の増加を図ってきた。今年度は一つの地域に限らず、多摩地域の特色や地域資源をより活かした広域連携を目指す。多摩地域はこれから先高齢化が進み、緩やかに人口が減少していくというデータがある。人口減少と高齢化が進むと地域経済は衰退してしまう。地域経済の衰退を食い止めるためには、元々の人口を増加させるか、地域外から来る人（交流人口）を増加させる必要がある。私たちは地域経済の衰退を課題と捉え、イベントを通して地域の食材を知ってもらい実際に足を運んでもらうことで交流人口の増加を図る。

効果の見通し

多摩・島しょ地域の住民の半数近くが、食育に関心はあるが、実際には取り組んでいないというデータがあり、子どもや家族の健康や食生活の改善のために、食育に関心を持つ傾向が伺える。イベントでは、多摩地域の食材を生かして日常生活で手軽に実践してもらえるような調理方法を紹介、実食し、体験してもらう。また、多摩地域の直売所や食材の産地を紹介し、各地域に足を運んでもらうことで交流人口の増加と地産地消が推進される。それにより地域経済の活性化が見込める。

継続性の見通し

カフェというよりも様々な目的のイベントにスペースを貸し出しており、継続してイベントスペースの確保が可能である。地域の住民が日替わり店主のカフェやイベントを行うことで地域コミュニティの場を形成している。さらに参加者が地域の複数のコミュニティに所属していることにより、そのコミュニティ内で口コミによる拡散が狙える。直売所を活用することで地域の食材を手頃な値段で確保できるため、経費削減、地産地消につながる。また、カフェといういろいろな協力の、東京経済大学のバックアップにより必要経費を賄える。第一回イベントでは食材料費を黒字で抑えることができた。

先行研究・連携団体

「創造的な食育ワークショップ」金丸弘美 2007を参考にしている。また、カフェというよりも連携してイベントを行う。第一回イベントでは国分寺市、小金井市、東村山市の野菜をジャムに加工し、直売所の紹介とともに提供した。第二回イベントでは多摩地域の野菜を用いたかき氷を提供し、収穫体験を行うことができる農家を紹介する予定である。第三回イベントでは収穫体験を実際に行い、自分の手で収穫した食材を調理することを予定している。東京むさし農業協同組合国分寺支店を通じて地域の農業者団体との連携も予定している。

まちづくりのアピールポイント

国分寺駅は西武国分寺線、西武多摩湖線、JR中央本線が通っており、多摩地域の交通の結節点であるといえるため、国分寺だけでなく多摩地域内の複数の市で交流人口の増加を図ることができる。また、予選までにイベントを複数回行い、PDCAサイクルを複数回回すことで仮説を検証し、イベントを発展させている。イベント参加者にとってイベントに参加するだけで完結させるのではなく、継続して食育や地産地消に取り組んでもらえるようなきっかけを提供する。

帝京大学 筒井ゼミ チーム ぱっしょんず

対象地域：八王子市

パッションフルーツを活用した学生主体の 情熱まちおこしプロジェクト

「太陽の街八王子」アツアツイメージ奪還大作戦!!

農業・フルーツ・食べ物

◆メンバー 室岡直樹、関真清、新津有紀弥、仁和結、平野菜里奈、福井陽菜、田村匡成、勝間田晃嵩、劔持太揮、山欽拓史、中山遙加 ◆担当教員 筒井裕

まちづくりの目的・概要

八王子市は、20世紀後半に5・9月の都内最高気温を記録した都市、すなわち春・秋も暑い「太陽の街」である。だが、近年、日本各地の自治体が気温の高さをPRするようになり、八王子市はその存在感を低下させている。以上から、このプロジェクトでは、八王子市が「日本有数のホットな街」とであるという地域的特性と、同市においてこの数年間で栽培が盛んになりつつある熱帯性の果実「パッションフルーツ」、ならびにご当地グルメである「麺」に注目し、大学生をターゲットに、これらを活用した地域振興策を提言し、「八王子市」＝「太陽の街」というイメージの奪還、ならびに「アツアツな麺がある愉快的な街」という地域性の創造を試みる。

効果の見通し

調査を実施した結果、八王子市の大学生は「八王子」という地名から、「山」・「緑」・「都会の中の田舎」などを連想する傾向にあり、この都市がもつ「暑い」という個性を見失っている。本事業では同市に拠点を置く農家や飲食店、そして八王子市と連携して大学生向けのパッションフルーツを素材とした麺メニューを考案し、市内の飲食店・大学での提供を目指す。なぜならば、近年、八王子市内の道の駅などでパッションフルーツの青果・加工品を販売する試みがなされているが、その消費量は少ない。しかし、八王子市の人口の約6.4%を占める10代後半～20代前半の若者（つまり大学生）をその主たる消費者とすれば、同市の新たな作物であるパッションフルーツの知名度の向上、第一次～第三次産業の振興、青年間における「八王子市」＝「太陽の街」＝「アツアツな麺がある愉快的な街」というイメージの定着・創造が期待できる。

継続性を見通し

本事業では八王子市の大学生をターゲットに、同市産のパッションフルーツを素材とした「ご当地麺」の開発・提案を行う予定である。これを実現すべく、現在、調査にご協力いただいているパッションフルーツ農家（浜中園など）とともに、サイバーシルクロード・パッションフルーツ研究会・八王子市・飲食店などにも調査協力を依頼する。これらがもつ八王子市の産業関連の情報、商品開発の方法、販売経路の特徴を把握し、その成果をもとに大学生が好む「ご当地麺」の内容と効率的な商品提供の方法を検討する。ぱっしょんずでは毎週1回、定期的にミーティングを開くなどして、本事業を継続的に推進し得る組織づくりもあわせて行っている。

先行研究・連携団体

・浜中園（パッションフルーツ研究会所属）：パッションフルーツの栽培農家で、果実の栽培・流通・販売に関連した専門的知識、ならびに、農家間や農家と商店・飲食店間の連携などに関する情報をご提供いただいている。※パッションフルーツ研究会：農業を通じて地域活性化を図るパッションフルーツ栽培農家が組織する研究会である。2017年に菓子店などと連携し、パッションフルーツを素材とした菓子・パンの開発などを行ったが、学生をターゲットとした食事メニューの開発に関しては未着手である。

まちづくりのアピールポイント

八王子市の大学生を対象に調査を実施した結果、彼らの間でパッションフルーツの知名度が低いことが判明した。また聞き取り調査から、パッションフルーツ農家が新たな消費者として青年層・女性を念頭に置いているが、これらへの販路を拡大できていない点も明らかになった。現在、農家・菓子店などが連携してパッションフルーツを活用した地域振興事業を進めているが、その内容は農家が新たな消費者としてねらう大学生を意識したものではない。八王子市に多数居住・通学する大学生を対象にパッションフルーツを素材とした「ユニークなご当地麺」を提供すれば、経済的効果が生じるだけでなく、八王子市の未来を担う青年層に「八王子市」＝「太陽の街」＝「アツアツな麺がある愉快的な街」という地域イメージを強固に定着させることができる。

あなたは大切な人を守れますか

～いざというときに大切な人を守れる社会へ～

医療

◆メンバー 齋藤桃乃、鳥海健一、藤森叶子、宮崎理花子、中村大雅、小川秀美、岡崎大志 ◆担当教員 安田賢憲

まちづくりの目的・概要

私たちの目的は「安心安全が得られるまちづくり」である。私たちのまちづくりの概要は、「アプリケーションで呼べる緊急を要さない傷病者専用の無料の民間救急車」を開発し、現在消防の救急車利用の約半数を占めている軽症利用者を民間救急車かわりに搬送することで、緊急を要する傷病者のもとに早く消防の救急車を届けることである。また、緊急を要さない傷病者も症状に合った手段で適切な病院まで搬送してもらうことができる

効果の見通し

事業は、面積あたりで1番消防救急車出動件数が多い立川から始め、2030年までに多摩地域の出動件数を20%減らすことを目標とする。これは、理想の現場到着時間を6分と決め、平成28年度の救急車の現場到着時間や、成人・高齢者の救急車利用数を元に理想の出動件数を算出した。また、利用者は軽症であることが前提のため、救急病院ではなく地域のクリニックに搬送する。これにより、地域のクリニックの活性化にもつながる。

継続性の見通し

市場規模は、5347万人と考える。これは、全成人・高齢者の人口から、成人・高齢者の重症・中等症・死亡の人数をひき、軽度で利用してしまう可能性のある傷病者の数値を算出したものにスマホ所有率成人61.4%、高齢者38.3パーセントをかけたものである。また、今後も消防の救急車の利用者数は増加傾向にあると言われている。この事業は、1年で約1600万円、2年で約2500万円、3年目で約4000万円、4年目で約6000万円、5年目で約7500万円の収入を見込んでいる。内訳は、有料サービス、広告収入、情報提供料である。

先行研究・連携団体

総務省消防庁(2017)「平成29年版 救急救助の現況」http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/kyukyukyujou_genkyo/h29/01_kyukyu.pdf 消防局×横浜市大(2017)「データサイエンスにより救急需要を予測しました ～2030年の救急車の出場件数は～」<http://www.city.yokohama.jp/ne/news/press/201712/images/phpAelsBP.pdf> 内閣府政府広報室(2017)「救急車利用の世論調査」<https://survey.gov-online.go.jp/h29/h29-kyukyu/gairyaku.pdf>

まちづくりのアピールポイント

私たちの事業の競合は、無料で搬送し、医療行為もできる消防の救急車、タクシーやバスなどの有料の公共機関、医療行為は行えないが、有料で搬送してくれる介護タクシーなどの民間送迎サービスである。私たちのサービスの優位性は、無料で提供することが出来ること、利用者の希望により診察の付き添いなど有料サービスが使えること、自分で病院に予約をする手間がいらぬことである。

審査会場 出場団体

まちづくり第1・ものづくり部門 S518教室（ソラティオスクエア5階）

◆キーワード スポーツ

◆対象地域 東久留米市

No.1	亜細亜大学 法学部・平井文三ゼミ チームFHA
	子供たちに運動する機会を！

◆キーワード 自然環境調査・観光PR

◆対象地域 日野市、八王子市、立川市

No.2	帝京大学 比佐ゼミ
	多摩地区における公園・道路・山里の植生調査

◆キーワード 防災 憩い 交流

◆対象地域 立川市

No.3	東京経済大学 鈴木ゼミ 立川チーム
	防災ベンチで繋がる立川市を目指して

◆キーワード 観光 外国人観光客

◆対象地域 あきる野市

No.4	帝京大学 湯川ゼミナール
	空いた1日どこで過ごす？

◆キーワード 明治、五日市憲法、東京経済大学、香水

◆対象地域 東大和市

No.5	東京経済大学 山本聡ゼミナール チーム東大和
	憲法の軌跡

◆キーワード 自動運転技術

◆対象地域 町田、八王子

No.6	法政大学 糸久ゼミ チーム ビュート君
	自動運転技術を活用した移動型販売店

◆キーワード 災害・地震・防災

◆対象地域 多摩地区

No.7	帝京大学 小西ゼミ 防災班
	多摩地区災害対策

◆キーワード 訪多摩外国人・鉄道利用外国人・おもてなし

◆対象地域 八王子市、小金井市、立川市、羽村市、日野市、福生市など

No.8	杏林大学 久野ゼミ 多摩 OMOTENASHI 班
	産学連携YOKOSO NIPPON Project

子供たちに運動する機会を!

産官学連携によるフライングディスク教室

スポーツ

◆メンバー 藤原拓海、早瀬樹、荒田蒼 ◆担当教員 平井文三

まちづくりの目的・概要

近年、ネット社会の普及により、運動不足になる子供の数が増えている。この原因の1つとして、公園などでの遊びの制限などにより、遊びの幅が狭まっていることもあると考えられる。そこで、私たちは室内体育館や公園でも安全性に問題なく実施できる、アルティメットを模した競技を行うことにしている。アルティメットとは、フリスビーを使いラグビーのようにパスを繋いでいき、エンドゾーンまでたどり着くと得点になるゲームである。亜細亜大学の学生ボランティアは、本学も参加している東久留米市の子ども育成事業に関する5者連携協定に基づき、東久留米市の児童館を拠点として、子どもの育成のためのイベント企画を行っている。本事業は、この事業の一環として実施する。

効果の見通し

この事業を通して、普段あまり馴染みのないことに挑戦する意欲、子供達の心身の発育、また他の学校の子供達と一緒に競技を行うことによる協調性の向上などを図ることができると考えている。また、ルールなどをしっかりと定めを行うことにより、ルールを守ろうという意識から社会性という点での育成も図ることができると考えている。

継続性の見通し

児童館「子どもセンターあおぞら」における子ども育成事業は、下記5者連携に基づく東久留米市の事業として継続して実施されることとなっている。9月1日土曜日に第1回目を実施予定である。第1回目終了後、子供達、学生ボランティア、子供センターあおぞらの職員の方々に意見、感想を聞き、第2回目の実施にフィードバックする。第2回目は3月9日土曜日に実施する方向で検討している。次年度以降は、今年度の経験をゼミの後輩や、ゼミ以外の本学のボランティアに引き継いでいく予定。

先行研究・連携団体

連携団体（「産、官、学の包括連携による次世代を担う子どもたちの育成に関する協定」参加団体） ・東久留米市 ・葉隠勇進株式会社 ・株式会社イトーヨーカドー ・株式会社東邦運輸参考文献「産、官、学の包括連携による次世代を担う子供たちの育成事業に関する協定」（2018年3月28日）「産、官、学の包括連携による次世代を担う子供たちの育成事業～健やかな子どもたちの育成に向けた学びの支援～事業計画書」（2018年東久留米市）「一般社団法人日本フライングディスク協会ホームページ」（<http://www.jfda.or.jp/introduction/ultimate/>）

まちづくりのアピールポイント

今回の活動により、普段、学校の体育の授業で経験することの出来ないフリスビーを使ったアルティメットを模した競技を行うことにより、子供たちのスポーツへの興味・関心の向上につながられる。通常のアルティメットのルールとは異なり、フラフープを使用したゴールを作成するなどの独自のルールを採用することにより、通常よりも得点しやすくなり、子供たちが楽しくスポーツを行うことが可能となる。

帝京大学 比佐ゼミ

対象地域：日野市、八王子市、
立川市

多摩地区における公園・道路・山里の植生調査

東京都で初めてのミツバチの蜜源調査とPR

自然環境調査・観光PR

◆メンバー 松野英美莉、柳和磨、張博、野本真綺、鈴木海斗、廣瀬愛、佐藤祐貴也、嶺岸優衣、丸岡菜々絵、佐々木瑞紀、青柳実結、青柳翼、池上凌也、上打田内耕平、辻大成、長谷部雄一、藤本明日香、高柳弥希 ◆担当教員 比佐優子

まちづくりの目的・概要

私たちのゼミでは『はちみつプロジェクト』と題し、これまで、蜂蜜を用いた商品の開発・販売を通じて、子供や市民への環境教育を行ってきました。今回比佐ゼミでは、もっと地元からこの問題を定義できないかを考え、帝京大学のある多摩地区における公園・道路・山里の植生を調べ、ミツバチの生育環境である蜜源植物の現状について調査します。これは養蜂数の把握を去年より実施したことを参考に、さらに進んで、東京都では初めて蜜源をフィールドワークにてデータを作成します。

効果の見通し

昨年より東京都では養蜂数の把握のために調査が開始された。多摩地区は東京都で、東京都でも最も養蜂が盛んな地域であることが判明した。しかし蜜源についてのデータは皆無であり、フィールドワークを用いてデータを集めるしか調査方法はない。まず過去の公園等の植栽計画図から、現在の状況を調査し、データ化する。このデータをもとに今後の行政の植栽計画の参考資料として有用となる。受粉が必要な農業にとっても、緑豊かな里山の維持にとっても重要なデータとなる。

継続性を見通し

比佐ゼミは5年間蜂蜜プロジェクトを行ってきた実績がある。今年、日本一の生産量を誇る養蜂業者をOBに持ち、支援を受けている。また地元の養蜂家の株式会社FIOや昭和記念公園、各行政からの公園植栽計画図を得て、集めたデータから蜜源植物を限定し、その結果を、国土交通省のGIS（地理情報システム）を使用して可視化し公開する。植生にはパターンがあり、蜜源となる植物のリストを公開し、活動を学校や市民の集いで紹介する。そのためのPR商品も開発する。調査フォーマットを作成することによって、地域の公園管理関係者や学校の自然探索などのイベントで活用されればこの活動は広がりを見せる。

先行研究・連携団体

昭和記念公園、株式会社FIO、日野市、八王子市、東京都農業振興事務所 振興課 蜜源関係資料、竹内養蜂場

まちづくりのアピールポイント

野生の蜂は野生送粉者として90%以上の農作物の受粉を行い、2013年に国立研究開発法人農業環境技術研究所の推計ではその効果は3,300億円である。多摩地域では蜂蜜の一箱の採集量の減少が報告され、蜜源が減少していることが指摘されている。東京都農業振興事務所では去年から東京都の蜂群数についての調査を開始した。しかし蜜源の調査には至っていない。公園の植栽計画は建設当初のもので、現状と大きく異なるが、その後の調査はない。この現状を調査する必要があるが、多くの協力者が必要である。本研究は20人の学生が実施し、基本資料として大学から発信できる。

防災ベンチで繋がる立川市を目指して

～防災意識の向上と、市民の交流を活性化させるために～

防災 憩い 交流

◆メンバー 鈴木雄登、小埜和章、加藤翔太、平船有紗 ◆担当教員 鈴木恒雄

まちづくりの目的・概要

立川市によると防災対策を行っている市民の割合は東日本大震災直後の平成23年には82.4%となっていたが、その2年後の平成25年では77.5%と減少傾向にあることがわかった。今後も低下が予想される。また、立川市では、平成25年で77.5%だった防災対策を行っている市民の割合を平成31年までに80.0%にすることを目標としている。そこで私たちは防災ベンチを通して、この目標に貢献できるように企画を立ち上げた。また、立川市には北口に比べて南口が衰退していることを聞き、学生の力で南口を盛り上げて行きたいと思い、主に立川市南口を中心に活動している。今年の2月1日から2月24日の間に社会実験として多摩モノレール立川南駅下のりそな銀行前に防災ベンチの設置に成功した。その際に防災ベンチについてアンケートを行っており、その結果から私たちは、防災ベンチを主に公園に、また市民が多く利用する中心市街地の街路、商店街などに普及し、市民の憩いの場を作り、地域の方々と一緒に防災ベンチを使ったイベント、防災訓練などを行い交流を促し地域減災力を高めたいと考えている。

効果の見通し

防災ベンチの設置による利点は社会実験の結果から大きく分けて2つを想定している。1つ目として、立川市内の住民の防災意識を向上させること。アンケートの結果から回答者の約9割が身の回りに防災用具があることによって防災意識が向上すると答えた。2つ目として、市民の休憩、交流の助けとなることが出来ること。実際に社会実験の際、子連れの親や高齢者の方たちなど様々な世代がベンチを利用していた。今後もどのような効果があるか調査を続けていこうと思う。

継続性の見通し

ベンチの管理を地域の人と私たちが協力して行うことによって長期的にベンチを置き、防災意識の向上と市民同士の交流が増すと考えられる。また、アンケートの結果から、60代以上の回答者の80%以上がベンチなどの休憩場所が少ないと感じていることが分かった。今後も高齢者の増加が予想されるため休憩場所、憩いの場所としての継続性も十分にある。私達が考案した防災ベンチを立川市内に設置し多くの人に関心を持ってもらうことで、防災意識をさらに高めることが出来るのではないかと考えた。目に見える防災を町に備え、日頃から防災についての意識づけを継続しておこなえと思う。

先行研究・連携団体

①まちづくり会社立川：連携して企画を進めている②立川南口商店街連合会：防災ベンチを使ったイベントの実施 社会実験の場所の提供 道路使用許可申請防災ベンチの設置③立川市役所（防災課、公園緑地課）：立川市の現状と課題についてのヒアリング調査

まちづくりのアピールポイント

私たちは市民の交流が深まれば、震災時に団結できるためよりスムーズな避難につながると考えている。そこで防災ベンチ（かまどベンチ）を使ったイベントの1つに定期的なバーベキューを開催したいと思う。バーベキューでは賞味期限が迫ったアルファ米などの非常食も利用する。多くの市民がバーベキューに参加することによって老若男女様々な交流が生まれ、それと同時に多くの人が震災時に防災ベンチを使えるように訓練とすることを目的とする。

帝京大学 湯川ゼミナール

対象地域：あきる野市

空いた1日どこで過ごす？

～Let's go to AKIRUNO city～

観光 外国人観光客

◆メンバー 井口敬太、大熊啓太、熊川穰、小林和生、長岡奏太 ◆担当教員 湯川志保

まちづくりの目的・概要

観光庁の「訪日外国人消費動向調査」では、訪日外国人の平均滞在日数は約9日で、14日以上滞在する割合が30%以上である国が20ヶ国中14ヶ国となっていること、外国人観光客が日本でやってみたいことの上位が温泉入浴や自然・景観の観光、日本食を食べることや日本酒を飲むことであることが示されています。私たちは、この点に注目し、「空いた1日をあきる野で」をコンセプトに訪日外国人がやってみたいことがすべてできるあきる野市で日本文化の体験、自然、食などを使ったツアーを企画することで地域を活性化をさせていきたいと考えています。

効果の見通し

前述したとおり、あきる野市には外国人観光客のやりたいことができる観光資源が豊富にあります。これらの観光資源を有効に活用したツアーを実施することで外国人観光客が増加し地域の活性化などにつながる効果が期待できます。また、来日外国人の約60%を占めるリピーターがやりたいことの上位にあげている複数の項目はあきる野市の観光資源を活用すればできることであり、再来訪の外国人観光客を獲得することができます。

継続性の見通し

あきる野市は、Free-WiFiや多言語対応の観光情報掲示板の設置など外国人観光客の来訪にむけてのインフラの整備や外国人観光客に関する調査を企画するなど外国人観光客の誘致に積極的なまちであるので、本企画を継続していきやすい環境にあります。また、あきる野市と帝京大学は協定を結び緊密な関係を構築しているので適宜アップデートを行いながら企画を継続して行っていくことが可能です。

先行研究・連携団体

あきる野市市役所 五日市出張所 環境経済学部 観光まちづくり推進課あきる野市 「匠」参考文献： 国土交通省 観光庁 「訪日外国人消費動向調査」

まちづくりのアピールポイント

あきる野市には、日本文化の体験や自然、食、温泉などの豊富な観光資源があり、他の観光地に匹敵するほどの潜在能力があります。特に、あきる野市は「匠」という市が認定した職人の方たちがおられるので、彼らを現代の侍として外国人観光客に紹介し、彼らとの文化体験をツアーに盛り込むことを予定している。

憲法の軌跡

～想いを繋ぐ憲法～

明治、五日市憲法、東京経済大学、香水

◆メンバー 経営学部経営学科3年 笹原美穂、経営学部流通マーケティング学科3年 高橋沙季、経営学部流通マーケティング学科2年 橘尚希、経営学部経営学科2年 杉田美咲、経営学部経営学科2年 澁澤開 ◆担当教員 山本聡

まちづくりの目的・概要

東大和市には、「交流人口を増加させること」、「経済効果を生み出すこと」、「観光地ではないが観光産業を発達させたい」という政策上の目的がある。また、東大和市の現状として、少子高齢化が進み、人口減少が予測されている。これらは地域経済規模の縮小や地域経済社会に影響を与える。そこで、東大和市にて歴女を対象にイベントを行い、東大和市の歴史を伝えることで魅力を感じてもらい、再び訪れてもらうことによって交流人口の増加を図る。

効果の見通し

今年は明治150周年という節目の年であり、五日市憲法と呼ばれる憲法が作られた。その憲法は東大和市にて千葉卓三郎という人物によって作成され、東京経済大学の色川大吉先生とそのゼミ生によって発見された。私たちはこれらの事実を地域資源として捉え、東大和市の魅力として発信し、認識してもらうことにする。東大和市役所や中小企業大企業と連携し、イベントの場所の提供やイベントの集客に関する情報発信することが決定している。東大和市の歴史を広めるきっかけの場とする。

継続性の見通し

東大和市役所、中小企業大学校、東京経済大学山本聡ゼミナールが連携し、8月のイベントを企画している。この3団体が目的を果たすためのイベントを11月に行うことを前提に、東大和市観光事業プラットフォーム会議への参加を予定している。連携先とのつながりを強化し、11月のイベントを視野に入れながら活動し、収支を均衡させるため、継続性が見込める。

先行研究・連携団体

伊藤始・杉田秀子・望月武人（2014）『五日市憲法を作った男・千葉卓三郎』、色川大吉（2015）『五日市憲法草案とその起草者たち』、金武創（2010）『歴女の文化遺産観光』、明治維新史学（2015）『明治維新と女性』、三井正昭（2013）『香道のすすめ』を参考に研究している。中小企業大学校、東大和市所、東大和市観光事業プラットフォーム会議の委員の方々と連携し、場所の提供やイベントの宣伝などをしていただけることが決定している。

まちづくりのアピールポイント

今年は明治150周年という節目の年であり、明治時代には五日市憲法が作られ、東大和市で書かれた。それを発見したのが東京経済大学の色川大吉先生とそのゼミ生であった。そこで、東京経済大学の学生である私たちが、五日市憲法の魅力を伝える。また、昨年に引き続き、東大和市役所と連携している。さらに、今年度は中小企業大学校や東大和市観光事業プラットフォーム会議の委員企業との関係を築きあげ、全面的な支援を得ている。

法政大学 糸久ゼミ チーム ビュート君

対象地域：町田、八王子

自動運転技術を活用した移動型販売店

多摩キャンパス「ランチ難民」救済！

自動運転技術

◆メンバー 小野友梨香、小林彩乃、日置雄哉、馬場里緒菜、菊田愛香、恩田真帆、石田真弓、桐木秀世、滝原拓夢、堤玲奈、中村優、藤森真央、山元夏希、高橋詩織、欽原由樹、櫛田朝陽、橋本舞、小鷹光輝、小野広人、田中里佳、葛原大輔 ◆担当教員 糸久正人

まちづくりの目的・概要

多摩地域の問題として、丘陵地帯で多くの交通網をバスに依存しているということがある。またその問題が交通の便が悪く、町が発展しにくいという問題にもつながっている。こうした多摩地域の問題の縮図が多摩キャンパスである。多摩キャンパスの学生は交通の不便さが起因する多くの問題を抱えている。その1つである「ランチ問題」を解決していきたい。多摩キャンパスでは、昼になると食堂が混み、近くのコンビニまで行くにも遠いため、多くの学生が昼食をとるのに困っている。もちろん店舗を増設するという考え方もあるが、長期休暇期間は学生がいないため、固定費をかけることは難しい。そこで分散型の移動型店舗が望まれる。移動型であれば、昼は多摩キャンパスの多くの学生がいる場所、夕方は部活やサークルが行われている体育館棟、地域の団地など、需要に合わせて販売することができるのである。具体的には、多摩キャンパスに併設しているセブンイレブンで集荷、多摩キャンパス各所に移動し、販売するという流れを、「小型EVの自動運転技術」と「QRコードなどを活用した自動レジ」を組み合わせた移動型店舗が行うということを考えている。近年、自動運転に関する実証実験は多く行われている。しかし、こうしたビジネスモデルを考慮したMaaS（Mobility as a Service）の実証実験は依然として限定的である。そこで本研究では、多摩キャンパスにおける社会実装を見据えた、移動型販売店の導入可能性について検討するのである。

効果の見通し

多摩キャンパスでは、自動運転技術を活用した移動型販売店により、ランチ難民を救済することができる。また、多摩キャンパス周辺地域にこのビジネスモデルを適用することで、買い物がつらい住民を助けることができる。さらに、このような最先端技術を取り入れることは、地域の活性化にもつながると考えられる。

継続性の見通し

現段階はプランを計画している段階である。プランとして現実的なものにし、補助金の獲得につなげたい。また補助金や助成金に依存してばかりでは継続していくことは難しいが、ビジネスモデルを考慮したこの計画であれば、事業性が高く、継続して地域の問題解決が実現できると考える。

先行研究・連携団体

先行研究として、カルフォルニア州で実証実験が行われる「Robomart」がある。「Robomart」とは自律移動型EVによる食料品販売サービスのことである。生鮮食品の配達的需求が高まっている中で考えられたもので、利点としては、無人販売のため配達コストが安く済むという点がある。また運転だけでなく、会計処理、燃料補給、消費者のニーズといったものも自動化できるためコストカットできる。「Robomart」が実現すれば、近隣に市場がない地域などで買い物の利便性が向上するという効果が見込まれる。連携団体は技術、システムインテグレート、事業者、土地管理団体、行政等と交渉中である。

まちづくりのアピールポイント

自動運転とキャッシュレスという最先端の技術を活用したニーズ基点の持続可能なビジネスモデルを考えていることである。多摩のような地域の交通の問題に対して、幅広く応用可能なソリューションを提供できる可能性がある。

多摩地区災害対策

多摩地区地震災害

災害・地震・防災

◆メンバー 高野空、荒井聖也、鈴木佑介、吉本優太 ◆担当教員 小西杏奈

まちづくりの目的・概要

多摩地区は地盤が強いいため地震に強く、海に面していないために津波の心配もない。それだけではなく、災害発生時に救助が来やすい防災センターがあるなど、防災の面でも有利な条件が整っている。しかし、学生向けにアンケートを行ったところ、こうした多摩地区の特性はあまり知られていないことがわかった。本プロジェクトでは、アンケート調査を通じて見えてきた内容を分析し、その情報を不動産会社と共有したり、独自にホームページを作成することを通じて、防災都市としての多摩地区のこうした強みを多くの人に知ってもらうことを目的とする。

効果の見通し

多摩地区の地域としての災害への強さをアピールすることを通じて、多摩地区の居住地域としての安全性を多くの人に知ってもらう。特に、これから就職、子育てをする若年層に対して呼びかけを行うことで少子高齢化のスピードを抑えることができる。長期的には、進行中の人口減少に歯止めをかけると考えられる。また、現在も住んでいる住人も呼びかけ等により、防災意識の向上につながる。

継続性の見通し

多摩地区の災害への耐性をつけることに終わりではなく、今後もどんどんまちづくりが進んでいくと考えられる。さらに、住民の防災意識向上を図ることができる。また、若者だけではなく、違う年齢層にも今後アンケートなどを行えばさらに、まちづくりが良い方向に進んでいくと考えられる。その他にも、現在も多摩地区に住んでいる住人の防災に対する意識向上も図り、緊急時の対応ができる。

先行研究・連携団体

福和伸夫『次の震災について本当のことを話してみよう』時事通信出版局、2017年。平田直『首都直下地震』岩波書店、2016年。「東京都に地震が発生した時の地域危険度ランキング」 <http://www.sei-inc.co.jp/bosai/eq/>

まちづくりのアピールポイント

多摩地区の災害についての意識調査を若者に行ったところ、107人中99には多摩地区の地盤の強さを知らないという結果が出た。そのため、多摩の災害の強さを多くの人に知ってもらうために不動産会社などによびかけ、独自のホームページ作成の検討。多摩地区の災害についての取り組みを知ってもらい、新たに多摩地区に住むことを検討する人も増える。

杏林大学 久野ゼミ 多摩OMOTENASHI班

対象地域：八王子市、小金井市、
立川市、羽村市、日野市、
福生市など

産学連携 YOKOSO NIPPON Project

外国人鉄道利用客への対応改善を通じた多摩地域イメージ向上作戦

訪多摩外国人・鉄道利用外国人・おもてなし

◆メンバー 総合政策学科 市村優典、長尾真志、長野駿希、高野真衣、范微、企業経営学科 大國真紀 ◆担当教員 久野新

まちづくりの目的・概要

2018年の平昌五輪では、外国人観戦客に対する駅職員の不十分な対応が世界的に報道されたが、2020年の東京五輪に向け、都内交通機関職員の外国人対応能力向上も急務となっている。当プロジェクトは、JR東日本八王子支社と杏林大学の学生・留学生が連携し、同支社管内駅職員の外国人対応能力向上を目的とし、多摩地域を訪れる外国人と駅職員の双方が直面するコミュニケーション上の課題を解決するためのツール（多言語カードおよび職員向け動画・テキスト教材）を開発した。

効果の見通し

3点ある。第一に、JR東日本駅職員の外国人対応能力が向上することで、多摩を訪れる外国人の満足度向上や事故や災害時の不安解消につながる。第二に、JR東日本が提供する鉄道サービスは公益的性格を帯びており、そのサービスを利用する外国人の満足度が向上すれば、多摩地域そのものに対するイメージの向上や低下防止につながる。第三に、こうした取り組みを通じ「公共交通機関の外国人対応力が日本一高い地域多摩」という国内における地位確立にもつながる。

継続性を見通し

杏林大学とJR東日本八王子支社の協働という意味では、当初の計画どおり2年間の活動を経て本年3月末で一つの区切りを迎えたが、今回開発した「多言語 OMOTENASHI カード」は八王子支社管内の複数駅におけるテスト施行を経て、現在はその使い勝手等に関する再検証が行なわれている。また駅職員向けの英会話教材（テキスト+動画）に関しても、来年度以降の導入を目指して各駅での活用方法が検討されている。多摩地域の鉄道を利用する外国人の満足度調査は引き続きゼミ独自でも実施し、結果をJRとも共有したい。

先行研究・連携団体

交通機関を利用する外国人向けおもてなしツールとしては、JR西日本「広島宮島案内カード」、東急電鉄「おもてなしボード」、東京メトロ「ウェルカムボード」、JR東日本東京支社「JRの接客指差し会話シート」などが挙げられるが、学生との連携による駅職員向けの多言語カードおよび動画教材の作成については先行事例が見当たらなかった。連携団体は、JR東日本八王子支社である。

まちづくりのアピールポイント

最大のアピールポイントは、おもてなし改善ツールの作成の過程において、先行事例の問題点を抽出するとともに、JR職員約640人に対するアンケートや留学生へのモニター実地調査を行い、多摩地域の駅で実際に発生しているコミュニケーション上の課題（遅延理由、乗り換え案内、特急券と乗車券の違い、観光名所の案内など）の解決に資する外国人向けツールを作成したことである。また当プロジェクトの取り組みは、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞でも報道され、社会的注目を集めた。

審査会場 出場団体

まちづくり第2・ものづくり部門 S519教室（ソラティオスクエア）

◆キーワード 子育て		◆対象地域 日野市
No.1	明星大学 経済学部	
	地域のコミュニティスペース 地域センターを進化せよ！	
◆キーワード 八王子野菜、和菓子		◆対象地域 八王子市
No.2	創価女子短期大学 水元ゼミ チームえどさっ娘	
	八王子×野菜×和菓子	
◆キーワード まちあるき、大学生、居場所		◆対象地域 日野市
No.3	実践女子大学 JHOME-Lab	
	大学生とまちあるき	
◆キーワード 教育		◆対象地域 東久留米市
No.4	亜細亜大学 法学部・平井文三ゼミ（行政学）学習支援チーム	
	東久留米市の児童館での科学実験教室	
◆キーワード 外国人の子ども		◆対象地域 八王子市
No.5	創価大学 中山賢司ゼミ チームSFC	
	未来の子どもたちのためにできること「SFC」	
◆キーワード 福祉バス 子育て		◆対象地域 福生市
No.6	中央大学 商学部3年 根本ゼミ	
	福祉バスが運ぶ知識と記憶	
◆キーワード 子育て、地域密着型		◆対象地域 立川市
No.7	帝京大学 湯川ゼミナール 子育て班	
	みんなでつくろう！子育てタウン	
◆キーワード ものづくり		◆対象地域 東久留米市
No.8	亜細亜大学 法学部 平井ゼミ チームAL	
	科学への興味の第一歩	

明星大学 経済学部

対象地域：日野市

地域のコミュニティスペース

地域センターを進化せよ！

子育て

◆メンバー 一ノ瀬佑太、阿部ゆりか、安藤瑞穂、新井康平 ◆担当教員 波田野匡章

まちづくりの目的・概要

明星大学の所在地日野市の活性化、住民のコミュニティスペースである「地区センター」を改良し、世代を超えた交流のできる新しいスペースを生み出す。さらに「子育て」をよりし易い環境を作る。現在、イベントや会議を中心にしか使用されていない「地区センター」を、幼いお子さんからご老人まで、多くの人々に親しまれ、安心できる場所とする。そうすることで、幅広い世代が交流でき、安心してお子さんを預けられ、ご老人の方々のコミュニケーションの場とする。

効果の見通し

多くの人が集う場を1から作り出すのではなく、既に多摩市に存在する施設をしようすることで、費用も現実的である。

継続性の見通し

施設の前を通り過ぎても気にしないくらいの建物になっている「地区センター」。町になじんでいる施設を開拓することで、親近感を生みやすく、地域で広まっていくと考える。

先行研究・連携団体

旭ヶ丘地区センター企画部地域協働課

まちづくりのアピールポイント

地域の繋がり、ご近所との繋がりが薄くなってしまっている今だからこそ、既に存在する「地区センター」という町に溶け込んでいる、あまり重視されていない施設から、最大全に価値を引き出す。これは今後の多摩市に必要な知識が生奈取り組みだと考える。

八王子×野菜×和菓子

～八王子の魅力を発信～

八王子野菜、和菓子

◆メンバー 現代ビジネス学科2年 新村 玲奈、岡田光、小串 華菜、高橋 美穂 ◆担当教員 水元昇

まちづくりの目的・概要

私たちは、八王子の魅力を全国に発信したいと考えた。八王子には様々な魅力があるが、私たちが調査した中で、元禄の商人たちから続く長い和菓子の歴史がある。また、八王子には江戸東京野菜に指定されている野菜が3種類（川口エンドウ、八王子しょうが、高倉大根）あるだけではなく、その他農作物が豊富であることも魅力である。その野菜と和菓子をコラボさせた新たな商品開発を行い地域活性化を目指していきたい。

効果の見通し

この商品開発によって、八王子の野菜と自然そして和のイメージを定着させ、「八王子といえば」や「八王子らしさ」を伝えることができると考えている。例えば、川口エンドウの実や色素を利用した饅頭などを検討している。八王子農家の方々や和菓子屋にとってもさらなる活性化に繋がり、ひいては八王子市全体の地域活性化に繋がると考えている。

継続性の見通し

良い商品ができる事で、その商品の製造、販売、広報がうまく回っていくことによって、面白い商品となると思う。実験販売を通して、効果を図られ道の駅などに置いてもらえるような商品となることで、継続性ができると思う。具体的には、製造と販売会社との連携が課題である。（現在検討中）

先行研究・連携団体

八王子市内の和菓子屋及び八王子野菜を生産している農家の方々には連携を取り魅力ある商品の提案ができればと考えている。具体的には八王子市農業協同組合と八王子和菓子組合との連携を進めていきたい。

まちづくりのアピールポイント

八王子市は、甲州街道の宿場町として栄えたため、多摩地区の中でも和菓子店の多い場所である。八王子野菜と和菓子をコラボした商品開発から地域活性化へ繋がり、八王子市のディープな魅力を全国にPRしていこうと考えている。私たちの提案をきっかけに東京都や八王子市の住民の方に魅力を再発見してもらうだけでなく、和の文化を通して海外の観光客の方々にも日本の味を楽しんでいただきたい。

大学生とまちあるき

まちと大学生をつなぐことでできるみんなの居場所

まちあるき、大学生、居場所

◆メンバー 伊東那奈、杉山佳子、足立美樹、政田玲奈 ◆担当教員 須賀由紀子

まちづくりの目的・概要

日野市でも、本格的な人口減少を迎えることが予測されている。今後「転出超過」をいかに防ぐかは大切な課題であろう。そのためには、日野市に通う大学生が、日野に住みたいという思いを持つことが一つの解決策ではないか。一方、SNSの中、学校とバイト先以外に人とつながりあう居場所がほしいと思っている学生も多い。そこで、市民と協力して、日野の住みやすさを発見する学生対象まちあるきを企画する。そしてツアーを通して、学生が地域に居場所を発見し、地域のつながりを生むしくみを構築する。

効果の見通し

このまちあるきをすることで、大学に通うだけだった学生の日野市に対する意識が変わり、日野市への興味関心が高まり、地域活動にも積極的になってくれることが期待できる。そして、就職活動を控える大学生たちが日野市で就職、または市外に出ていったとしても、最終的には戻ってきたいと思える効果がでるであろう。また、市民に協力を仰ぐなかで、地域活性化につながる人々のあらたなつながりを生まれるだろう。

継続性を見通し

まちあるきは素のまちを見せるものなので、コストがかからず費用的な心配がなく続けることが容易である。また、実践女子大学のみならず日野に在籍する他の大学でも各大学が主体的に行い、このまちあるき文化を定着させることで、この活動の広がりが生まれる。このまちあるきで出た若者ならではの視点を、地域に住んでいる市民にフィードバックすることで学生と地域という存在が近いものになる。また、大学生同士にとどまらず、多世代を巻き込み、日野市内に在籍する様々なステークホルダーとの連携も考えられる。

先行研究・連携団体

参考文献・茶谷幸治『まち歩きが観光を変える - 長崎さくら博プロデューサーノート』学芸出版社・板橋区『板橋マニア 板橋好きが案内する板橋まちガイド』flickstudio・吉岡走馬 他『まちあるきガイドにおける観光価値の創造過程』愛媛経済論集連携団日野市にある大学（予定）、日野市各地区アクションプラン実行委員会、自治会等

まちづくりのアピールポイント

大学生が大学生に送るこのまちあるきでは、私達が地域活動をするうえで感じてきたことを同世代である大学生に伝えていくことが可能だ。私たちは大学3年間の中で地域に沢山関わってきた。現場を肌で感じ、地域の方々と繋がることの出来る嬉しさやまちのことを知る楽しさを体感した。この体験をもっとたくさんの学生に伝え、少しでも多くの人々が日野市に愛着をもってもらえるようにしていきたい。地域と学生が繋がることが可能になれば、学生にとっても地域にとってもプラスに作用すると考えられる。このまちあるきツアー企画が、日野市の新しい観光資源となることも期待される。

東久留米市の児童館での科学実験教室

学習支援を通じた地域活性化

教育

◆メンバー 佐藤貴大、岩田雄介、室井太陽、小林悠成 ◆担当教員 平井文三

まちづくりの目的・概要

平成29年7月6日に東京都教育委員会が実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果では、東久留米市は多くの科目で都の平均を下回っていた。しかし、理科の関心・意欲・態度は都の平均を上回る結果であった。そこで、我々は、市内の小学生が他の教科に比べて興味を持っている理科に焦点を当て、来年の1月に、科学実験教室を開き、科学実験を通じて小学生に科学技術の理解と知識の探求に取り組ませさらに、理科以外の教科との繋がりも意識させ、他教科の成績向上にも繋げることを目的とする。

効果の見通し

科学実験を通じて、子供たちが自立して学習する習慣を身につけさせ、子供たちに「自分で問題を解ける!」という自信をつけさせることができる。このことは、さらに、理科以外の科目でも探求的に学習する楽しさに気付くきっかけを作ることもできる。また、児童館を会場とすることにより、特定の小学校の児童を対象としていないので、学習効果のみならず、市内の他小学校の児童との交流効果も期待できる。今後は、参加した子供が別の友達に参加を呼びかけることで、児童館の利用率が上がることも期待できる。

継続性の見通し

次項「先行研究・連携団体」で述べるように、この教室は東久留米市の継続事業の一環として行われるものであり、今後も継続・拡大されていくものである。例えば、この活動をモデルケースとして、対象児童を中学生に拡大する、指導者側も東久留米市内の高校生や、亜細亜大学を含む近隣の大学生などに拡大する、他の科目でも自立的な学習方法による教室を行うなど、ボランティア活動の拡大や、様々な学習支援の企画も見込める。

先行研究・連携団体

東久留米市は、「夢と希望の持てる元気なまち」を目指すため、『産・官・学の包括連携による次世代を担う子どもたちの育成事業～健やかな子どもたちの育成に向けた学びの支援～』という事業を平成30年度から実施しており、毎月第一土曜日に市内の児童館「子どもセンターあおぞら」で、下記協定に基づき、亜細亜大学生と市内の小学生との交流イベントを行っている。本企画はこの一環として実施するものである。参考文献：『平成29年度児童・生徒の学力向上を図るための調査』『産・官・学の包括連携による次世代を担う子どもたちの育成に関する協定』（平成30年3月）参加団体：（東久留米市、葉隠勇進株式会社（児童館の指定管理者）、株式会社イトーヨーカ堂、株式会社東邦運輸、亜細亜大学）事業計画書『産・官・学の包括連携による次世代を担う子どもたちの育成事業～健やかな子どもたちの育成に向けた学びの支援～』（平成30年4月）

まちづくりのアピールポイント

科学実験教室を、対象児童と年齢の近い大学生が主体となって開催することで、子供たちはより参加しやすく、質問や分からない所あった場合でも、気軽に尋ねることができる。また、科学実験を家庭で実施することは難しい。そこで、子供たちにとって身近な施設である児童館で教室として開くことで、子供たちだけでなく、子供たちの保護者にも、科学実験に対する心理的障壁を下げる効果がある。と考える。

創価大学 中山賢司ゼミ チームSFC

対象地域：八王子市

未来の子どもたちのためにできること「SFC」

外国人の子どもたちは私たちが守る

外国人の子ども

◆メンバー 川合美聡、飯田飛鳥、脇田萌波、山田賢一、渡邊健一 ◆担当教員 中山賢司

まちづくりの目的・概要

八王子は留学生が約3100人在籍する国際学園都市であり、留学生向けの施策は数多く行われている。しかし、フィールド調査で見えてきたことは、留学生ではない外国人の子どもたちへの取り組みは少なく、十分な社会的サポート体制からこぼれ落ちる脆弱性がかかえた存在であることが分かった。そこで私たちは、国際学園都市・八王子を誰一人置き去りにしない共生のまちとするために、まず外国人の子どもたちが日本の文化を学び、日本人の子どもたちになじめるような「場」を設定する必要があると考えた。具体的には、日本文化の体験・交流イベントなどを実施する。

効果の見通し

私たちの事業によって外国人の子どもたちが八王子市における居場所を見つけ、八王子市を漏れなく全ての外国人市民にとって安心でき、日本人市民にとっても暮らしやすい多文化共生のまちへと発展させることができる。そのことによって、ほかの都市においてもロールモデルとなる。また、地域商店街などと連携を取ることや、八王子に住んでいる人と、外国人との関わりあいを通して、八王子市の活性化にも繋がる。

継続性を見通し

持続性については、2点ある。1点目は、連携中の八王子国際協会の事業の一貫として私たちの企画を組み込んでもらう。2点目は、私たちの交流会に参加してくれた子達にスタンプカードを渡し、参加する度にスタンプを押してもらう。地元商店街と連携を取り、スタンプが3つたまると商店街で使用できる商品券などにするというコミュニティビジネスを立ち上げ、カードを地域通貨とすることで、商店街の活性化、地域との関わりも増えるため、継続性を持たせられると考えている。

先行研究・連携団体

八王子国際協会、八王子日本語協会、八王子第6小学校、CSS世界の子どもと手をつなぐ学生の会。八王子日本語協会さんにおいては、外国人の子どもに日本語教えることを目標に取り組むことを考えている。八王子第6小学校さんとは、八王子の中で唯一外国人の子ども生徒数が多い小学校であり、実際に現地の声を調査するためである。CSSさんは、八王子日本語協会さんと同様に、子どもたちに日本語の授業提供を行いたいと考えている。

まちづくりのアピールポイント

私たちの事業の目的は、八王子市に住んでいる外国人の子どもの将来性を奪われないようにするために、一人一人の未来を確立していくことをゴールとして、この事業を考えている。子どもは、これからの世代を担っていく大切な存在であると同時に私たちが守っていかなければならないのである。そこに国籍問わず、お互いに一人の人間として垣根を越えた友情の輪を拡大していくことが、これからの将来に最も重要である。

福祉バスが運ぶ知識と記憶

～共働き世帯の負担削減を目指して～

福祉バス 子育て

◆メンバー 月村佑平、西澤和哉、向井さき、三村佳凜、渡知佳、紀藤春佳 ◆担当教員 根本忠宣

まちづくりの目的・概要

多くの市町村において、行政や民間企業が運営するコミュニティバスが存在し、団体貸切でも使用できるようになっています。しかし、福生市にはそのようなコミュニティバスは存在していません。ただ、その代わりに高齢者の自宅と市内の老人ホーム等を結ぶ「福祉バス」が福生市には存在します。そこで、「福祉バス」を高齢者のみではなく、小さな子供たちも利用できるようにします。近年子供たちが遊べる環境は年々無くなっているため、様々な活動を行う仕組みを作ります。

効果の見通し

この活動を実施することで、主に共働き夫婦の子育てに関する負担を減らすことができます。また、子供たちが様々な体験を通じて視野が広がったり、新たなことにチャレンジするきっかけになります。その結果、将来的な経済効果を生み出すことが予想できます。さらに、新たなコミュニティ作りにも影響を与え、新たな友達ができたり、お兄さんお姉さんのような大学生と触れ合うことで、コミュニティの活性化にもつながることが予想されます。

継続性の見通し

私たちのゼミを中心に活動を継続的に行っていきます。また、福生市内にコミュニティバスが仮に創設された場合、福祉バスをより重点的に使用したり、コミュニティバス運営企業とも連携を図り、活動規模の拡大が期待できます。将来的には、他大学とも提携し、福生市だけでなく多摩地域全体に普及していく計画です。

先行研究・連携団体

参考文献・福生市公式ホームページ・立川バス・Asmama連携団体 ・福生市役所・福生市内の小学校・多摩地域の大学(予定)

まちづくりのアピールポイント

近年、インターネットや通信機器が発達し、子どもたちの「なぜ?どうして?」はほとんどスマートフォンの画面で解決されてしまっています。この活動を通じて、子供たちの目と耳と心で物事を感じ、様々なことを経験できるいい機会にしていきたいと思います。

帝京大学 湯川ゼミナール 子育て班

対象地域：立川市

みんなでつくろう!子育てタウン

子育て世帯が住みやすいと感じる街づくり

子育て、地域密着型

◆メンバー 大塚直美、古谷愛、森将龍、川端拓未、嶋口琢磨、曾我英司、羽鳥暁、藤田亮、松田祐 ◆担当教員 湯川志保

まちづくりの目的・概要

私たちは、子育て支援を通じたまちの活性化を行いたいと考えています。その中で、外出時に困った事として、「周囲の子連れに対して迷惑そうな態度」や「困っている時に手を貸してくれる人がいない」といった声をあげている子育て世帯が一定数いる点に注目し、子育てをしていない人からの理解や手助けを促す企画を考えました。具体的には、子育て世帯を応援している飲食店等で割引が受けられるお手伝い感謝クーポンを子育て世帯に配布し、手助けをしてくれた人に渡してもらい、そのクーポンを対象店舗で利用してもらうという企画です。

効果の見通し

お手伝い感謝クーポンのシステムは、子育て世帯が心的なストレスを感じずに気軽に外出しやすい環境整備の手助けになると考えます。また、多くの人にとって感謝されるということは嬉しいことであるという考えに基づくと、お手伝いに対する感謝の気持ちを言葉だけではなくクーポンというプチギフトで表してもらうことで、子育てをしていない世帯からの支援をより一層得やすくなることが期待できます。さらに、本企画に協力してくれる店舗は、クーポンの提供により子育て世帯からのイメージアップが図れるとともにクーポンを利用するために訪れた子育てをしていない世帯から利益を得るというメリットがあるので、協力店舗の拡大等を通じてこの企画が広まる結果、子育て世帯の住みやすい環境へと移行することができると考えます。

継続性を見通し

この企画を維持継続させるには、本企画に協力してくれる店舗の確保とクーポンを子育て世帯に定期的に配布することが重要となります。飲食店が多く存在する立川市において、上述したような店舗にとってのメリットをしっかりと各店舗に説明し、理解を得ることで本企画を維持継続することが可能であると考えます。また、立川市役所と連携をはかり、市が発行する子育て関連の情報誌等にクーポンを挟んでもらうことで定期的に子育て世帯にクーポンが配布できるような仕組みを構築したいです。

先行研究・連携団体

子育て支援店舗参考文献：立川市役所、株式会社カカコム：不動産住宅情報サイト スマイティ、子育て応援たちかわマップ

まちづくりのアピールポイント

この企画のポイントは、子育て情報誌や子育てバリアフリーマップなどを提供するような直接的な支援を通じて、子育て世帯の環境を整備する、という方法ではなく子育てをしていない世帯や本企画に協力してくれる店舗にも子育て世帯を支援するメリットを持たせる点にあります。つまり、3者がwin-win-winの関係になることで「子育て世帯が住みやすいまち」を実現できると考えます。

科学への興味の第一歩

アルディーノを用いた電子ピアノ作成の子どもたちへの指導

ものづくり

◆メンバー 大庭崇幹、柏崎秋摩、小林祐斗、橋本和真 ◆担当教員 平井文三

まちづくりの目的・概要

この活動の主たる目的は、東京工業高専の支援を受けつつ、私たちのような理系のバックグラウンドを持たない文系大学生が、子どもたちにコンピュータプログラミングを伴う電子工作を指導することである。この活動で用いるマイクロ・コンピュータ「アルディーノ」では、アルディーノ言語を用いる。アルディーノ言語は、実用プログラミングで用いられるC言語を入門用に簡易化しているため、プログラミング初心者でもプログラム設計ができるとともに、将来C言語を習性する際にも役立つ。この活動をきっかけに、小さな子どもたちが、プログラミングや電子機器の仕組みなどに興味を持つことにつながると期待している。

効果の見通し

まず、身近で簡単な科学技術に触れてもらうことによって、子どもたちに科学への興味を持ってもらい、その楽しさを知ってもらう。その結果、より幅広い勉学への意欲、関心や知識の探求につながることを期待している。また、イベントを児童館で開催することによって、普段は科学に興味がない子どもたちも参加しやすくなり、より多くの子どもたちに身近で簡単な科学技術の楽しさを知ってもらえることを期待している。

継続性の見通し

児童館「子どもセンターあおぞら」における子供の育成事業は、下記5者連携に基づく東久留米市の継続事業として、次年度以後も月1回開催される予定である。当面、8月の夏合宿までに、子供たちへの指導方法を確立し、来年2月に子どもセンターあおぞらで開催される「大学生と遊ぼう・学ぼう」という企画で、アルディーノを使い、自分達が学んだ電子ピアノの作り方や仕組みを実際に教えることを予定している。

先行研究・連携団体

連携団体 1. 国立東京工業高等専門学校 電子工学科 青木宏之研究室 2. (「産、官、学の包括連携による次世代を担う子と?もたちの育成に関する協定」参加団体)・東久留米市・葉隠勇進株式会社・株式会社イトーヨーカト?ー・株式会社東邦運輸参考文献「産、官、学の包括連携による次世代を担う子供たちの育成事業に関する協定」(2018年3月28日)「産、官、学の包括連携による次世代を担う子供たちの育成事業～健やかな子と?もたちの育成に向けた学ひ?の支援～事業計画書」(2018年東久留米市) 平原真「実践Arduino! 電子工作でアイデアを形にしよう」オーム社電子ピアノを作ってみよう (https://www.sys-link.jp/micom/arduino/3_denshi_piano.html)

まちづくりのアピールポイント

第1に普段プログラミングとは無縁の文系である私たちでも簡単に出来るプログラミングなので、プログラミング初心者の方にもとても取り組みやすくなっており、子どもたちがプログラミングに対しての興味をもつきっかけになればと思っている。第2に、児童館で実施することにより子どもたち多くが集まりやすいと考えている。

審査会場 出場団体

まちづくり第2・ものづくり部門 S520教室（ソラティオスクエア）

◆キーワード 誘導ブロック・福祉のまちづくり・社会的包摂		◆対象地域 青梅市
No.1	亜細亜大学 西原ゼミ 1班	
	みどりと水と命のふれあい	
◆キーワード 誘導ブロック・福祉のまちづくり・社会的包摂		◆対象地域 八王子市
No.2	法政大学 水野研究室	
	つながる西八王子	
◆キーワード プログラミング教育		◆対象地域 八王子市
No.3	帝京大学 湯川ゼミ 教育班	
	継続は力なり！帝京プログラミングⅡ	
◆キーワード 不登校支援、文通、学生、ソーシャルビジネス		◆対象地域 多摩市、八王子市
No.4	創価女子短期大学 水元ゼミ チームRoot	
	「文通」でつくる子ども達の居場所	
◆キーワード 産学連携、イノベーション		◆対象地域 八王子市
No.5	帝京大学 経済学部 三竝ゼミ	
	帝京大学発のヨーグルトで多摩地域をもっと元気に	
◆キーワード クリエイター、シティプロモーション		◆対象地域 八王子市
No.6	法政大学 水野研究室 チーム水野組	
	クリエイティブシティ八王子	
◆キーワード 高齢化・団地・地域活性化		◆対象地域 多摩市
No.7	専修大学 大崎ゼミナール	
	永山団地アクティブ大作戦	
◆キーワード 就労・福祉		◆対象地域 八王子市
No.8	創価大学 安田ゼミ Team owl	
	多摩に住む発達障害者が生き活きと働けるまちづくり	

みどりと水と命のふれあい

～蛍で磨く子どもたちの感性～

誘導ブロック・福祉のまちづくり・社会的包摂

◆メンバー 富永知子、鎌田竜輝、藤田英絵、大村美咲、神崎千晴、斎藤麻実 ◆担当教員 西原彰宏

まちづくりの目的・概要

初夏の風物詩蛍。蛍は幸せの象徴として、人々から愛されてきた。しかしこの蛍が現在、環境の変化や水質汚染などにより次々とその姿を消し、生息地が減少している。さらに、今日の子どもたちは電子機器の発達から自然や生き物と触れ合う機会が少なくなっていることが事実である。子どもたちが自然や蛍と触れ合うことが環境保護と多摩地域の活性化に繋がるのではないだろうか。そこで私たちは青梅市に注目した。青梅市では成木川という蛍が見られると地元で有名な川があり、蛍の保護育成活動に取り組み鑑賞する「蛍を見る夕べ」という祭りが行われている。そこでゲンジボタルの幼虫の放流体験イベントを実施する。このイベントを通じて自然と生き物の命の大切さや尊さを知り、感受性が豊かな子どもたちが溢れる多摩地域を目指し活性化に繋がりたいと考えている。

効果の見通し

ゲンジボタル放流体験イベントを実施することで、次のような効果が挙げられる。1つ目は、青梅市及び多摩地域の子どもたちが遠出をせずとも東京で自然と生き物に触れ合える機会を設けられることである。2つ目は、ゲンジボタルの幼虫を放流するということで子どもたちの感受性が育まれることである。蛍は成虫になるまでは1年程かかるが、成虫になってからの寿命は1週間程度であり、とても儚い。そんな蛍の放流から学ぶこの貴重な経験は、子どもたちの心に残るだろう。こうして自然溢れる地元への愛が生まれ、命を大切に、感受性豊かに成長した子どもたちが未来の多摩地域をより良くするのではないだろうか。このイベントが現在の多摩地域活性化に繋がると共に、これからの多摩地域を担うであろう子どもたちへの橋渡しになると考えている。

継続性の見通し

青梅市で行われている「蛍を見る夕べ」は第14回まで毎年行われている歴史のある祭りである。この祭りにゲンジボタル放流体験イベントを絡めて開催することにより、認知度も高まりやすく、継続も見込まれる。また、祭りを運営している「青梅市みどりと水のふれあい事業推進協会」は、市内の蛍の保護活動や年間を通じた観察などを行う蛍保護指導員も所属している。子どもたちは蛍保護指導員の指導で蛍への正しい知識を身に付けることができる。これらのことから、ゲンジボタル放流体験イベントの継続は可能だと考えられる。

先行研究・連携団体

連携団体 青梅市みどりと水のふれあい事業推進協会（予定）青梅市民の協力と共に、みどりと水に関する各種情報提供やイベント等を年間を通して実施している。市内に発生する蛍の保護育成活動を行い、「蛍を見る夕べ」を運営している。こちらと連携の協力を求め、ゲンジボタル放流体験イベントを開催できないかと考えている。

まちづくりのアピールポイント

多摩地域の活性化に繋がるもの、それは、これから先たくさんの経験をし成長していく子どもたちが担っていると考えている。そこで私たちは子どもたちが大人になった先の未来の多摩地域の活性化まで見通し、ゲンジボタルの放流から成長を見届けることによって命の尊さを学ぶ子どもたちの五感や感受性を養う手伝いをしたい。イベントを通して成長した子どもたちが次の時代へ語り継ぎ、地元を愛し自然と蛍を守り、笑顔や活気が溢れる多摩地域がこれから何年、何十年と続くことを心から願い、本コンペディションを真摯に取り組みたいと考えている。

法政大学 水野研究室

対象地域：八王子市

つながる西八王子

晴眼者と視覚障害者が認めあえる街へ

誘導ブロック・福祉のまちづくり・社会的包摂

◆メンバー 宇田紫乃、柿崎あらた、西方満美、村上由希乃 ◆担当教員 水野雅男

まちづくりの目的・概要

私たちが通っている法政大学多摩キャンパスは西八王子からの交通アクセスが良く、住んでいる学生も多い。西八王子には東京都立八王子盲学校があり、西八王子を歩くと多くの視覚障害者をみる。また、視覚障害者のための誘導ブロックが街にはありふれている。現状、誘導ブロックは視覚障害者が日常生活を送る上で必要なものである。一方で、高齢者や車椅子利用者、ベビーカー使用者にとってはバリアとなりうる。晴眼者と視覚障害者が声をかけ合い地域全体で交流を持つことで、お互いの歩行環境を見つめ直すきっかけをつくる。そのために、晴眼者と視覚障害者が互いを認めあえるような交流会を開催することを目指す。

効果の見通し

視覚障害者と晴眼者が分け隔てなく交流できる機会が増えれば、自然と視覚障害者を介助することができる。このように誘導ブロックに頼らなくてもいい環境が整い、またお互いが何が障害に感じているのか理解することができる。そうすれば、高齢者や車椅子利用者、ベビーカー使用者を含めた全ての人が暮らしやすい環境にすることができる。

継続性を見通し

今、西八王子にあるサロンで引き続き調査を行う。そして継続的に交流会を行っていくために実行委員会を組織し、町内会の人たちが主体となる仕組みをつくる。

先行研究・連携団体

東京都立八王子盲学校、散田クラブ、先行研究：不適切に設置されている視覚障害者誘導ブロックの類型化と改善策（2008 徳田克己 他）点字ブロックが車いす使用者、高齢者、幼児の移動にどの程度のバリアになっているか（2010 水野智美 他）視覚障害者誘導ブロックの新たな敷設方式の有効性と課題に関する研究（2010 高橋和哉 他）視力の低い人への視認性・記号性を保ちつつ景観との調和にも配慮し、車椅子やベビーカー利用者のバリアになりにくい、視覚障害者用点字誘導ブロック（2018 伊藤啓）

まちづくりのアピールポイント

文献による先行研究や現地調査、東京都立八王子盲学校・八王子市役所へのインタビューを行い、実際に街の実態を見てきた。先行研究においても視覚障害者にとっては必要不可欠な誘導ブロックが高齢者や車椅子利用者、ベビーカー使用者にとっては障害になっており、マイナスなイメージがある。しかし私たちはそれをプラスに捉え、社会包摂につながるようなまちづくりを行っていく。

継続は力なり!帝京プログラミングⅡ

～たまっ子、論理的思考力育成プロジェクト～

プログラミング教育

◆メンバー 天野祥、稲田友星、島崎祐希、吉田優 ◆担当教員 湯川志保

まちづくりの目的・概要

私たちは、教育を通じた地域の活性化を行いたいと考えており、その中でも昨年度に引き続きプログラミング教育に焦点を当てた企画を実施します。高度なIT人材の育成を見据えた、小学校でプログラミング教育の必修化が2020年の教育改革で予定されていることから、それに向けての学習を継続的に行うことが重要であると考えたからです。昨年度開催した教室の反省点を活かした第2回プログラミング教室を実施することはもちろんですが、今年度は特に繰り返し学べる環境づくりに重点を置き、自宅学習が手軽に楽しくできるような自主学習ツールを提供し、教室外での学習を促進したいと考えています。

効果の見通し

現在プログラミング教育を推進している自治体は全国に僅かしかない中で、本企画を実施することは、八王子市に住む子どもたちのプログラミング教育導入前準備や論理的思考力の育成という機能を果たすことができます。さらに、八王子市が策定した「第2次八王子市教育情報化推進プラン」の施策目標の一つであるICTを活用した教科指導の実践を実現するための取り組みとしてあげられているプログラミング教育の準備とリンクすることができ、八王子市が望む将来像への手助けをすることができると考えます。

継続性を見通し

上述したように八王子市では、教育情報化を推進するための取り組みの一環として、プログラミング教育の準備をあげており、本企画はそれを進める上で補助的役割を果たすことが可能であるので、八王子市と連携を取りながら継続して企画を実施できると考えます。また、教室運営に関しても、昨年度のプログラミング教室開催にご協力していただいた八王子市の小学校との連携を続けていることから、次年度以降の継続的な開催も期待できます。

先行研究・連携団体

参考文献・資料「第2次八王子市教育情報化プラン（平成30年3月更新）」「ICTを活用した教育の推進に関する座談会報告書（平成26年8月29日更新）」日経BP社『親子で始めるプログラミング』（2016）小林祐紀『小学校プログラミング教育』（2017）連携団体八王子市の小学校、児童館等

まちづくりのアピールポイント

子どもたちの論理的思考力の育成やプログラミング教育導入前の準備を十分に行うためには、教室で学習することも重要ですが、子どもたちが教室外で繰り返し学習する習慣をつけることがより重要であると考えます。そこで、「子どもたちは、楽しいことには積極的、自主的に学ぼうとする」という考えの下、私たちは楽しく継続して学べる自主学習ツールや学習の振り返りができるプログラミング学習帳を導入し子どもたちの学習をサポートすることで、IT教育に強いまち八王子市をアピールしていきます。

創価女子短期大学 水元ゼミ チームRoot

対象地域：多摩市、八王子市

「文通」でつくる子ども達の居場所

～Let'sアナログマジック～

不登校支援、文通、学生、ソーシャルビジネス

◆メンバー 脇晴美、小櫻茉衣、森山愛子、内野夏海 ◆担当教員 水元昇

まちづくりの目的・概要

日本にはまだ、様々な社会問題で溢れています。その中で私達が焦点を当てたのが「不登校問題」でした。現在不登校生の人数は把握している範囲だけでも全国で18万人を越えています。私達はこの現状を知り、自分たちができる事はなにかないかと思い、調査を開始しました。その結果、人の温かみを肌で感じるアナログ的な「文通」という手段ならば不登校の子ども達を支援することができると考えました。

効果の見通し

私たちの考える不登校支援が成功すれば、不登校で悩んでいる子ども達を少しでもサポートする事が可能になります。文通を不登校の子ども達が行う事により、自身の安心できる場所で他者との交流を図る事ができます。そして、やり取りを行う中で自分の事を考え、理解してくれる人がある事を知り、それが彼らの居場所につながっていくと私達は考えます。また、私達はこの文通のやり取りを大学生が行って欲しいと考えています。そうする事により、学生が不登校への理解を深める事へとつなげる事ができます。

継続性の見通し

現段階で考えているシステムとしては、不登校の子どもたちから文通を制作するための最低限の費用を何らかの形でいただき、ボランティアとして募集した学生と文通を行うというシステムを考えています。また、この文通の内容に関しては、不登校生が不快な思いをせず、楽しく文通のやり取りを行えるよう規制をかけて行いたいです。また、私たちが卒業してもこのシステムを継続するために、私たちが学生のうちに他団体や他企業などの方と協力して行い、卒業後は委託できたらと考えています。

先行研究・連携団体

NPO法人などの支援団体を訪問した際、不登校の現状や見通し、支援方法などの不登校に関することを学びました。学んだことは主に4つあります。1つ目は、子ども達に寄り添い他者とのつながりを作ること。2つ目は、居場所をつくること。3つ目は、先生と生徒のような上下関係ではなく対等な立場で接すること。4つ目は、子どもたちの自己肯定感を高めていくこと。この4つの学びを私たちの提案に結び付けていきたいと思います。

まちづくりのアピールポイント

この提案を実現することができたら、不登校で悩む子ども達の居場所を作ることができ、少しでも多くの子ども達を支えることができると思います。また、親でもなく教師でもない学生という子ども達と身近な立場だからこそ、何かできることがあると考えます。不登校支援を行っている方にこの提案をお話したところ、好評をいただきました。不登校で悩みを抱えている子ども達のために、私たちの提案を行う価値はあると思います。

帝京大学発のヨーグルトで多摩地域をもっと元気に ヨーグルトの製品化と消費実態調査

産学連携，イノベーション

◆メンバー（ゼミ代表）笠原真悟、五十嵐舞 ◆担当教員 三竝康平

まちづくりの目的・概要

三竝ゼミでは、2017年度より帝京大学医真菌研究センターの関水和尚教授、帝京大学知的財産センターの中西穂高教授とともに、関水教授の最新技術（乳酸菌）を用いた帝京大学発のヨーグルトの製品化を、東北協同乳業（福島県）などと協力し、福島のさらなる復興に繋がりたいとの願いも込めつつ、産学連携で分野横断的に取り組んでいます。出発点は「風評被害に晒されている東北の酪農業の支援」でしたが、私たちのプロジェクトは多摩地域の産業、例えば農業等との親和性が強いと考えました。報告では、その点を中心に「地域活性化」の視点から、ゼミで実施した、大学生のヨーグルト消費実態調査の結果も踏まえながら検討したいと考えています。

効果の見通し

多摩地域には、製造業だけでなく、農業においても様々な取り組みを実施している企業・団体が多く存在しています。私たちのプロジェクトが本格化し、ヨーグルトの流通が軌道に乗った場合、それは多摩地域に立地する帝京大学発のヨーグルトとして認知され、多摩地域の企業・団体とのコラボレーションを通じて、継続的かつ効果的に多摩地域の経済への貢献ができると確信しています。特に、多摩地域の農業は衰退傾向にあり、少しでも元気にできるお手伝いのできればうれしいです。

継続性を見通し

私たちが開発に携わっているヨーグルトは、単年度での販売ではなく、発売後、様々なチャンネルを通じて継続的に販路の拡大を予定しています。したがって、本プロジェクトとのコラボレーションが多摩地域の企業・団体との間で実現できた場合は、継続的な販売が見込めるため、多摩地域の経済に対して、継続的な貢献が実現できるのではないかと見込んでいます。

先行研究・連携団体

現在のところ、本プロジェクトは私たちのゼミ以外では、帝京大学医真菌研究センター、知的財産センター、東北協同乳業が組織横断的な産学連携という形で関わっています。なお、参考文献としては、私たちの指導教員である三竝先生が中心となって、これまでのゼミの取り組み（ヨーグルト・プロジェクトについて）を整理した、以下の論文が挙げられます。Mitsunami, Kohei and Miwa Nakai "A study on yogurt consumption: a case of industry-academia collaboration in Fukushima and Tokyo." Drug Discoveries & Therapeutics. 2018; 12(3):178-181.

まちづくりのアピールポイント

私たちの取り組みは、「産学連携」「東北復興支援」「多摩地域の経済活性化」とキーワードは色々ありますが、最も強調させて頂きたい点は、これは「机上のプラン」ではなく、色々な人たちや組織が力を合わせながら、いま、実際に進められているプロジェクトであるという点です。私たちのプロジェクトは現在進行中で未完成なものです。しかし、私たちの発表を聞いてくださった多摩地域の大学、自治体、業界団体、企業の皆様の中で少しでも興味を持ってくださった方がいらっしゃれば、是非、多摩地域の未来のために一緒に頑張らせて頂きたいと思っています。

法政大学 水野研究室 チーム水野組

対象地域：八王子市

クリエイティブシティ八王子

クリエイターの卵を育てる仕掛け

クリエイター、シティプロモーション

◆メンバー 竹端樹那、大城里奈、吉田実由、宇元望、河部文哉、本間顕 ◆担当教員 水野雅男

まちづくりの目的・概要

八王子は織物業で栄えたという、ものづくりの遺伝子がある。また、市内には芸術大学に通う将来性のあるクリエイターの卵が多くいる。こうしたクリエイティブな資源に着目し、クリエイティブシティ八王子をクリエイターの卵に対して情報発信する。①InstagramやFacebookなどのSNSでクリエイティブスポットやイベント企画や交流会の情報を発信する。②クリエイターがクリエイティブスポットを紹介するエスコートツアーの企画、実施する。これにより、八王子の創作環境の魅力を知ってもらうことで、彼らが卒業後も市内で創作活動を継続することに繋げ、クリエイティブリティをさらに高めていく。

効果の見通し

クリエイティブリティについて学んでいる八王子市の多摩美術大学、東京造形大学の学生をターゲットに絞り込み、クリエイティブコミュニティに参加する機会を提供することで、彼らの都心への流出を防ぎ、八王子市内において卒業後も活動してもらえることが見込める。

継続性を見通し

クリエイターが集う八王子の既存のクリエイティブスポット（桶屋八王子など）やクリエイターを繋げるイベントを開催しているAKITENと連携し、クリエイターが主体的に動くきっかけを生み出す実行委員会組織を作る予定である。

先行研究・連携団体

連携団体：「AKITEN」空きテナントをアートギャラリーやワークショップなどの場として提供し、空きテナントの増加という社会問題の解決に取り組んでいる。また、多種多様なクリエイターがコラボできる企画・実行し、クリエイター同士の意見交換の場としての役割も担っている。参考文献：「ポートランド・メイカーズ クリエイティブコミュニティのつくり方」（山崎満広、学芸出版社、2017）「創造性が都市を変える」（鈴木伸治、学芸出版社、2010）「CAFE: 創造都市・大阪への序曲」（佐々木雅幸、法律文化社、2006）

まちづくりのアピールポイント

クリエイティブリティに着目して八王子市をプロモーションすることを主眼としている。しかも、クリエイターの卵をターゲットして事業を展開し、彼らが八王子を創作の場とすることでクリエイティブコミュニティを充実させること、そのコミュニティからさらに広く一般に情報発信することで、効果的なプロモーションを期待できる。さらに、クリエイティブスポットやクリエイターへのインタビューを行い、事業の協力体制を模索している段階にある。

永山団地アクティブ大作戦

～学生の力で多摩に活気を！～

高齢化・団地・地域活性化

◆メンバー 大内莉奈、小山大樹、温井結、若林佑実 ◆担当教員 大崎恒次

まちづくりの目的・概要

現在、日本は高齢化の道を進んでおり、特に団地居住者は高齢化が目立つ。団地居住者の高齢化とともに、地域間のコミュニティの希薄化が問題視されている。コミュニティの希薄化は、自治会の衰退や災害時の対応など様々の問題につながる。そこで、我々は多摩市の永山団地と近隣大学を連携させ、学生を団地に呼び込むことを提案する。学生は家賃の助成を受ける代わりに、団地の活性化を目的として地域貢献活動をする。学生をきっかけとして団地内の交流を増加させ地域のつながりを深めることにより、既存住民の満足度向上と地域に愛着を持つようになった学生の定住を目指す。

効果の見通し

多摩市の永山団地住民への効果は若者世代との交流が増え、地域のつながりが強まり安心して永山団地に暮らし続けられる。学生居住者には、家賃が助成されるうえ、地域貢献活動が日頃の学びを実践できる場になったり就職活動に生かせたりするという効果が考えられる。そして、活動を通して団地に愛着を持った学生居住者や活動に興味を持った人々が永山団地に定住するようになり、永山団地を中心とした地域活性化へとつながる。

継続性を見通し

大学進学を機に一人暮らしを始める学生は毎年一定数いるため、継続して永山団地に学生を呼び込むことは可能と考える。学生へのプロモーション活動としては、大学のパンフレットやホームページへの掲載、学生居住者によるオープンキャンパスでの説明会の実施やSNSの更新などを提案する。主なプロモーションは学生居住者が行うため、団地と大学の連携ができていれば宣伝費用はさほどかからずに、プロジェクトを継続させていくことができる。

先行研究・連携団体

和田充夫・菅野佐織・徳山美津恵・長尾雅信・若林宏保（2009年）「地域ブランドマネジメント」有斐閣より、関西学院大学教授の和田充夫が提唱した「地域活性プロセスモデル」を援用する。縦軸に消費者との関係性の深さ、横軸に消費者に対して与える経験価値提案能力をとる。そして地域が有する地域資源を用いてその心理契約の成熟度、経験価値提案能力を徐々に高めていくことで、消費者は当初は訪れたいとしていた段階から徐々に交流したい、住みたいへと行動プロセスを変化させていく。このモデルに団地居住者、参加学生それぞれを当てはめて考える。

まちづくりのアピールポイント

最もアピールしたいポイントは、持続性の高いプロジェクトである点である。我々は最終的に永山団地のブランド構築を目指す。学生と既存住民の交流が盛んに行われ、永山団地が活気づき話題になることで、より多くの学生や外部住民が住みたいと思う団地となる。そして、団地としてのブランドが確立される。すると「人気の団地に暮らしている」という既存住民の満足度がさらに向上し、学生居住者の定住も望める。その結果、持続的かつ効果的な団地運営、周辺地域の活性化が可能となる。

創価大学 安田ゼミ Team owl

対象地域：八王子市

多摩に住む発達障害者が生き活きと働けるまちづくり

自覚していない発達障害者が一般雇用で定着できる

就労・福祉

◆メンバー 片田明梨、田中駿介、新井修也、出合優果、安井蓮美、松原慧人、小早川桜（当日は留学のため不参加） ◆担当教員 安田賢憲

まちづくりの目的・概要

私たちは、多摩に住む発達障害者が生き活きと働けるまちづくりを目指す。そのために自覚していない発達障害者が一般雇用で定着（1年以上の就労）できないことを解決する。この問題は本人が発達障害だと自覚していないこと、周囲の理解がないことから引き起こされると考えた。そこで私たちは自覚していない発達障害者が就職前に自覚した上で症状の対策が取れるように、「理解促進」「自覚」イベントの開催を提案する。

効果の見通し

私たちの施策の効果は3点あると考える。①学生を対象に発達障害の理解促進イベントを行った際、48名中34名が「発達障害に対しての印象が変わった」と答えているため、私たちの施策には発達障害への理解を促進させる効果がある。②自覚していない発達障害者に対して発達障害の正しい知識を与えることで自覚へ促す効果を期待する。③個別相談ブースで企業の人に来ていただき、就職マッチングを行うことで定着しやすくなる。

継続性の見通し

継続性を見通しを収益の観点から述べる。企業のニーズ調査で、発達障害に関する労務管理や採用手法の情報が欲しいと考えていることがわかった。そこで私達が発達障害者から集めた情報を企業に提供することで得る情報提供料とイベント参加者からの参加料を基にイベントを継続する。具体的には、小イベントを月4～8で開催し、半年間は20万円の赤字であるが、小イベントで集めた情報を基に大イベントを開催し黒字転換する。

先行研究・連携団体

http://www.showa-u.ac.jp/rsch_acad/midd/index.html 昭和大学 <https://kodomokokoro.w3.kanazawa-u.ac.jp/> 金沢大学 <https://beu0104.amebaownd.com/> 大学生発達障害者当事者コミュニティ BeU <http://floran-jp.com/> 障害者雇用のお花屋さん ローランズ

まちづくりのアピールポイント

今まで30社以上訪問し、当事者の方たちに話を聞きに行くことで問題の原因を見つけ出し、今の施策に行き着いた。この施策の優位性は、1つ目に自覚していない発達障害者にアプローチをしている団体は少ないこと、2つ目に健常者に発達障害の理解を促すために、VRで既にリタリコが「ASDが見えている世界」を実現しているが、私たちは差別化として、「ADHDが見えている世界」も見せることである。

多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2018 報告書

発行日 2019年3月15日

発 行 公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩

〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1 明星大学20号館 6階

TEL 042-591-8540 FAX 042-591-8831

E-mail office@nw-tama.jp